

連続フォーラム「チョゴリときもの」

在日韓国・朝鮮人～その世代と意識

財団法人 京都市国際交流協会



はじめに

今年のフォーラムは在日の世代論を深くやつてみようということになった。戦後、あるいは解放後、五十年を越え、職場や学校で活躍している人は一世はもとより三世が中心となりつつある。四世の誕生もめずらしくはない。また一方でお元気な一世もすくなくなってきた。そこで今のそのような状況にてらして世代論をたたかわせようというのが主催者の目論見であった。その結果は本冊子のかたるところであるが、まずなによりも一世の存在感のおおきさには脱帽せざるをえなかつた。そして二世からは国籍や立場をこえて定住の条件づくりをしていくことのたいへんさとそこでの自己発見の努力の尊さを垣間見た。三世からは定住を当然のこととして、その条件下で民族的マイノリティとしての自己の確立のむつかしさ、またそれに立ち向かって行く勇気をきいたような気がする。

いずれにしても、日本人と日本の社会は在日のかたがたのこのような歴史的、社会的条件を十二分に理解しなければならない。そしてそれぞれの思いに自己のいきかた、自己とのかかわりを重ねてみる努力が必要だ。

これからもこのフォーラムは日本の市民にとって以上のような発言を知る場として貴重である。関係者のかわらぬご協力を願いしたい。

京都芸術短期大学教授 仲尾 宏



チョゴリ・ファッションショー

目 次

「チヨゴリときもの」 在日韓国・朝鮮人～その世代と意識

第一回 『教育で生まれる意識』	7
第二回 『名前への思い』	49
第三回 『生きる——老後』	97
第四回 『在日の現状と未来』	139

表紙の写真 京都市国際交流会館一階ロビー陶壁画「涛涛」(とうとう)、
裏表紙の写真 同ロビー全貌
一部

第一回『教育で生まれる意識』

パネリスト

夫 ブ林^{リム} 鳩順^{クスン} 氏 (在日二・五世・団体職員)

コーディネーター

仲尾 泰典^{テジヨン} 氏 (在日三・五世・学生)

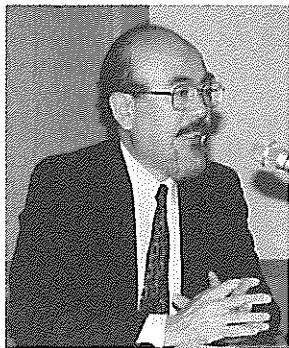
宏氏 (京都芸術短期大学教授)

一九九七年十二月十九日実施

第一回『教育で生まれる意識』

第一部

司会 お待たせいたしました。それでは、連続フォーラム「チヨゴリときもの」を開催させていただきます。この連続フォーラムも今年で第五回目を迎えます。今までと同様に十一月からスタートします。来年三月までのシリーズとなつております。今日はその一回目としまして、「教育で生まれる意識」というテーマでお話をいただきます。本日のコーディネーターをやつていただく方は仲尾宏先生です。仲尾様は京都芸術短期大学の教授でいらっしゃいます。パネリストの方は今日はお一人ですが、一人目が林鳩順さんです。林さんは現在、団体職員でいらっしゃいます。もう一人の方が夫泰典さんです。夫さんは学生の方です。それでは先生、よろしくお願ひします。



仲尾 宏氏

仲尾 毎年、お正月が近づいてきて、「もういくつ寝ると」という歌を思い出す頃になると、このフォーラムが開かれます。毎年、どういう企画をしようかということを、司会をしていただいている鄭昌根さんははじめ協会の方とお話をすると、今年については、いろいろ世代の異なる方をお組み合わせてお話いただこうという企画とうか、思い付きがありました。世代というのは、若い、ご年配ということもあります。同時に在日の方については、一世、二世、三世といふ世代がございます。なるべく一回毎に異なった世代の方にお話いただいて、そして最後にはそれを

まとめるような形で、世代を越えた方々とのディスカッションをやろうじゃないかと、こんなアイディアが生まれました。

今日は第一回目ですから、一番若い世代をということで考えました。今、若い世代には四世の方がおられます。四世の方といふとまだ子どもさんとして、お話を直接伺うのは無理かなということもあります。少し趣を変えました。

今日、お二人のパネリストがおられますけれども、そのうちのこちら側にいらっしゃるのが林鳩順さんでして、後で詳しく「自分から紹介がある」と思いますが、在日の一・五世の方でいらっしゃいます。なぜ一・五世かということは後ほどご本人からお話があると思いますが、林鳩順さんは子どもさんがお一人おられます。小学校二年と五年の子どもさんが、その子どもさんを通じての『教育で生まれる意識』ということを中心にお話ををしていただきます。それからもう一人の夫泰典さんにつきましては、現在京都外国语大学の中国語科の一回生でいらっしゃいます。三・五世ということです。そういう意味で、林さんは子どもの教育を通じて、夫泰典さんには三・五世という若い世代の立場から教育から生まれた意識をお話していただきたいです。

教育というのは皆さんご存知のように、在日の方々の八割位の方が日本の学校で教育を受けていらっしゃいます。そこでは、いわゆる民族教育というものは、民族学級のある学校を除いてはほとんどございませんので、在日としての意識が生まれようがないというのが、率直な実情であります。林さんの子どもさんは民族学校へ行つていらっしゃいます。夫さんも今は京都外大という日本の大学ですが、小中高と民族学校で学んでこられました。そういう中から民族意識というものが、後の世代、若い世代、つまり三世、四世にどのように伝わっているのか、あるいはどういう問題があるのかということをお話いただこうということになりました。

民族学校については、皆さんのお手元に『在日朝鮮人の民族教育を考える』という学校法人京都朝鮮学園がお出でおられるパンフレットをお配りしております。京都には五つの民族学校がござります。その他に京都韓国学園というのがあります。一九四六年、四七年からスタートしていますから、創立五十周年という長い歴史を数えています。いろいろ苦難の歴史でもありましたけれども。民族学校そのものについては、今日お話をただく時間がございませんので、このパンフレットを一応参考にしていただきながら、お二人のお話を聞いていただけたらと思います。それではまず、林鳩順さんからお願ひいたします。



林 アンニョンハシムニカ、こんにちは。まずは自己紹介を簡単にさせていただきます。私は京都で生まれて育ちました。父は韓国の慶尚北道という所で生まれて、十六歳の時に勉強する目的で、密航して一人で日本に渡ってきました。母は北海道の夕張という所で生まれた二世です。私の両親は、私が生まれた時にクスンという名前を付けてくれまして、今日まで私はずっと本名で暮らしてきました。

父は頑固な一世で、家では日本語を一切使いませんでした。日本の方々とお話しする時は勿論日本語はちゃんと話せましたけれど、家族やお母さんにも絶対に日本語は使わせないようにしていました。祖国への思いが強かつたので、テレビがまだなかった頃、國からのラジオを聞くためにアンテナを高く立てて、毎朝目覚まし時計代わりに朝鮮からの放送を聞いていました。家中には、壁一面にハングルで書かれた本がいっぱいありまして、沢山の本に囲まれて生活していました。

こんな家庭で育ちましたので、私は何の疑問もなくそのまま朝鮮の学校へ入学いたしました。ただ私は、学校に入る一年前、幼稚園の時期ですが、登園拒否をしました。その幼稚園に入る前は、三条京阪にありますだん王保育園というところに行っていたんですが、母が仕事をしていたので毎朝預けられる時に大泣きしていました。園長先生はじめみなさんに迷惑を掛けていたということも覚えています。保育園を経て幼稚園に入った時は、これは今まで誰にも話していないんですが、友達からも先生にも朝鮮人だということで差別されているんじゃないかなと、子ども心にもそんな気持ちがあつて、それが四歳か五歳位でしたが、それから幼稚園に行きたくなくなり、全く一日も行かなかつたんです。誰が聞いても、幼稚園が嫌いだからという言葉ですと通していました。ですから、学校に入る一年前の記憶が不思議とほとんどないんです。そんな私ですが、今も南区の勧進橋にあります京都朝鮮第一初級学校に入学してからは、明るくておしゃべりな普通の女の子になりました。

私が三年生に上がる頃に、松尾橋にあります朝鮮第一初級学校ができまして、そこに入りました。六年間、小学校の生活で一番思い出に残っていることは、毎朝、誰よりも一番早く学校に行って、ゴム跳びとか縄跳びとかドッジボールとかして遊んだことです。その後、銀閣寺にあります朝鮮中高級学校に入学しまして、六年間そこで勉強しました。小学校の頃は今のように制服はなくて、その頃は手作りのチマ・チョゴリとかを、母が水玉模様や花柄などのいろんな洋服の生地で作ってくれて、喜んで着て行きました。中学と高校は紺色のチマ・チョゴリの制服で通いましたので、通学の行き帰りなどは、ご近所の方とか毎朝見かける方みなさん挨拶したりして、親しく過ごしてきました。

十二年間の民族教育を通して振り返ってみると、苦しいこととか辛いことも沢山あつたんですけども、こうやって今日お話をすることになつて、思い出してみると楽しい思い出が沢山残つていて、本当に朝鮮人として胸を張つて生きていける民族教育を受けさせてくれた両親に感謝をしております。その中

で、民族学校がどういうふうにして建てられたか、また私たちがこの学校をどうやって守つていかなければならぬのか、そういうことが学校生活の中でも一番心に残っています。

誰もがそうですけれども、高校卒業してどうすればいいのかを、いろんなことを友達や先生、また両親と相談し合つて、進路について考えてみました。それで、今まで両親にあまり無理を言つたことがないんですが、生まれて初めてわがままを言いました。東京にあります朝鮮系の大学校に、それも四年制の大学校に行きたいと言つたんです。先ほど言いそびれましたが、私は幼い頃から本当に貧しい家庭で育ちました。そういう苦しい中から、私と弟と妹の三人を朝鮮の学校に入れて勉強させてくれましたので、あまり無理は言えないということはよく分かつていたんですけど、その時は自分で決心して決めました。私が小学校の頃、父親は食べる物がなくて栄養失調で長い間寝込んでいたほどです。その時の病名なんかは全然知らなかつたんですけど、最近それを聞かされてショックでした。東京で四年間、全寮制なんですが朝鮮系の大学校に行つて学んだことは、私のその後の生活に大きなプラスになりましたし、沢山のことを学んで卒業きました。

卒業後、私は母校であります京都朝鮮中高級学校で、中学校の国語（朝鮮語）の先生を八年間勤めました。その間に結婚して出産もいたしまして、一時家庭に入つていたんですけども、今度は子どもたちじゃなくて社会人になつた方に母国語を教える講師が必要だと聞きまして、折角苦労して大学に入つたのに、このまま家庭に入つてしまつのも気がひけるという面と、まだ私には何かできるんじゃないかなという思いで、子育ての真っ最中でしたけれども、決心してまた社会復帰することになりました。それで今現在に至つております。

今、私には一人の子どもがおります。ご紹介にもありました、五年生の娘と二年生の息子ですが、北区にあります京都朝鮮第三初級学校に通つております。私がそうであつたように、子どもたちも生ま

れた時から家の中では朝鮮語を使つたり、朝鮮の本とか音楽とかもありましたし、また一世であるおじいさん、おばあさんも近くにおられたりして、そういう影響もあって、自然な形で民族教育を受けるようになりました。

私の頃はなかつたんですが、今は民族学校に付属幼稚園というのがありますて、そこに通うことになりました。働いていましたので、乳児期には山科にあります安朱保育園で見ていただき、その頃の思い出も沢山あるんです。本名でいってましたので、園長先生やお母さん方からいろんな質問を受けたり、保育園での生活は私にとつて初めて日本の社会と言いますか、日本の方に子どもを預けるということでも緊張もしましたけれども、また何かすぐプラスになつた時期でした。

幼稚園に送ることになつて、周りから一番意見があつたのは、距離が遠いということでした。片道一時間半以上かかりましたので、朝は七時過ぎにお弁当を持たせて幼稚園に送るんです。最初はいろいろ心配しましたが、バスに乗つてすぐ眠つてしまつて、園に着いてすぐに走り回つて、毎日本当に伸び伸びといろんなことを吸収して帰つてきました。朝鮮の幼稚園でも連絡帳というのがありますて、私は朝鮮語で毎日書き記していましたんすけれども、毎日の子どもたちの変化を見て、周りからは「そんな遠いところへ通わせて何という親だ」との声も聞きましたが、私はすぐにここで良かったなどということは実感できました。

学校へ入つてからは本当に目まぐるしい毎日で、子どもを小学校に上げる時には、母親にとつても初めて学校に入れる親として同じ一年生の気持ちでスタートしました。私の時代と違うなあと一番思つたことは、今は近くの小学校との交流が盛んに進んでいるということです。私の学校は北区にあるんですけれども、一つ事件がありまして、それをきっかけに交流が始まつたと聞いております。子どもたちが学校の帰りに石を投げられるという日が何日も続いたんです。それで、一体誰がそんなことをするのか

調べようということで、見張つたりして分かったことは、近所に通う日本の子どもたちのグループだつたんです。でも、そのグループのリーダーというのが、朝鮮の子どもだつたんです。そういうことが分かつた後、すぐにその学校の校長先生はじめ北区にあります近くの校長先生方が集まられて、こんなに近くに朝鮮の学校があるので、そういうことを良く認識してなかつたり、お互いの理解が足りないから起きた事件だということで、もつと交流が必要なんぢやないかという話し合いがされたんです。それから先生同士の交流、日本の学校の先生方が学校に見に来られたり、授業参観に来られたり、そういう中で子どもたちの交流も始まりました。

私の学校はもう三十年にもなりまして建物は昔のままと変わらないので、設備も古くて大変なんですけれども、見に来られた先生方が、少しでも学校のためにいろいろな意見を出してくださいました。また学校給食もありませんので、一度給食を味わってみてはどうですかと誘つてくださつて、全校生徒を給食に呼んでもらつたんです。私もたまたまその時に一緒について行くことになりました。お母さん方の「オモニ会」(母親の会)というのがありますので、そこで全校生徒分の手造りのキムチとチヂムとかを焼いて一緒に持つて行つたんです。そして教室に入つて、一緒に肩を並べて給食のお盆や食器を持つて同じ物を食べながら、楽しい一時を過ごすことができました。

そういうことを通じて、いろんな交流が始まつて、友達もできました。朝鮮語の名前を覚えてくれたり、また単語を知つたり、文通なども始まりました。その後、先生方の研修で、私もまたその時に呼ばれたんですけど、チヂム(朝鮮のベタヤキ)とかトック(一口大のおもちの入つたスープ)とか食文化を通じて交流したいという要望がありまして、先生方とお母さんとの交流もありました。私の学校はプールもなくて、体育の授業の時間にプールに呼ばれたり、キャンプとか遠足なども一緒に行きました。子どもの時代からそういう自然な形で朝鮮と日本の子どもたちが一緒に付き合いできて、本当に

良かつたなと思つています。子どもに面と向かって、羨ましいなあといつも言つているんですが、私も子ども時代にそんな交流ができたら良かつたのになあ、とつくづく思つています。これから育つしていく子どもたちに、少しでもこういう環境を与えたれた日本の社会と私たちの民族学校が歩んできた道、本当に良かつたなあと思つています。

私の子どもやクラスのみんなは、学校の中では朝鮮の子どもたち同士ですが、家に帰ると日本の学校に通う友達と同じように遊んで、同じ物に興味を持つて、そうして過ごしています。今は下の子どもはポケモンとかヨーヨーとかミニ四駆とかですし、上の子どもはいろんなキャラクターのものを好んで集めていますし、そういうところから見ると、どこからどこまでが朝鮮人として意識して、後は日本社会に染まっているのか、境目のないほど自然に育つっているんじやないかなと思つています。私は、自分の子どもや民族学校に通つている子どもたちが、そのままの状態で大人になつてくれたらいいなあと思っています。

今、私たちの生きている社会は、多文化社会、国際化の時代、高齢化社会が待つてゐるなどいろいろ言われています。日本にはいろんな文化が共存しているので、こんな有利な条件のもとに住んでいる外国人として、まず自分の国の文化やいろんなことをよく知つた上で、日本のことも知つて、また世界のこともいろいろと分かり合えたらいいな、と思つています。また、民族教育を通してそういうことが可能なではないかなと思つています。私はまだ知らないことや、勉強しなければならないことが沢山ありますけれども、そういうふうになつたらいいなと思えただけでも幸せだなと思つていますし、またこれから社会はそういうふうになつていくと確信している面もあります。

最後に、『教育で生まれる意識』というテーマをいただきましたが、教育というのは決して学校だけの教育ではないと思います。生きてから学校に入るまでの家庭教育、また学校に送つてある間も家庭教育

育は続きますし、学校を出てからの社会教育や生涯教育においても、そういうものがバランス良く噛み合つていけば、一人一人個性豊かな立派な子どもたちが育つんじゃないかと思っています。

今、私は伏見地域を中心に、同胞たちのためのボランティア活動をやつているんですけども、その中で私自身もまだまだ知らなかつたことを沢山体験しております。伏見地域にも一世の方が沢山いらっしゃいます。本当に苦労して日本に渡つてこられて、まだまだ日本語を知らないまま今までこられた方とか、字が読めない方とかが沢山いらっしゃるんですけども、せめて老後だけでも生き生きと暮らしでくださいと、『銀のかんざし』という老人クラブを結成しまして、正式に伏見区老連にも加盟しました。この間、七十歳になります会長さんと忘年会に参加したんですが、そこに区長さんはじめいろいろな役所の方、各会の会長さんとかが来られて、本当に大歓迎してくださいました。「これから共に学んでいきましょう」と励まされました。また、デイサービスのボランティアの活動の方から「リムさん、デイサービスの講習とかもありますので、是非来てください。今日日本社会といつても若い人たちがなかなか来てくれないし、リムさんのような方が来ててくれて、一緒にボランティア活動をしてくれたら有り難いんですけど」という声も掛かりまして、今まで私は同胞社会でしかそういうことを考えてなかつたですけれど、そういう声がかかって、お手伝いできることがあればやつてみたいなという気持ちにもなりました。また、「いろんな集まりでチマ・チョゴリなんかを着て、歌や踊り楽器なんかを聴かせていただきたい」と言われて、「そういうことだつたらどこへでも行きますよ」と軽く返事してしまいました。こうやって民族教育を受けて、同胞社会にどっぷりつかつて、日本の方とお付き合いする機会が少なかつたようにも思いますが、まだまだこれからだと思ってどんどん外へ出て行こうと思います。

私は、親の姿というのは大切だなあとつくづく思うんです。私の親も言葉は少なかつたですが、本当にちゃんと教育してくれてたんだなあと思います。ですから、既に親になっている方も、これから親

になられる方も、特に朝鮮のことについて、また民族学校についてもつと知つていただきたいと思います。そうすることによって一番身近な国際化ができるんじやないか、多文化社会の中で日本の文化をもつとより深く知ることができるんじやないかなと思います。

自分のことをより良く知つて、お互いの文化の違いや共通点も知つて、またお互いが誇りを持つて生きていける社会であることを願います。また、子どもたちが個性豊かな良い人間に育つていけるよう、民族教育を通してそういうふうに育つてくれると確信しております。子どもたちが社会に出た時に、もつともつと生き生きと自分の大きな夢を持つて、またそれを実現できる社会になるようになつていくと思って、私もそこで貢献していくたいと思っております。私の話は以上です。

仲尾　どうもありがとうございました。コーディネーターとして、林さんにちょっとお尋ねしたいことがあります。日本の学校との交流が、昔と違つて格段に進んでいるというお話をいただきました。本当にいいことだと思います。その中で林さんのお子さんお二人には、日本人の子どもの友達が、地域なり学校周辺でもできておられますか？

林　はい。できています。うちの下の子どもはチヨンハと言ふんですけど、どうも名前が呼びにくそで、この間なんか、主人が玄ですので「ゲン君」と呼ばれて、上の娘はチナといいますので「チナちゃん」というふうに、お姉さん方も幼稚園に通つている子どもたちも名前を呼び合つています。地域に子供会というのもありますて、そこには私学の学校に通つている子どもたちも一緒に入つて活動しています。

仲尾 そういう場合、林さんの子どもさん方は、「この子は朝鮮人の友達」「この子は日本人の友達」そういうところをある程度意識していらっしゃいますでしょうか。あるいは意識して、その違いを自分で見つけてそれぞれに違う付き合い方をしておられますか。それともあまりそんなことを意識しないで、友達として付き合っておられますか。

林 私の家は山科からちょっと外れた大津市横木というところで、近所には朝鮮の友達が全然いないんです。ですから、近所では日本の友達ばかりで、学校へ行きますと朝鮮の友達ですので、家にいる時は、日本人の友達と子ども同士で結構学校の話とか、お互いに聞き合ったりします。最初は本当のことを言うと、何か入りにくいところもあつたようですが、子どもつてすぐに友達になれますよね。そういう中で家も行き来して、ノートとか教科書を見せ合つたりしてますので、一応使い分けというのではないですが、日本人の友達ということは頭にはあると思います。

仲尾 そうすると、日本人の友達と付き合う時は日本語で、朝鮮人の友達と付き合う時は朝鮮語でということですか。

林 そうですね。でも、友達から電話がかかってきた時は日本語を使うんです。朝鮮語でずっと話していると堅苦しいような気がするようです。学校では勿論日本語は禁止されていまして、日本語の授業が一週間に五時間ほどあるんですけど、日本語の授業は先生が日本語で言いますし、答えも日本語ですることになりますが、それ以外は朝鮮語です。ただプライベートになりますと、友達と約束をして遊びに行つたり、電話がかかつたりすると、朝鮮語を使わなければならぬけど日本語も使ってみた

いという思いがするようで、私にもそういう経験がありますので分かるんですけど、使い分けています。日本の友達も「挨拶はどういうふうに言うの?」とか、私を「オンマ」と言っていますので「オンマちゃん」と呼んでくれたり、そうして単語も少し覚えてくれています。日本人のお子さんが「私たちの幼稚園には入れないのか」「朝鮮語を覚えられるし、日本語ももちろん知ってるでしょ」と、真剣に聞いてこられた方もいるほどに、自然に幼稚園時代も過ごしていました。

仲尾 ありがとうございます。今、お聞きしていますと、家庭や地域の中で自然に日本の文化、朝鮮文化、いわばこのダブルの文化を身に付けた子どもたちが育つておられる、このようにお見受けしました。

それでは、その次は夫泰典さんに、在日三・五世という世代ですが、「自身の今までの学校生活を振り返りながら、教育から生まれたものをお話いただきたいと思います。



夫泰典

泰典氏

夫 初めまして。今、ご紹介にあずかりましたブ・テジョンと申します。僕の家庭環境としては、両親共々、朝鮮学校、民族学校を最後まで出ているんです。朝鮮学校に入ったのは小学校四年生なんですけれど、それまでは日本の小学校に通っていました。突然小学校四年生から朝鮮学校に入るということを親が決断した動機を、四日程前に電話して聞いてみたんです。一言で言うと、すべての面に於いて芯のある強い朝鮮人に育てたいというのが主な理由でした。

戦後五十年経ちまして世代も交代してきましたので、言葉を完全に話せる朝鮮人とか、文化を確実に

知つてはいるとか、しつかりした朝鮮人というのがどんどん減つてきてます。そういう中で、自分の子どもだけは、言語もはつきりしゃべれるし、文化もそれなりに身に付けた強い朝鮮人に育つてほしいと願いがあつて、月謝も普通に比べると何倍も高いし給食もありませんが、敢えてそういう学校に自分の子どもを入れるというのは、強い朝鮮人を作りたいという確固たる意思があつたと聞きました。

他にも差別に負けない朝鮮人ということ。実際、今の社会というのは、時代が経つて、僕ら在日朝鮮人にとつても住みやすくなっていますけれども、反面あちこちで草の根の差別と言いますか、受験資格にしても、公務員採用の国籍条項をとつてもそうですが、やはり差別というものは残つていますから、そういうふうな差別に立ち向かつていけるような強い意思を持たすためにも民族教育を受けるように決心ができました。

僕は、小学校四年生から高校三年生まで朝鮮人学校で教育を受けたんですけども、まず入った当初は、何か違う異文化に触れているようなおかしな感じを受けました。授業中もそうですが、友達も先生もみんなが全て朝鮮語をしゃべっているわけです。僕はその時朝鮮語は知りませんし、何を言つているのか全然分からなくて、まるで外国にいるような感じでした。授業内容にしても、朝鮮の歴史や地理、音楽の時間でも全部朝鮮語の歌ですから、今まで生きてきた自分の中に全くなかつたものがそこで進行されている状況でしたので、本来あるべき自分の民族、自分の文化に接しているにも関わらず、違う文化に接しているような、何とも変な感じがしていました。

それで今考えてみると、小学校四年生から高校を出るまで、朝鮮人学校で民族教育を受けてきた成果としましては、親の望んだような強い朝鮮人の青年になれたと僕自身では思っています。実際、差別されてもその差別に何度も立ち向かつていけるような強い意思というのを持てました。文化もそれなりに知りましたし、言葉もそれなりにはしゃべれるようになりました。しかしそれだけではなくて、もつと

広い意味で、民族としての自分、芯の強い朝鮮人、強い自分というのができました。

例えば、僕は大学で韓国文化研究会というサークルに入っているんですけども、ここにおいても、教育を受けてきたので、朝鮮人学校を出ていない在日学生の方々に朝鮮語を教えるとかいうことにも力を貸せますし、いろいろな面で僕と違う状況に置かれた学生たちに何かと力になれるというのが大きかったです。僕はそのサークルで、初めて民族教育を受けていない在日学生に会つたんですが、その人たちと自分を比べてみると、三人ほど友達に聞いてみたんです。

まず四回生の先輩に、高校の時分は実際にどうだったのかを聞きました。その方は大阪府の南の方に住んでいるんですが、そこではやはり朝鮮人が少ないという状況があったかもしれません、朝鮮人とばれるのが一番怖いと言つていました。仲の良い友達でもばれたらどうなるのだろうかと、そんな不安がつねに付きまとつていたということでした。家庭環境にしても、今更自分は朝鮮人だと民族意識を出すよりも、無理をして朝鮮人だと言わずに日本人として十分に生きていけますから、今更言つてもしょうがないから日本人で生きていくこと、一時なんか帰化まで考えたと言つてました。そういうふうに高校時代を過ごしていたそうです。

もう一人は、僕と同じ歳で一回生です。その人とは状況が近くて、周りの友達みんなは自分が朝鮮人であることを知つていたし、自分から自分は朝鮮人だということに対して臆病さを持つことはなかつたと言つっていました。これはやはり、聞いてみると、親も今僕が入つていて、そういう民族意識をすごく持つていたことが左右していると思います。

最後の一人ですが、彼も朝鮮人として違和感はなかつたと言つていました。その友達の妹さんも朝鮮学校に通つていますし、先ほどの友達と同じように親の意向というものが強かつたので、朝鮮人であるということに臆病さを持たなかつたということです。

しかしやはり、そういうふうに聞いてみて、僕と彼はどう違うんだろうと思った時に、四回生の先輩が「自分に不足しているものは何だ」と僕に尋ねたんです。よく考えてみると、朝鮮学校というのは何かと閉鎖的と言いますか、周りが在日朝鮮人ばかりなので日本人と接する機会がほほありません。友達もみんな朝鮮人です。信じられないようですが、人生は長いですけれども、日本人と接せずに朝鮮人だけで生きていけるんです。そういった意味で全然隔離されている面があつて、それは僕個人だけではなくて、朝鮮学校を取り巻いているデメリットというか、問題点なわけです。

逆にその先輩に足りないものは何か聞いてみたら、朝鮮人としての民族意識が薄いというか、出したくてアピールできない。名前や国籍だけでしか、自分を朝鮮人だとアピールできない。先ほど僕が言ったことと表裏一体なんですけれども、逆に彼らは在日朝鮮人と接する機会がなくて、在日朝鮮人として孤立してしまっていうのがデメリットだと言つていました。

そういうふうにメリット、デメリットありますけれども、僕自身が在日朝鮮人の若い学生としまして、これから将来生きしていく中で考えている意識とか抱負としては、在日朝鮮人と日本人の共生、共に生きるのが夢なんです。共生と言いましても、ただ単に共生と言うんじやなくて、全てをさっぱり流しまるというか、過去の清算を行つて、何のわだかまりもなく共に生きていくということを、僕自身これから生きていく中での目標として立てています。やはり、そういう過去の清算なしに共生ということは、望むべきではないと思うんです。ちょっときついことを言うようですが、過去の清算はきつちりするべきだと思つています。

今、日本では世界各地の文化が入ってきてています。ヨーロッパや南米、アメリカ、東南アジアなど、多文化の時代になっています。多文化ということを考えると、自分たち朝鮮人の文化と日本人の文化を互いに理解して共存していくことが、僕の中では二つ目の夢なんです。実際、国際化と呼ばれて

いますけれども、その反面では先ほど述べたように国籍条項とか受験資格とかで、ある程度差別はされているんです。そういうふうな矛盾点と言いますか、片方では国際化を叫んで、片方では差別をする。僕らみたいな在日朝鮮人は、外人ですけれども、本当に隣人を差別しながらも国際化を叫ぶ。そんな矛盾をなくしたい。これは在日朝鮮人だけじゃなくて、日本人の方々と一緒にそういう矛盾をなくしたいということを、住みやすい世の中を作りたいという意味で、僕のこれから抱負、そして目標としています。

最後に、僕がこれから生きていく中での生き方について、これから人生長いですが、おそらく何らかの差別を受けると思うんです。そういう差別を避けて通らない。人生で差別を避けて通りますと、自分の生きる場所がどんどん狭くなってしまいます。差別を避けて通らないというのが、僕の若い（三・五世ですが）朝鮮人としての意識と言いますか、生きてゆく中での目標なんです。

先ほど述べました受験資格のことなんですが、この場をお借りして申し上げたいことがあります。僕の知り合いで、ある予備校のチューター（生徒の世話役）をしている方がいまして、手紙を貰いました。その方の持っている生徒がある大学を受験したんです。でもそこには受験資格がなくて、願書を受け取つてもらえたかったという話がありました。そういう意味で「存じの通り、一部ではまだ受験資格がないんです。

最後にお願いがあるのですが、在日朝鮮人の朝鮮学校出身者の受験資格獲得へ力を貸してもらいたく思います。緊張して話がちょっと早く済んでしまいましたが、以上です。ありがとうございました。

仲尾 どうもありがとうございました。京都市は実は約三万八千人の在日韓国・朝鮮籍の方が住んでおられます。そうしますと、百人に三人か四人の比率になります。今、お話を聞いていますと、ほとん

ど朝鮮人だけで接しているような地域と言いますか、社会とか、家庭とか、そういう方があるということを知りまして、それはそれなりに一つの社会を作つて頑張つておられるなあという気がいたしました。それと同時に、強さとということでも言わされましたけれども、普通の日本の学校に行つている同胞たち、友達が逆に日本人とばかり接していく、ほとんど同胞と接する機会がないという、そういう非常に極端な二つの例があるということを改めて痛感いたしました。

夫さんにお聞きしたいんですけど、あなたには在日の友達、サークルの大学の友達以外の、小中高を含めての日本人の友達がありましたか。今も親しい友達がありますか。

夫 大学に入つてできましたが、あまりそれ程親しくはないです。

仲尾 では、日本人との友達はまだこれからですか。

夫 そうですね、はい。

仲尾 それから、先ほど言わされました三人の韓文研に入つておられる方で、最初の人は日本名だとすぐ分かりましたけれども、二人目、三人目の人は名前はどうされていましたか。

夫 二人目の方は、通名を使ってました。三人目の方は、日本読みですけれども本名だったようです。

仲尾 そうしますと、全く通名の人、日本読みの本名の人、それからあなたのように最初から本名だ

けど、そういう組合せというか、タイプがそれぞれ違つたわけですね。

名前の問題は次回の課題でもありますけれども、どのように生きていくかということについて、自分を朝鮮人としてさらけ出していくというか、そうして生き通している人と、そうじやない人と、そういう差もあるようですね。

夫　　はい。

仲尾　ありがとうございました。少し時間をとつていただきてもいいんですがお二人に一言ずつおたずねします。比較的お一人は同胞に囲まれて、そういう中で暮らしていらっしゃるわけですが、それでも日本人との付き合い、それからいろいろな場での日本社会との関わりの中で、いわゆる被差別体験として、本当に辛かつたことや腹が立つたこと、沢山あるかもしれませんし、幸いにして少ないかもしれません、ゼロではなかつたと思いますので、その当たりのところ、率直に一番たまらなかつたことを、お一人ずつ少しお話していただけませんでしょうか。林さんから、それは……。

林　記憶にないほど、ないと言えるかもしません。先ほどちょっとお話ししましたけれども、幼稚園の年中の頃のことですが、男の子が私を見て「朝鮮人」とか「朝鮮帰れ」とか言ふんです。その子は何も知らないでしようけど、たぶん家でご両親がそういう事を言つていたんだと思うんです。確かにその頃はそういう時代だったんだな、ということは痛感しております。以前は朝鮮の学校が日本の学校と交流を持つこともできず、本当に今とはかなり時代が違うんだなと思っております。幼稚園でそういうことがあって、私もそれを親にも言わなかつたりして、それで登園拒否という態度で絶対行かないという

気持ちを持つていたことは、はつきり覚えているんです。

先ほどは言わなかつたんですけど、その子がまた朝鮮の学校に来ていたんです。同級生だつたんです。小学一、三年の頃に私がそのことを男の子に言うと、本人は全然覚えてませんでした。ただ、つい最近、子どもの行つてゐる学校であつた事件のように、同じ朝鮮人の子ども同士でも、朝鮮人ということが腹立たしいのか、恥ずかしいのか、朝鮮人の子ども同士で差別し合つたりすることによつて、自分が朝鮮ではないということをアピールしたいのか、隠したいのか、三十年以上経つた最近でもまた同じようなことがあつたということを一番心に残つてゐることです。

仲尾 ありがとうございました。では、夫さんお願ひします。

夫 腹立たしいことと言えば、民族学校に国から教育助成金が出ないわけで、そういう面で親がとても苦労していることです。もともと僕の家も昔はそれほど裕福じやなかつたんですけども、そういう中でも普通の日本の学校よりも何倍も高い月謝を払つて行かせてくれた。毎晩夜中まで、僕が寝てゐる間も機械の音が鳴つていましたから、父も母も全然寝ていませんでした。そういう面から、僕らと一体何が違うのかと。そういうふうに教育助成金が出ないだけでも随分大変だつただろうし、ましてや給食もなく、朝早く起きて弁当を作つて、とても親が苦労したことが印象的で、また憎たらしく思つています。

仲尾 ありがとうございました。つまり、そういう制度上の差別が、生活の苦しさ、しんどさということになつて現れてきているということですね。

それから先ほど、夫さんがおっしゃっていた大学の受験資格のことにつきまして、一言だけ説明を申し上げておきます。文部省は民族学校、つまり朝鮮学校や韓国学校は各種学校という制度にある学校だから、大学受験資格はないという見解なんです。しかし、民族学校はいずれも日本の学校と同じ中高のカリキュラムがありまして、内容的には遜色はない。そういうわけで、私立の大学、それから公立の大学は、受験資格を次第に認め始めています。いろいろ在日の方や日本の方々の運動がありまして、昨年末では公立大学、私立大学の五割以上の大学が受験資格を認めました。けれども、国立大学だけはまだゼロなんですね。京都でも、最後に残つております京都市立看護短大が明年度から受験を認めるところになつたということが、ごく最近、新聞紙上で報じられた通りです。そういうわけで少しずつ門戸は開かれておりますが、大本の文部省が頑なな態度をまだえていたために、国立大学だけが取り残されたような形で、まだ受験資格を認めない、こういう事情になつております。従つて、国立大学を受験しようと思えば、日本の定時制、通信制の高校に在籍して大検を受ける。大検に合格して初めて日本の国立大学を受験できる、どういうような大変な回り道をしなければいけないという問題が彼の指摘したことになります。

また、公務員の採用制限の国籍条項については、多くの地方自治体では地方公務員法に国籍制限はありませんからOKしていますが、政令指定都市や都道府県については壁が厚い。京都市では一般事務職、技術職、学校事務職、消防職、この四職種、四職種と言いましても市職員の全体の数から言えば相当数に上るんですが、その門戸がまだ開かれていないというような現実であります。そういうことが、夫さんが言われた制度的な差別が今の状況であるということを、ちょっとご報告申し上げておきたいと思います。

今から少し休憩をいただきまして、その間にみなさまからお一人に対してのいろんなご意見、ご質

問があると思いますので、質問用紙に記入していただいて、それを整理しながら後半のセッションになげたいと思います。それでは鄭さん、時間などについてお願ひします。

司会 第二部の質疑応答なんですけれども、三時十五分位から始めさせていただきたいと思います。意見箱を前に置いておきますので、お手元の意見用紙にご質問あるいはご意見などを書いて入れておいでください。よろしくお願ひします。

第一部

質疑応答

司会 大変お待たせいたしました。それでは第一部の質疑応答に移りたいと思います。みなさまからのご質問あるいはご意見をもとにお話いただきたいと思います。それでは、よろしくお願ひします。

仲尾 大変長らくお待たせいたしました。今日はみなさま方のお顔を見ていると、勿論初めての方も沢山いらっしゃって、恐らく最大の人数じゃないかと思うんですが、質問も一番沢山いただきまして、全部で二十のご意見、ご感想、ご質問がございました。ご感想だけのものがありますし、林さん、夫さんそれぞれへご指名のものもあります。更に、どちらへの質問ということでなく尋ねてらっしゃる方もあります。具体的な個人へのご質問もあれば、中にはとても大きく大きい、「韓国大統領選挙の感想は?」とか「韓国経済はどうなる」とか、これはお一人どころか誰の手にも負えないような質問もあります。その辺のところは、時間の問題でだけじゃなくて、私もこのお一人もスーパーマンではありませんので、

お答えいただく範囲はごく限られていると思つていただきて、お答えがどれほど具体的に届くかどうか、その辺のところは今私が申しましたような事情を斟酌していただいた上で進めさせていただきます。

最初に感想めいたものを中心に読ませていただきます。一応、どんな意見も今まで同様、読むだけは全部読ませていただきます。その内容についてのみなさんの「こういう意見もあるんだな」「ああいう極端な意見もあるんだな」というご感想があつた方が、今日のセミナーからプラス面、マイナス面を含めていろいろと学んでいただけることがあると思いますので、全部一通り読ませていただきます。まずは最初の方。

一、「今、日本の各地でアメリカ兵の軍事演習がされたりしておりますが、そういうのに關してどう思われたりしますか。私は自分の国が土足で踏まれているような気がして腹が立ちます。私は日本国民の日本民族と自分のことを思つております。林さんや夫さんは日本国民で韓国民族だということだと思つております。」

これは私なりに解釈しますと、日本の住民で韓国あるいは朝鮮の民族に属しているというように解釈されていると思います

「だから早く選挙権など与えられるべきだと思います。」

「ううううう」意見が一つです。一番目の方。

一、「この会には初めから出させていただきて、沢山のことを教えていただいたことを有り難く感謝しております。そしてこの会がこれからも引き続いて開催されますように、切に願つております。今日もお若いお二人の真摯なお話を伺えて感銘深くなりました。在日の若い世代の方が伸び伸びと生きられ

るこの京都、そして老いた方が安らかに生きていかれる京都を共に目指して、帆をあげ行動していきましたと願っています。お二人のこれからのご健闘を祈っています。」

お二人目の感想です。

次に三人目の方です。

三、「お二人のお話、興味深く聞かせていただきました。今年から職場の窓口で外国人登録を担当をすることになりました。まだまだ認識不足のままやつており、少しでも勉強になればと参加いたしました。朝鮮人学校に通わされる親御さんはとても民族意識が高く、経済的にも裕福な方が多いと聞いております。林さんの話の中で、日本の小学校との交流があるとのこと。とても良いことと思いました。小さい時からお互い交流を通じて垣根を低くしていけたらと感じました。夫さんのお話で、朝鮮の人だけで日本人と全く関わりなく暮らせるとのこと。ちょっと意外でショックを受けました。また大学を受験するため、私たちには分からぬ苦労をされていることを知り、一日も早く資格が認められることを祈ります。」

次に四番目の方。

四、「私は左京区に住んでいますが、小学校の頃からバスで通学していく、行き帰り、民族学校の生徒さんと時々会うことがありました。その時に、どんなきつかけだったかは忘れましたが、多分バス待ちの順番のいざいざで、相手に「朝鮮」と声を合わせてしましました。小学校三年生位のことですが、誰かから教えられたことでもないでしょうに、何故そんなことが言えたのか、何処からそのような情報が入ったのか、先ほど林さんはその頃はそんな時代だったとおっしゃいましたが、時代はあまり変わつ

でいないうです。自分の子どものことを考えて、考え込んでしまいます。勉強不足で申し訳ありませんが、民族学校では、いわゆる日本の侵略戦争のことを、どのように取り上げられているのでしょうか。興味本位なことをお聞きしてすみません。」

「ということですが、民族学校の教育内容については、後ほど林さんから述べていただくことにいたします。次の方に参ります。

五、「朝鮮学校に公的援助がないとのことです、朝鮮学校のみならず、外国人学校に対する日本政府と役所の対応が冷たいと私は思います。建物を見ても明らかですし、資金不足は私の目から見ても明らかです。本当の国際化を理解している日本人は少なくないと思います。この件に関して共同ができることはないでしょうか。例えばセミナー etc. それから過去の清算は、私もきつちりすべきだと思います。」

「うううううう」感想です。次のことからは少し説明を加えながら紹介していきたいと思います。

六、「日本人学校との交流は日々拡大されつつあるとのことですが、同じ民族である朝鮮人および韓国人間の交流（子どもを含む）はできつつあるのでしょうか。また、教育の内容、特に歴史などに違いがあるのでしょうか。韓国旅行をしていると、その違いを痛感します。」

「うううううう」感想ですが、ここで聞いていらっしゃることは、国籍が別である朝鮮籍の方と韓国籍の方との間での交流があるのか、ないのか。それから歴史教育について違いがあるのか、ないのか。こういうことを聞いていらっしゃるのではないかと私は解釈いたしました。

韓国学校の場合は、カリキュラムは中高とも科目数については、朝鮮学校、日本学校とほとんど変わ

りありません。ただ、韓国学校の場合は、韓国語の時間が韓国語で、後の教科は日本語でやつてらつしゃる。そういう差が明確にあります。

教育の内容については、それぞれ一九四八年、大韓民国並びに朝鮮民主主義人民共和国が成立した後、それぞれ祖国の歴史を教えていらっしゃるので、当然そこについては差があると想像できます。韓国の高校教科書については、一昨年、明石書店からその日本語訳が出ています。市販されていますので、もしお気付きであれば書店で手に取つて見ていただければと思います。朝鮮学校のカリキュラム等については、後ほど林さんからのお話の中に含んでいただきたいと思います。

その次からは具体的に指名があります。まず林さんへの質問から入らせていただきます。

七、「あまり共生が少しずつできている点を強調する必要はないと思いました。前に出られたお二人は朝鮮人としてしっかりとおられる方々であつて、多くの在日同胞はまだまだ日本社会の抑圧と差別の中、息苦しい思いをしているわけで、そういう事実こそ、ここのみなさんに分かっていただきたいし、それが日本社会の問題として、ここにおられる方々一人一人が真剣に取り組んでもらいたいことです。お二人の話を聞いて、在日はだんだん状況が良くなつてきてているといった感想を持たれては、それこそお二人の頑張っている意味がなくなるわけでしょう。」

「こういう意見を含めた感想をいただきました。このことについて、林さん何かご意見があればおっしゃつてください。

林 今的内容では、私たち二人が朝鮮人としてしっかりといるをおっしゃつていたんですが、先ほど述べたテーマにもよりますけれども、それが日本の社会で自然に培われたものというよりも、やはり

家庭教育とか学校の民族教育を通してそういうふうになつたということとして、その点を分かつていただきたいと思います。ですから、民族学校に行きたくても行けない状況にあつたり、いろんな理由があって、まだまだ問題点や課題が沢山ありますので、私たちが今の状況に満足しているということではないんです。

ただ、苦しいこととか、いろんなこともありますけれど、そういうことも含めて、一緒に考えてくださいという場がもてたことは良かつたし、また一緒に考えていきたいと思つています。私たちは格好をつけていいことばかり言つたかもしませんが、まだまだ聞いていただきたいことや、見ていただきたいことは沢山あると思います。

仲尾 ありがとうございました。私も、この方が問題を真剣に考えていただいているということで、心を動かされた感想文であります。在日の方々が、お一人を始めとして頑張つておられるということも事実だし、受験資格の問題や国籍条項の問題にしても、日本人の間でもそういう問題があるんだということが少しずつ知られてきている。

しかしながら一方では、こういう制度的な差別と同時に、無意識からの差別もあるという、そういうただ中に今の日本社会はあるということを改めて認識させられた感想でした。その次の方へ参ります。

八、「夫さんが言つておられる過去の清算は具体的に何が必要でしょうか。」

この質問については、後で他の方からもありますので、そちらへ回させていただきます。

九、「林さんによれば幼年層による交流は進みつつあるようだが、若年層以上の交流の促進の必要

性およびその方法についての提案を聞かせていただきたい。」

「うことで、何か林さんから提案はありませんかというお尋ねです。

林 先ほど、子どもたちの交流について詳しくお話をしたんですけども、子どもたちには当然お父さん、お母さんがいらっしゃるので、子どもたちの交流だけでは終わっていないと思うんです。子どもたちはお家に帰って、幼稚園や学校でのことをお話ししますし、また実際にお母さんがバザーに来てくださいたり、朝鮮料理の試食とかいうことを通じて、沢山のお母さん方も学校に来られたりして、子どもたちを通じて学父母との交流が少しずつですけれども、できているんじゃないかと思います。

それと、若年層以上の方については、いろんな勉強会や講演会などを京都でもいろんなところでやっていますし、特に仲尾先生がやっていらっしゃる朝鮮通信使のことや日朝交流史とかの勉強会に、すすんで出られるように宣言と言いますかお知らせをしていただいて、日本の方に朝鮮のことを知っていたく機会が増えています。私たちも、お話をありましたけれども、同胞社会だけにどっぷりつかっているんじゃなくて、もつと身近なところで朝鮮人として生きていけるというか、宣言をして生活していくように、私たち自身がもつと心を開かなければならぬと思います。

先ほどは言いそびれましたけれども、私の場合は現在町内の組長として、十何軒を受け持つて町内の活動とか、子供会の役員とか、青少年の非行を防止する防犯のためのデモ行進とか、いろいろな活動に参加していまして、そういう活動をおろそかにせずに、むしろ積極的に出ることでいろんな方と知り合つたりしています。個人だけじゃなくて、通名でそういうふうにしてらつしやる方が沢山いらっしゃると思います。あまり目立つたことではないかもしれません、日々の生活の中にそういう人が沢山いるということを知つていただけたらいいんじゃないかと思います。

仲尾 ありがとうございました。林さんがボランティア活動の他に、朝鮮人としてこの地域に住んでいるということで、自治組織の中でそういう役割を担当しておられるということは、本当に素晴らしいことだと思います。何年か前でしたけれども、確か西院の方で、町内会長を勧められた在日の方がおられたということを見聞しておりますし、今、林さんがおっしゃったように、そういう方は他にもおられるかもしませんね。

ただ、もう一つその上のと申しますが、制度上はつきりしているものとして、例えば人権擁護委員とか民生児童委員という制度があります。ところがこれは在日の方がやろうと思つてもできないんです。なぜかと申しますと、これは選挙権、あるいは被選挙権を有する者とじうことで、地方参政権の問題と関わってきます。そういうことをこれからどのように考えていくか、これは一つの課題だと思います。

今の方は、

「各種学校からの受験資格を認める署名は、もう既に行わせてもらいました。」

このように追記されております。その次の、これはご質問という形ですが、まず読ませていただきます。

十、「夫さんも語られたことに通じると思いますが、私も共生を語る時、その人の持つ生まれの背景、状況を理解することなく理想を掲げるのは違うと思います。日本人として日本に生きる者、朝鮮人として日本で生まれてきた者の差、その人の持つ要素を真に理解してこそ、じゃあお互いこれからどうやって共に生きていけるか、ということを考えられると思います。そういった時に、確かに一番取つつきやすい文化でもつて交流していくことは、初段階として大切だと思いますが、それだけで在日朝鮮人を語ることはできない。なぜ多くの在日の子が自分の出自を隠したがるのかを探り、日本人たちに分かつてもらわなくてはならないと思います。林さんは、いろいろと社会を実際に動かしている人たち、社会

の方たちと接する機会が多いですが、その辺の市や区の人たちに対する眞の理解というところで、どのような手応えを感じられますか。」

つまり、行政の方々の在日問題に対する手応えということと、自分の出自を隠さなければならないというようなことを、日本人の人たちに分かつてもらうために必要なものは何か、その辺の兼ね合いで何かご意見があれば、ということだと思いますが……。

林 一番最近のことですと、老人クラブの会長さん、お歳からしますと七十から八十歳の方々とのお話を一番身近なんですねけれども、まずあまりよくご存知でないということです。そんなに身近に朝鮮・韓国の人たちがいるということをあまり知つていらっしゃらなくて、またその歴史的経緯とかも、私たちにしてみれば当然知つておられるだらうなと思うようなことを、あまりご存知でないということに驚いたということもありました。こういう者ですと言いますと、すごく興味とか関心は持たれます。そういう活動をしていらっしゃる方だから特にそうかもしませんが、もっと知りたいとおっしゃいます。それは、ただ単に興味からではなくて、知つてからもっと深くお付き合いできるし、そこから始まるんじゃないかなという意味で、もっといろんなお話を聞きたいとおっしゃつてくださいます。知らない今まで持つていた偏見とかをなくして、本当に分かり合えるきつかけになるんじやないかと思います。やはり本とか、いろんな資料とかも出ていますけれど、実際に知り合つて直接お話をすることで、お友達になつたり、知り合えることが一番いいんじゃないかなと思います。

仲尾 ありがとうございました。」」から後は、主として夫泰典さんへのご質問になります。ここ数年、日本と韓国・朝鮮とはすぐ近くだということもありまして、いろんなニュースがビンビンすぐに伝

わってきます。北ではトップの交代、食料危機、南では大統領選挙、経済情勢の急速な悪化ということです、これはまたここ一週間くらいの出来事でもありますので、みなさま方が非常に関心を持つておられるということ、そのこと自体は非常に大切なことだと思います。今日のお二人が朝鮮籍の方であるということで、時事問題についてもご意見を聞いてみたいということで、ご質問が先ほどございましたし、これからも少し出てまいります。このあたりについては、お二人は民族としては朝鮮民族の方であります、政治家でもないし経済の数字を握つておられるわけでもないし、お答えにくい部分もあると思います。その辺のところは、質問された方もそういう事情を汲んでいただいて、つまり一市民であると、祖国ではない外国に住んでいる、日本に住んでいる一市民であるということを了解していただきながら、お一人に答えるらるところは答えていただき、答えられないところは答えられないとおっしゃつていただきたいと思います。まず、最初の方。

十一、「夫泰典さんにお伺い申し上げます。最近、韓国の経済情勢が急速に悪化し、国際通貨基金に融資を申し込んだり、また昨日でしたか、韓国大統領選挙が行われ金大中氏が当選しました。夫泰典さんは今現在、京都外大で韓国文化に関するサークル活動に入つておられるとのことですし、また高校で民族学校に行つておられた様子ですが、そこらで知り合いになられた日本人、韓国人の方々と、そのような韓国への政治経済情勢についてディスカッションされていますか。私のように全く普通の日本人でも、日本の金融機関の弱体化を心配しているのと同じように、韓国のことでも心配のタネになつている人間もいるということを知つておいてほしいと思います。」

こういうご自身の立場の上から聞いておられます、夫泰典さん、サークルでの韓国、それから北の共和国のことが話題になつてているのでしょうか。また、どんなディスカッションをされているのでしょうか。

うか、こういうことをお答えください。

夫 サークル内では、主に活動内容が朝鮮半島の言葉でやっていますので、ここに書いてありますディスカッショントリfficというのをやっています。そればつかりと言つとおかしいですけれど、そういうことを主にやっています。内容としましては、大統領選挙のこともそうですが、いろいろと朝鮮半島の情勢などを逐一集めて討論したり、僕自身としましては向こうの新聞を翻訳したりして、活発に活動的にしています。

仲尾 ありがとうございました。そういう討論はサークルで盛んに行われているようです。その次の方に行きます。

十二、「個人としての生きたい方法はいろいろあつていいと思う。民族意識を持つた強い韓国・朝鮮人として生きている人もあれば、帰化を考えて日本に同化した人もいる。夫さんに親しい友人がいらないのは、個性というか主義が激しいからではないですか。差別問題全般に言えることだと思いますが、声高に訴える人、隠そとをする人、見て見ぬ振りをする人、いろいろあつてもそれも含めて同じ人間の生きざまと認めていいのではないでしょうか。ただ一つだけ、無知のため隣人を傷付けるような時には、その無知を解消するための努力をするべきだと思いますが。」

つまりこれは、差別があつた時にはきちんと差別を指摘しようと、こういうことを言つておられます。これもご感想ですから、特に今、夫さんにお答えいただくこともないと思いますが、とくかくこういうご意見です。その次にもう少し具体的なことが、夫さんに対して質問されています。お二人への質問が

大分重なっていますので、合わせて二つ読みます。

十三、「夫泰典さんは大学での友人に、自分の朝鮮人としての生い立ちを話された時、その時の友人の反応はどうなのでしょうか。」

この場合の友人、相手というのは、日本人だと思います。それからもう一つ、それに関連しての質問です。

十四、「大学に入られてから、日本人の学生が韓国・朝鮮についてあまりに無知であることをどう思われましたか。日本の教育についておかしいと思われませんでしたか。」

この二つのことに関連してお答えいただきたいと思います。

夫 大学に入って、友人には全て話しましたけれども、その時の反応としましては、友人は朝鮮学校があることすらも知らないようで、「ああ、そなへんか」と、初めて知った、初めて見たという様子で、我関せずという感じでした。やはり、「無知」ということは、その時実感しました。学校などでも歴史をいろいろと隠していることも多いわけですから、最近にやっと従軍慰安婦の問題なども教科書に載せられました程度で、実際の歴史を曲げて教える、教育の場でそういうことが行われているということは、とても怖いことだと思います。国家が関与して、歴史を歪曲して若い学生に教えることは、非常に怖い間違っていることだと腹が立ちました。

仲尾 といふご感想でした。日本の学生がどれほど韓国・朝鮮のことを知っているか、在日のことを

知つてゐるか、これはかなり個人差があると思います。恐らく今お話になつたのは、全く知らない方の例だと思います。またそれが残念なことに非常に多いといふことも事実だと思います。その次の質問はちょっと意図がよく分からんのですが、一応読みます。

十五、「小学校四年から朝鮮学校へ「強い朝鮮人に育てたい」という理由で転校されたそうですが、最初日本の学校に入学された理由は単に経費の面だけだつたか、他に何か理由があつたのでしょうか。」これは、学費は高くなるはずなのに、それでも尚かつ転校された。そこには何か理由があると思うんですが、つけ加えることがありますたら。

夫 「ここに書いておられるように、しつかりした芯のある朝鮮人に育つてほしいというだけで、電話でしたのであまり詳しく述べたんですが……。

仲尾 とにかく両親は、芯のあるしつかりした朝鮮人に育てたい。だから学費が少々高くとも、自分たちが頑張つて稼ぎ出そと、そういう強いご意思で息子さんを転校させられたと、こういうことであります。次。

十六、「夫泰典さんの共生が夢だという気持ちは良く分かつたが、その前に過去の清算なしには共生はあり得ない」というが、その通りだと思います。具体的には、例えば日本の国が国家としてどうすればいいか、日本の國の市民はどうするべきなのか、確認したいと思いますので、意見を聞かせてください。」これは前の方にも質問がありました。そして先ほど、日本人の学生の意見や、知らないという事実に

ついても多少触れられていると思いますが、もう一度確認をしたいと「う」とありますので、日本の国として、あるいは日本の市民としてどうすべきかという意見をお聞かせください。

夫 僕個人としましては、物やお金じゃなくて謝罪と言いますが、本当に悪かつたなあという気持ちで謝つてもらわないと困るんです。それは国の偉い人だけじゃなくて、市民一人一人の人にそういう気持ちを持つてもらいたいんです。そう思つてということは、過去に虐げた朝鮮半島だけではなくて、中国や台湾、東南アジアの人々とか、そういうアジアの人々に対し非を認めて、虐げた人々と同じ地位、同じ立場に立つということで、互いを尊重しあうという気持ちがあるからだと思います。

逆に、認めないとということは、蔑視というか下に見てしまふというような気があると思うんです。先ほど言つたんですけども、国際化ということでも、同じ地位で互いの異文化を認める、互いを尊重しあうという意味で、真に心の中から相手を認めるという意味で謝罪をしてほしいと思います。実際、官僚の中にも従軍慰安婦のこと等についてわけの分からぬことを言う人間がいますから、まだまだ蔑視していると言いますか、尊重しあうという心をもう少し深く持つべきだと思います。

仲尾 ありがとうございます。今の夫さんの言葉の中に、思い全てが込められているように思いました。次に参ります。

十七、「夫さんに。差別を避けて通ると自分の住むべき場所を失つて行くというお話には、大いに同感させられました。ところで、過去の清算なしに共生なしというお話は、一定の植民地時代のことを指すのだろうということは分かりますが、具体的にはどのような清算を望まれているのか、ピンとこない

面もありますので詳しく述べください。」

「これは今のお話に重なる」とだと思いますので、省略させていただきます。

「尚、民族のアイデンティティを失うことなく、日本社会で生きていく厳しさを乗り越えて行かれる姿に感銘しております。」

「そういう付記がござります。その次へ参ります。」

十八、「日本は今まで多民族国家であつたはずで、今後はますますその方向に進むと思うのですが、韓国・朝鮮民族の日本人として生きていくことに對してどう思われるでしょうか。今、日本政府は日本国籍を取得するに際して、日本風の名前を付けることを強制するなどの問題はありますか、もしそういったことが解決されたなら、国籍にこだわる必要はないのではないかと私は思うのですが。アメリカという国家がいろいろな民族によつて構成されているように、日本という国家がいろいろな民族によつて構成されていると考えられないでしょうか。」

「こういうお尋ねです。これは林さんにお答えいただきこうかと思ひますが、その前に少しコメントをさせていただきますと、日本の国籍法の場合、いわゆる帰化という方法で国籍を取る方法があります。その場合は、法務大臣に申請をします。そしてその申請の要件には財産があること、生活がちゃんとできていること、それから満五年以上住み続けていること、その他ずっとありまして、素行が善良なこと、日本政府を暴力またはその他いかなる方法においても転覆するような団体に属したことがないこと、などというような条項が並んでおります。

特に問題なのは、非常に細かなプライバシーにわたるようなことまでも全部申請をして、法務事務官が調査をして回る。要するにプライバシー侵害の問題に関わることと、それからその結果が全て法務大

臣の裁量による。つまり一定の条件を満たせば、国籍を取れるというようなものじゃないんです。そこが一番大きな問題だと私は思つております。ここに書いておられる日本風の名前を付けるという強制、これは過去にはありましたが、今はそういう強制はしませんと法務省は言い直しました。しかし、現場ではまだ行われているというようなことも聞いておりますけれども、法律上、あるいは規則上、日本風の名前を強制するということは直接にはなくなつてはいるのですが、実情は必ずしもそうではなくて、何となくそういうふうに持つて行かれるという話を聞いたことがあります。いずれにしても、帰化の条件が緩和されたりすると、国籍というものにこだわる必要はないのではないかというご意見だと思うんですが、林さん、これについてご意見がありましたら……。

林 私は、周りにも確かに帰化した方とか、苦労したお話とか、帰化しようと思つてはいるとか、そういうお話は沢山聞くんですけれども、実際既に在日の何十万人かが日本国籍を取得しています。ですから実際ですと、在日朝鮮・韓国人の人口は増えるはずなんですねけれども、今現在は減つてきているという状況です。実際はいらつしやるけれども籍が変わつてきてはいるということなんですね。

どうして籍を変えるのかという一番の理由は、やはり差別にあると思います。特に韓国籍よりも朝鮮籍ですね、それは明らかで実例もあります。また資料なんかで見てください。そういう差別がなかつたら、別に朝鮮籍でも韓国籍でも、朝鮮人・韓国人なんだから、そのまで生きていつたら一番いいと思うんです。でも、経済的にも、人権の面でもそうですし、いろんな差別というものがあつて生まれたことですので、他の人が帰化しようとしている人に対して駄目だとかという強制はできないと思うんです。それもその人の生き方であつて、選んだ道だと思うんです。

私たちは学校でも自分の両親もそうでしたから、人の話を聞いたからではなくて、自分の体験ですけ

れども、強制連行とか勉強などの目的で日本に来て、その時は日本人に強制的にさせられましたが、言葉も名前も文化を全て奪われた状態で、日本に残った在日の朝鮮人たちはどうしてもそういうものを取り戻したくて、全財産を出して学校を建てたりとか、自分自身を取り戻すためにいろんな運動をしてきました。そんな中で、五二年でしたか、また日本国籍を全部奪われて、今度は朝鮮籍に変わったんですね。それも全て日本政府のやり方で強制的にやられたものとして、そういうふうにして朝鮮籍になつたのに、今更また自ら日本籍にする必要はないんじやないかという気持ちを持つた一世の人が沢山いるとと思います。ただ、朝鮮半島で生まれて渡つてきた人に比べると、二世、三世、四世になると自分たちの生活のことを第一に考えたりして、経済的にも何よりも生きしていくにはいろんな障害がありまして、ましてや中小企業や家で商売をなさつている方は、いろんな制限があつたりしまして、そういうことから国籍を変えたいという意見が多いんじやないかと思うんです。そういうところにこだわりはあると思うますし、またこだわりを持ち続ける人がいるから、在日朝鮮人、韓国人が存在するんじやないかなと思つています。

仲尾 大変明快に、歴史的経緯を含めてお話をいただいたと思います。

一九四五年、日本の敗戦の年、朝鮮半島や台湾の人にとっては解放であつたその年に、日本政府は当分の間、旧植民地出身者は外国人と見做すというようにしました。そして一九五二年、日本の独立回復と同時に日本国籍を喪失するものとするという見解を日本政府が発表して、自動的に日本国籍ではなくなつた。そして日本国籍でないために、さまざまな差別条項がありました。今のような公務員や大学受験資格だけではなくて、公団住宅や公営住宅にも入れない、国民健康保険にも入れない、年金にも入れないという、ないない尽くしの状態が、その結果として出てきたんですね。しかしそれにも関わらず、

韓国・朝鮮籍として自分は誇りを持つて生きようという方が、一世の方々を中心におられたということは、今、林さんがおっしゃった通りです。そういう意味で、単に国籍にこだわるかこだわらないかという問題ではなくて、在日の方のおよそ六十万の方が韓国・朝鮮籍を持つておられるというのは、そういつた歴史的経緯に基づくものであるということを、日本人である私たちは強く認識しておかなければならぬのではないかと改めて感じました。

それから後、お二人に質問があります。これは非常に大きな質問と言いますか、ご意見なので、一番最初に申しましたように、お一人に答えていただく義務は課しませんので、ご感想があれば適宜おっしゃってください。そういう前提で読ませていただきます。

十九、「在日朝鮮人の方々の中の北、南意識はどのようなものですか。私たち日本人の方が意識しますか。昨夜来の韓国大統領選挙の感想も知りたいと思います。」
もう一人の方に移りますが、これもやはり時事問題です。

二十、「お二人の朝鮮人としての誇りなど、大いに私たちの持つている民族意識以上のものを感じました。そこで、話はそれかもしれませんのが、母國である朝鮮民主主義人民共和国のことについてお伺いしたいです。共和国の内情は、テレビなどを通じて聞くところ、大変な経済危機で人民は苦しんでおり、一方政治はキム・ジョンイル、故キム・イルソンの独裁的な政治であると言われています。言いくらいことと思いますが、お二人で母国に対する気持ち、また隣の韓国に対する気持ちをお聞かせ願えませんか。私見で結構です。

話は変わりますが、今回は京都で行われたインターハイに役員として参加して、朝鮮高級学校の先生

と一緒に仕事をさせていただき、やつと参加できた喜びを聞くことができ、私も嬉しくなりました。早くいろいろな国籍条項がなくなることを期待しています。」

「うふうコメント付きです。どうぞ、どちらからでも結構です。

夫 僕自身としましては、南も北もあまりなくて、半島自体が母国と認識しています。確かに、北では食糧危機で何万人かの方が死んでいるという報道を見て、自分のことのように感じていますし、韓国の経済危機などを見ても、「ああ、国がやられている」と思います。南と北を分けてしまうのは、ちょっとまずいことだと思いますから、僕は半島自体が母国とみています。

大統領選挙についてはあまり分からないんですけど、昨日の夜中の四時頃、NHKで見ていて、その時にキム・デジュンさんが南北対話に積極的だと公の場で発言されたというのを聞いて、キム・ヨンサムさんよりもっと民族心というか、統一というとても大事な課題に前向きな人が大統領になつてくれたと率直にとても喜びました。大統領なんかはよく分からないので、お粗末なことしか言えないんですけど、以上です。

仲尾 非常に簡潔に答えていただきました。では、林さん、最後に一言どうぞ。

林 私は籍が朝鮮籍で、本籍は慶尚南道です。主人も濟州島で、身内も北にも南にも親戚がおりますので、朝鮮半島全体が私の祖国だと思っています。ただ三十八度線によって今は分かれています。制度も暮らしぶりも全く異なつてしまつて、それがとても残念でなりません。私が学校に入った頃から、今もそうですけれど、一番の願いは祖国の統一です。誰もが、こんなに分断されたままになるとは思つても

いなくて、七〇年代には七〇年代に統一される、八〇年代には八〇年代に、九〇年代には九〇年代、二十世紀のうちにはと、そういうふうに一日も早く統一されることをずっと望んできました。これは私だけではなく沢山の人が、また現在北に住んでいる人も南の人も、ほとんどの朝鮮民族がそういうふうに渴望していると思います。

ただ、あまりにも体制が違っていて、特に北朝鮮のニュースとかはあまり入ってこないので、ペールに包まれたとか、近くで遠い国とかいうイメージは確かにあるんですけど、私は朝鮮の学校に行つてましたので、自分の国というのがすごく身近に思えだし、また現に国からの教育援助費というのも、そんなに多くはないですけれども、大変な中で一九五七年からずっと送つてきてくれたということもあります。そういう配慮というものに応えなければならぬという気持ちも自然に湧いて来るものがあります。

北ではずっとキム・イルソン主席がおりましたし、南では大統領が頻繁に変わつたりして、政治の面からしても大変な歴史がありました。朝鮮民族全体から見ましても、今まで必ずトップに立つ人によつてかなり国が滅びたり、侵略を受けたりということがありましたので、特に上に立つ人に関してはすごく興味を持ちましたし、また期待も大きかつたと思ひます。そういう意味で、昨日の大統領選挙もいろいろ予想したりしながら、大変興味深く見ていました。キム・デジュンさんと言ひますと、日本の方でもご存知の方が沢山いらっしゃいますが、トップ会談ができる、交流ができる、和解して統一に一日でも早く近づければいいな、というのが私の感想でした。

仲尾 ありがとうございました。今のお二人の最後のコメントなどを聞いておりますと、今日のテーマである『教育で生まれる意識』というのが、見事に実つてゐるという感じがいたします。おそらくその意識は、将来の夫さんの世代、あるいは林さんの子どもさん方、お孫さん方への世代へと引き継がれ

ると思います。そういう意味で、日本の中では日本としてのアイデンティティをどうやって作り出していくか、あるいは日本社会の中にどうぶり浸っているという立場からするとどう取り戻していくか、そういうことが民族学校の中でも行われてきた。そのことの成果が今日のお二人の姿だと思います。

この民族学校の存在について、日本人の側も改めてその意味を問い合わせて、日本の学校にそういう民族学校があることが、日本の社会でどういう役割を期待できるか、どういう意味合いを持っているのか、ということを自分たちの問題として考えてみないと改めて思いました。

それでは少し時間を超過いたしましたけれども、今日のセッションはこれで終わりたいと思います。大変答えにくい質問も含めてお答えいただきましてお二人に心から敬意を表したいと思います。

司会　お話をありがとうございました。これをもちまして第一回目の【教育で生まれる意識】を終わらせていただきたいと思います。



第一回『名前への思い』

パネリスト

宋基泰氏（ソン・キテ）
（在日一世・グリーンショップ経営）

コーディネーター

厳本明夫氏（ゲンモン・エイジ）
（在日一世・建設業）

仲尾 宏氏

（京都芸術短期大学教授）

一九九八年二月六日実施



第一回 『名前への思い』

第一部

司会 只今より連続フォーラム「チョゴリときもの」の第一回『名前への思い』を開催させていただきます。本日のパネリストの方々は宋基泰様と嚴本明夫様です。お二人は在日一世でございます。宋基泰様はグリーンショップを経営しております。嚴本明夫様は建設業をやっておられます。本日のコーディネーターをお願いしております仲尾宏様は京都芸術短期大学の教授でいらっしゃいます。では先生、よろしくお願ひします。

仲尾 皆さん、こんにちは。本日は今年になつて一回目のフォーラムでございますが、一月中にやるべきところを、諸般の事情で少し今年はズレ込んでおります。あと、三回、四回と三月にございますので、本日同様、引き続き沢山お集まりください。

前回は在日三世の方の思いを聞かせていただきましたが、本日は一世の方々をお招きしてお話を伺うことになりました。そして一世の方々と申しますと、今、日本社会の中で、お仕事の上で第一線でやっておられる。家庭の中でも、もちろん中心的な存在を担つておられるわけですが、そういう方々の、今、日本社会でのいろんな活動、お仕事ぶりの中で、一番大きな課題は「名前をどうするか」ということに一つはなつていると思います。それで今日は、そういうたな前の問題に焦点を合わせて、お一人から話を聞くことにいたします。

「紹介の方はもう皆さんのお手元にいつておりますので、改めて私が申し上げることもございません

が、お一人はソン・キテさん。本名で今日、来ていただいております。在日一世でグリーンショッピング・花卉類のお仕事をなさつてます。

もう一人は嚴本明夫さん。日本名で今日来ていただいております。同じく一世で、建設業をなさつております。嚴本さんについては今日、入口のところで『メッセージ・フォーム・ウトロ』という機関紙を一緒にお配りされていたと思いますが、その中でご自分の名前のことも書いていらっしゃるページがあります。今のウトロの問題は、第一審の結審の一部が先週出来まして、非常に大きな転機を迎えていることでございますが、今日はそのウトロの問題ではなくて、嚴本さんご自身の仕事の中から、お名前の問題についてどのようなお考えでいらっしゃるかということをお聞きしようと思います。

お一人のお話になります前に、私の方で簡単な、在日の方々の名前についての歴史的な経過、それから現状についてのプリントを作りましたので、それを説明させていただきます。お手元に『名前への思い』というプリントが届いていると思います。それを見ていただきますと、在日の方々、つまり戦前に日本の植民地であった朝鮮半島、台湾、その方々にどうして日本名が付けられるようになったのか、ということを調べてみました。

俗にそれは創氏改名と言われております。つまり、氏を創り名を改める、という命令が出たわけなんですが、これは直接創氏改名令というものが出来たわけではございません。そこにございますように、一九三九年十一月に「民事令の改正」、続いて「朝鮮人氏名に関する件」という二つの政令が出ました。この民事令というのは、日本では民法にあたるものですが、植民地朝鮮半島では法律は一切ございませんで、朝鮮総督が天皇の直隸として出す命令、布令、そういうものが全部でございまして、ここでも民事令という名前になります。そこでもつていわゆる創氏改名が行われたんです。

そもそも朝鮮の方々の姓というのは、日本の氏（うじ）とは全く違います。日本の氏というのは明治

以降、民法が作られた段階で、全ての人が苗字を名乗ると。それまでの士分でない者、つまり元町人であつた人々をはじめとして、農民も含めてですが、氏を名乗ることになつたわけです。朝鮮の姓といふのは、そういった戸籍上の、あるいは戸籍法に關わる問題ではございません。そこに書きましたように、朝鮮の姓といふのは、ソン（宗）と呼ばれます、祖先をお祀りするための男系の血統集団を表すものであります。それと同時に、その祖先の出身地が同じである「本貫（ほんがん）」というのがございますが、その本貫ごとに姓を名乗ると、ということになつております。

一番名高い姓とされておりますのが金海、プサン（釜山）の近くのキメという所ですが、その金海のキム（金）氏。キメのキム氏といふのは、キメというのが出身地の本貫であります、そこのキム氏。そういう姓であります。

こういう姓が、だいたい統一新羅の頃から高麗朝の頃にかけましてずーっと普及してまいりました。それが姓であるわけです。したがいまして結婚してもこのことは変わらない。ですから在日の方であるうと、北の共和国、あるいは南の韓国におきましても、名前は、父方の人は要するに娘であろうと息子であろうと、全部父の姓を名乗る。結婚しても相手の夫の姓に変わるということはあり得ない。これが朝鮮の姓であります。

それに対して当時の総督府は、もう植民地支配を始めて三十年近く経つてゐる。そういう中で、中国侵略が本格化して、また南方への侵略も間近に控えてるという段階で、「日鮮同祖論」というのを持ち出しましたわけです。つまり、日本人と朝鮮人はもともと先祖は同じだったという部分が多い、ということが一つ。

それから、朝鮮人からも要望があると。もう日本の支配下に入つたんだから日本名を名乗つてもいいんじゃないかと、そういう要望があると。これは確かにあつたことはあつたんですが、毎年十人ぐらい

というんですね、そういう要望を総督府に出してきた朝鮮人というのは。だから二千五百万人のうちの十人ぐらいなんで、本当に要望があったとしても、それはごく一部だったと考えられます。いわゆる親日派と呼ばれる人たちの意見だったと思います。

それからもう一つは、「内鮮一体」。つまり、日本の本土と朝鮮半島が一体化するということが望ましいんだということを総督府が主張して、民事令の改正にとりかかりました。その背景としては、「国民精神総動員法」というのが日本の本土で施行されます。それで朝鮮半島におきましても、「国民精神総動員朝鮮連盟」というのが一九三八年七月に結成される。そして皇國精神の高揚のために、朝鮮半島において人々を鼓舞していくわけですね。例えば「皇民誓詞」の職場や学校における朗誦。毎朝、宮城遙拝をする。アマテラスを主神とした朝鮮神宮の参拝を強要する。そういうことが行われてくる。それが内鮮一体ということの一つですけれども、それを完成させる。

そして勤労報国。つまり、朝鮮半島、台湾を含めて、大日本帝国の臣民として国家に奉仕するんだと。そういうイデオロギーが散布されました。

一九三八年二月には「朝鮮陸軍特別志願兵令」というのが出ます。志願兵という形で、まず朝鮮の若者を戦争に動員するという体制ができるわけです。これは敗戦の年には「徵兵令」になりますけれども、この特別志願兵といつても、さまざまな形で事実上は行かなくてはいけないような雰囲気づくりが行われてきた。そういう中で、いわゆる創氏改名が行われた、というようにお考へいただければいいかと思います。

その方法は二つございました。一つは「設定創氏」と言いまして、今までのキムさんであるとかパクさんであるとか、リーさんであるとか、あるいはソンさんであるとかいう姓を、そのまま氏とするのではなくて、新たに日本式の氏を創つて名乗りなさいと、こうなったわけです。中に

は鈴木さんとか木村さんとか、そういう日本式の名前にした人もございました。しかし、先祖の名前をそう簡単に捨てられないということで、例えばキムさんであれば、金本さんであるとか金田さんであるとか、金山さんであるとか、そのように氏の中に元の姓の一部を残す、という形の方も非常に多かつたわけであります。それが「設定創氏」。

ところがこれは申告制として、一定の期限、確かに六ヶ月だったと思いますが、それを超してなお申請しない人は、戸主の姓がそのまま氏となる「法定創氏」というのをやりました。つまり、申告しなくても日本式の名前になつてしまふ。例えば、先ほど申しましたキムさんであつたら、そのまま「金さん」になつてしまふ。日本式の読み方にすると。そういう形で事実上、日本式の名前の呼び方から逃れられないというのがこの創氏改名でありました。しかも、なお且つ手数料を五十銭取つてゐるんですね、一人当たり。のちにはこれは一戸当たりに改められましたけど、当時の五十銭というのは、恐らく今で言うと一万円か二万円するんだと思うんですね。そういうことで、お金まで取りながら、とにかく日本式の姓を強制した、というのが植民地下の創氏改名であります。

そして戦後、日本に残られた在日の方々が、そうした植民地下の日本名を、日本で生活している過程で名乗らざるを得ないという状況が現在も続いております。その詳しい状況、あるいはお一人お一人の思いはさまざままでございます。そのところは、今日お二人にお話していただきるので、私は今ここで何も申し上げませんが、資料1の下に円グラフがござります。その円グラフを見ていただきますと、これは昨年度実施しました京都市の「在日外国人生活意識実態調査」というアンケート調査の表からとつたものでございます。

それによりますと、いま京都市におられる在日の方々、京都は在日の中国人はほとんどおられませんので、これはほとんど韓国・朝鮮籍の方と考えていいと思うんですが、「以前から本名を名乗っていない」

資料1

「創氏改名」について	
○民事令改正（制令19号）	○朝鮮人氏名に関する件（制令20号）1939.11.10公布 1940.1.1.実施
一、朝鮮の姓	宗とよばれる祖先祭祀のための男系の血族集團を表すもの。 祖先の出身地と同じくする「本貫」ごとに「姓」を名乗る。
二、統督府の主張	①日鮮同祖論 ②朝鮮人からの要望 ③「内鮮一体の完成」
三、背景	・国民精神總動員法の朝鮮における実践（連盟結成1938.7） ・皇國精神の高揚・「内鮮一体」完成・勤労報酬→「皇民誓詞」制定 ・朝鮮陸軍特別志願兵令（1938.2.26.公布、4.3.施行）
四、方法	①設定創氏 ②法定創氏（戸主の姓がそのまま氏となる） ③手数料50銭（当初は一人当たり、のち一戸当たり）

図4-6-3 在日韓国・朝鮮人における過去・現在の本名使用（地域、近所 N=423）

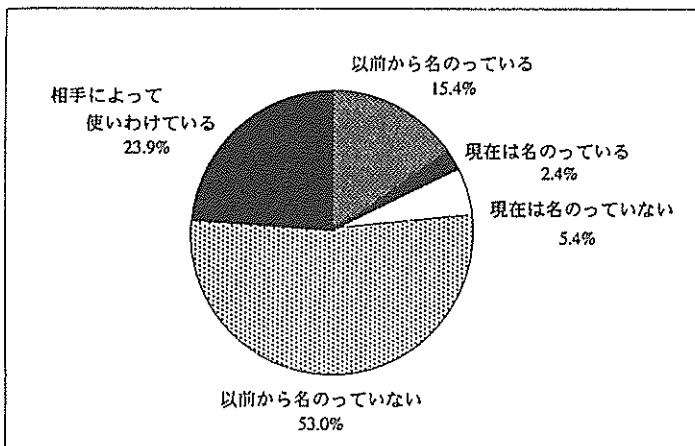


表4-6-3 在日韓国・朝鮮人の年齢と本名使用（職場、学校）

	名のっている	名のっていない	使いわけている	計 (%)
20歳代	8 (14.3)	39 (69.6)	9 (16.1)	56 (100.0)
30歳代	8 (13.3)	44 (73.3)	8 (13.3)	60 (100.0)
40歳代	7 (9.5)	52 (70.3)	15 (20.3)	74 (100.0)
50歳代	11 (15.5)	45 (63.4)	15 (21.1)	71 (100.0)
60歳代	3 (11.5)	13 (69.2)	5 (19.2)	26 (100.0)
70歳以上	3 (25.0)	3 (25.0)	6 (50.0)	12 (100.0)
計 (%)	40 (13.4)	201 (67.2)	58 (19.4)	299 (100.0)

◆ 参考図書

金一勉『朝鮮人がなぜ「日本名」を名のる－民族意識と差別』
三一書房 1978年
宮田節子・金英達・梁泰昊『創氏改名』 明石書房 1992年

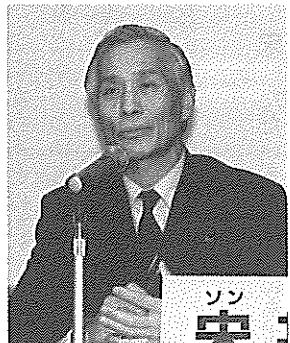
という方が五三%。それに対して、「以前から名乗つている」は一五%ということです。それから「相手によつて使い分けている」という方が三三・九%。そして、昔は名乗つていなかつたが「現在は名乗つている」という方が二・四%。それと対比しまして、昔は名乗つていたが「現在は名乗つていない」という人の方が多くて五・四%になつてます。ということは、もう解放から五十年以上になりますけれども、その中で、「以前から名乗つていない」、それから「以前は名乗つていたけど今はもうやめた」という人が増える傾向にあるんぢやないかと。こういう現象がござります。

その下にある横の表は、これを世代別に見てみたわけですが、この中で、二十歳代から六十歳代までどどを見ても、やはり「名乗つている」という方が非常に少ないとことが言えます。ただ、七十歳以上というものは、恐らく全部一世の方だと思われます。サンプルはわずか十二で多くありませんが、七十歳以上の方だけが、名乗つている方々と名乗つていない方々が二五%ずつということで、相半ばしている。そして、「使い分けている」という人を含めますと、むしろ名乗つている方のほうが多いんぢやないかというように推定されます。これが現在の京都市における在日の方々の名前への思いと、どのように名乗られているか、ということとの実態でござります。

ここからあとはお二人の方々に、それぞれの生き方とお名前のことを、どのように考え方をさせてもらえたか、ということのお話を聞いていただこうと思います。今からそれぞれ二十分ぐらいの時間しかございませんけれども、お話を伺うことになります。

まず最初に、皆さん方から見まして左側にお座りの宋基泰さんにお話をいただこうと思ひます。よろしくお願ひします。

宋 ただいまご紹介にあづかりましたソン・キテといひます。今日はお忙しいところを沢山ご参席い



ただきまして本当にありがとうございます。何ぶん未熟ですので、私なりの体験を話させていただきますが、のちほどいろいろとフリー・トークの場もござりますので、いろいろと皆さんのが感じられたことをご質問いただけたら有り難いと思います。

「こんにちは」ということは韓国・朝鮮語で「アンニヨンハセヨ」。また大変丁寧には「アンニヨンハシムニカ」と言います。普段から使っている方も今日は多くいらっしゃるかと思います。

今日の「名前への思い」というタイトルは大変重く難しい命題であります。まず本名を使つている私の方から、どのようにして通名を廃止して本名を使うようになつたか、その経緯と言いますか今日の心境についてお話ししてみたいと思います。

今日は一月六日。明日は一月七日でいよいよ長野の冬季オリンピックが開会します。私はこれが終わつたら長野の方まで行つて、明日の開会式に参加するんですが、大変いま緊張しております。明日オープニング・セレモニーの中で大相撲の土俵入りが披露されることを皆さんはご存知だと思います。貴の花が風邪で出られなくなつて、急ぎよ、曙闕が土俵入りをするようになりました。皆さんはテレビで見てください、私が代表して見えてきますから（笑）。

近代オリンピックの祭の場で、日本の古典スポーツの花形として、ハワイ出身の曙という横綱が世界から集まってきた若者の前で、日本の伝統的な芸能の相撲を披露することは本当に素晴らしいことだと思います。曙闕は皆さんもご存知の通りハワイの方ですから、別名「チャド・ローウェン」という名前を持つてるんです。でも相撲界では、将来、親方になるためには日本国籍が必要なんです。この方はまだ親方にはなつてませんが、横綱になるまでに、すでに将来親方になるための一つの布石を打つてゐる

ですね。それは日本国籍を取得したことです。その名前が曙太郎と言いますし、四股名（しこな）も一緒です。

同じ相撲界の人で、昔、力道山という人がいたことは皆さんもご存知だと思いますが、この力道山という相撲取り、のちにプロレスラーとして勇名を馳せた人ですが、この方は朝鮮半島の北部出身の人で、本名を金信洛（キム・シンナク）と言います。この人も創氏改名の民事令において、戸籍名は一時「金村光浩」という名前になりました。長崎の大村の百田巳之吉という方の口利きで、昭和十五年に日本の角界入りを果たし、四股名を「力道山昇之介」としましたが、しばらくして自分の戸籍名をつけて「力道山信洛」と称しました。そしてかなり後年になりますと、スカウトしました大村の百田家と養子縁組をしたんです。そして「百田光浩」という名で日本国籍を取得しましたが、日本国籍を取ったのはかなり後年で、力士を廃業してからのことでした。力士時代には、「金」という名前、または「金村」という本名を持ちながら土俵を張っていました。一九四五年の日本の敗戦と朝鮮人の日本国籍剥奪により、突然外国人にされた力道山が、関脇の上の大関、横綱へと昇進していくには、朝鮮籍が大きな障壁になつたと想像されます。

ですから今回、長野オリンピックにおいてハワイ出身の曙闘が代表として土俵入りが実現することは、私個人としても大変快挙だと喜んでおります。

この冬季オリンピックには日本の選手団として、最近になつて帰化した選手が多く含まれております。アイスホッケーでは八幡真（ヤワタ・シン）、二瓶次郎（ニヘイ・ジロウ）という人がいますが、この方は白人系のスウェーデン人です。もとはどんな名前だったか大変興味深いことです。限りなく日本風の名前でないと日本に帰化できないのでしょうか。

対照的に興味が湧くのは、南米や北米、カナダに移民した日系の人々で、この方々には必ずファース

ト・ネームにルーツを示す日本の苗字が記されています。日系カナダ人が数人、祖国日本の国籍を取つて出場します。ダスティー・イモオ、ライアン・フジタ、マシュー・カバヤマ等々。輸入選手の中には、本名の発音のままで帰化したカナダのユール・クリス選手もいます。

曙闕とは反対に帰化するときの名前が、本名の呼称のままで帰化できる例が最近増えております。例えは、十七年前に夏の甲子園で報徳と京都商業が決勝戦をしたとき、両チームに七名もの在日韓国・朝鮮の選手がいました。その中で京都商業に一人、本名読みの韓国人の選手がいたんですね。一人はカン(韓)選手、もう一人はティ(鄭)選手。そのうちのカン選手が現在、本国読みの「ハン」という名前で日本国籍を取得しました。現在「ハン・ユウ」という名前で、青年実業家として日本社会や在日の社会で活躍しております。ですから少しは出自を表わす名前も、日本の中ではかなり認知されてきたのかな、と思います。またイギリスとカナダの二重国籍を持つているC・W・ニコルさんという方は、大の日本びいきですが、この方は日本風の名前でなく、本名で帰化申請中です。その通りの名前で許可されたらいいなど、そのように思っています。

民族名の呼称について触れてみたいと思います。漢字語圏の人の名前の呼び方なんですが、日本や韓国や中国などは、一応日本の新聞は漢字表記をします。発音通り横にルビを振るとそのままわかり、国際的に通用する名前になるんですが、漢字だけで表記すると、日本の場合はたいてい読者まかせで読ませてしまうんですね。例えば、中国の最高指導者だった江沢民。これは日本語ではやはり「コウ・タクミン」としか読めないんですね。ところがこれは、本国読みすると「チャン・トウミン」だと思うんですね。他に、体操でアトランタオリンピックでメダリストになつた李小双、必ずこれは「リ・ショウソウ」としか読めないんですね。でも本当は彼の名前は「リー・シャオシュアン」です。

韓國の新大統領に金大中氏が就任しました。拉致事件の時に「キン・ダイチュウ」とか言つて呼び捨

てにしてた人が大統領になつたわけなんですが、今はそのように呼びません。「キム・デジュン」とこのように今は呼んでいます。本来的には私はそうなるべきだと思つています。これは呼称の仕方ですね。まあできればそのようになつたらいいな、と思います。

さて、私の名前についてですが、ここにありますように机のネームプレートに「ソン・キテ」とあります。今日そのように紹介されてほんとに有り難く思つております。家族一緒に本名宣言したのは、今から約二十年ぐらい前でした。長女が小学校三年か四年ぐらいの時でした。ちょうどその時の学校の校長先生だと娘の担任の先生、また教科以外の先生の中でも、人権学習や自然学習に獨特な力量があるて大変人気のある先生がいらっしゃいました。そういう多くの先生方のいい刺激をいたきました。うちの子どもが行つてた学校には在日同胞がたぶん三、四十名ぐらいいたと思います。通名と本名の二つの名前があるということで、私自身が苦しんでいたんですが、子どもの時代にもそういう苦しみを継承するということは、親としてどうなんだろうということで、周りの環境も、それを助ける一つの大きな原動力になつたと思っています。それから家族で相談して、先生方とも相談して、本名を名乗るようになりました。

そのようなことで、本名宣言してからPTAの役員にも推されまして、日本の父母の方々と一緒にPTA活動や学校活動に参加するようになりまして、大変貴重な経験を積ませていただきました。また同時に、商店街活動や同業企業組合の活動にも本名を名乗つて参加するようになつたんですが、それは大変スンナリと皆さんが認知をしたというか、そういう経験もあります。

ただ、ちょっと複雑な思いなんですが、われわれ同胞の間で、やはり長い間、通名を使い慣れていたということから、こちらから本名を名乗つてもなかなか本名で呼び返してくれないとか、例えば手紙の宛名などは依然として昔の通名で来たとか、ということの方が結構長く尾を引いたことも実体験として

ありました。

しかしながら本名宣言と言いましても「そう・きたい」と日本風に漢語読みにしましたから未熟な段階です。よく「マラソンの宗さんと同じ字ですか」と聞かれ、「いえ、中国に宋という国がありましたが、その『そう』です」と答えます。

それ以後、二女、三女が民族中学へ進学するようになつてから、今のような本国読みの「ソン・キテ」にかなり慣れています。まだ矛盾しています。

さて、先ほど仲尾先生から創氏改名の概略をご説明していただきましたが、朝鮮半島が日本の植民地であった時代、一九三九年に朝鮮系日本人、朝鮮半島は日本の植民地下にありましたから、そこにいる人間は日本国籍を持つていたわけですね。だから朝鮮系日本人に創氏改名令を強要して、先ほど説明がありましたように、キムさんは金田さんとか金村さんとかいう名前、アンさんは安田さんとか、パクさんは新井さんとか、チャンさんは松山さん、ハンさんは西原さん、イーさんは国本さんだとかいう、これは朝鮮半島にある地名や本貫（ほんがん）、そういう縁のある言葉を日本式の氏（うじ）として使つたわけです。

一九四五年の日本の敗戦によつて、植民地から解放された朝鮮の人々は祖国の戸籍を回復されたわけです。そして本名と国籍を取り戻しました。その当時は二百万人以上の在日朝鮮の人々がいたんですが、帰還事業によつて百数十万人が本国へ戻つたんです。ところが六、七十万人の人間が日本に残留してしまつたんですね。その残留した朝鮮の人々は、途端に日本人から外国人扱いされるようになつたんです。まだその時はたぶん日本国籍が残つていたかと思います。しかし、扱いはそうなつたんです。正式に外国人として扱われるようになつたのは、一九五一年のサンフランシスコ講和条約で入管法や外登法によつて、完全に外国人として処遇されるようになりました。

中国北東部の旧満州に押し出されていた朝鮮民族は、日本が敗戦した後、中國内の少数民族として中國政府の自治州で、今は吉林省と言いますが、言葉や文化を保障され、今では大学から放送局、新聞社まで持つに至っているのは、日本の待遇と対比して大変興味深いところがあります。

日本に残留した朝鮮人に対して、日本政府は、国籍の選択権と日本名の禁止措置を施さないまま、籍だけの外国人として排除してしまいました。戸籍を回復されたのに、創氏改名の亡靈の日本名が、そのまま外国人登録証に残るという矛盾を生んでしまったんです。日本は植民をしていた時には日本名を強要しましたが、日本が敗戦すれば普通は元の名前に戻るべきところが、日本に住んでいる朝鮮人に對して法的な措置がきつちりできていなかつた。できていれば、たぶん今のような二重の名前ということは無くなつていたかも知れない、大変重要なところなんです。そのような矛盾が、そのとき生まれてしまつたということです。

見えない存在としてある、在日韓国・朝鮮籍外国人の将来は決して明るいとは言えません。対比して、最近、渡日してくる本国の韓国人は、大変元気がいいと思います。通名というものがありませんから。民族名の一枚看板で、政治家や経済人、そして学者や芸能人、スポーツ界の人、例えば中日球団のソン・ドンヨル選手、またJリーガーで活躍する選手など、本当に堂々として、私たちから見れば大変カッコよく見えます。

日本と韓半島の間に埋もれて見えにくい在日……。植民地時代、多くの朝鮮人は天皇の兵卒または軍属として、日本の国籍で、日本の名前で戰地に赴き、多くの命を亡くしました。軍需工場の徴用工として、またある時は坑夫として、あるいは紡績工場の女工として、日本の國力増強または日本の繁栄に、日本国民として貢献してきました。だから苦楽を共にしてきたハラカラ（同胞）ではあるという事実は過去にあるわけです。朝鮮出身の旧日本人が、国籍が回復したとて、日本に住み続ける限り、古くか

ら住んでいる日本の皆さんと、あとから来た一時期日本人だったわれわれは、同じように処遇されてもいいんじゃないでしょうか。それは通名であつても、民族名であつてもいいんじゃないですか、というのが私の考え方です。

人間の尊厳を最小限保持するためにも、私たちは民族意識を継承する必要があります。韓国・朝鮮人であることを隠さなくともよい、そういう環境づくりが大変必要だと思います。近年、公教育の場で、異文化を理解する国際化学習が大変盛んになつてきました。小学校での、在日韓国・朝鮮人児童を対象とした民族学級や国際クラブの進展ぶりには目を見張るものがあります。特に外教研の先生方の勉強ぶりは、当事者の、われわれの同胞でも舌を巻くほどの熱心さです。

多くの市民の皆様方の応援のおかげで、少しずつ私たちの置かれている環境が改善されてきました。私たちの子孫が二十一世紀の時代に、もし通名であつても本名でも、日本国籍を取つても取らなくても、共生者として、地域住民の圧倒的多数の日本の皆さんと協力し、助け合い、苦しいことも楽しいことも共に分かち、地球家族の幸せのために貢献できる日が一日も早く来ることを願つて、私の話を締めたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

仲尾 ありがとうございます。それでは続いて嚴本明夫さん、お願ひします。

嚴本 皆さん、こんにちは。嚴本です。私の言いたいことの半分ぐらいをもうソンさんに言つていただきましたから（笑）。私の本名は「嚴」一字で、本当の発音で言うと「オム」になるんです。嚴明夫で「オム・ミヨンブ」という発音になります。一時期、ちょうど高校を出て社会に出たときに「嚴」一字で名乗つて、本名を名乗つたときがあつたんですけど、「ゲン」という形で名前を名乗りますと、知らない相



西本明夫氏

手は特にそうなんですが、この人は何人だという緊張感がまず生まれて、どこまで喋って通じるものかと相手がたぶん考えたり、特に私の「嚴」一字だといいんですけど、それを本名読みのオムとか、キムさん、ソン・キテさんとか、この名前で言われると、初対面の方は恐らく、われわれ在日と本国から来た韓国人の方と区別がつかず、「日本語で喋つてええのかなあ」というあたりからまず始まつてくると思うんです。それで、日本で生まれて日本で育つたという過程の中で、相手に余分な神経を使わざないというか、構えさせない。やはり初対面でどうしても不利になるケースがありますから、そういうことでもひつくるめて、私自身も疲れますので、「嚴本」に戻したという経過があります。

なぜ「嚴本」の名前にこだわってるかというあたりなんですが、今たまたまソンさんの方から民族の話が出来ました。民族と一言で言いますけれども、大和民族と韓民族のどこが違うか、何によつて区別するか、というあたりがあるかと思います。

昔の、聞いたままの話でそれを自分なりに解釈してゐるんですけども、民族を規定するのは、風俗・言語・習慣によって規定されるんだと。黄色人種、白色人種、黒色人種、これは人種が違いますからね。これは明らかに、人種と民族とは違います。黄色人種の中での民族、という話をしてみた時に、中国にいる民族と、日本民族、それから朝鮮半島の民族、これはどこで違いを見つけるかと言えば、風俗・言語・習慣だと。そういうあたりで考えてみると、私は言語、言葉というのが一番民族の違いにとつて重要な要素があるんじゃないかという気がします。

何が言いたいかと言うと、私がいろいろのものを考えるとき、言葉でものを考える。皆さんもそうだと思うんですけど。そのときに、日本語で考えてるんですね、やっぱり。決して韓国語で考えてませんし、

英語で考えてない。例えば、簡単な例で言うと、「水」という概念の中には、例えば海水浴であるところの海水だと冷たい水、あつたかい水、そういうインスピレーションというか思いが、「水」の一言でわれわれに伝わります。ところが、これを英語式に「ウォーター」で考えると、「ウォーター、イコール水」で考えが始まって、ウォーターに対する水の中身というのが何もないわけです。概念として。これをハングルで考えると「ムル」という言葉ですが、「ムル、イコール水」でものが始まって、「ムル」の印象の中に何も広がるものがない。一番難しい言葉でいうと、日本語で「幽玄」という言葉があります。「幽玄」の言葉の意味としてわれわれは、奥行きの深い、莊厳なものだというニュアンスがありますけど、これを韓国語で訳したり英語で訳したって絶対にそんな印象は伝わりません。だから、言葉でものを考える、ということに関してみたら、われわれは決してアメリカ人でもないし、民族は韓民族だろうけど、韓国人ではないわけです。どちらかというと、この頭の中身というのには日本人なんですね。日本の歴史、日本で生まれて育ったという、日本語でものを考えると「あたり……」。

ですから私自身は、先ほども話がありましたが、朝鮮系日本人、韓国系日本人だという気がします。その意味あいで言えば、今われわれの名前についた二文字には過去からの屈辱的なものがありますけれども、ただ、どういう経過があるにせよ、私自身に一番ふさわしいのは、この「嚴本」という二文字の日本式の通名。これが一番私にはふさわしいしひツタリきてるんじやないかと、いうところの考えで「嚴本」という名前に固執してます。

私はウトロの中でいろんな活動をしていますが、以前、園田高校の先生方の一行が生徒と見えまして、その指導された先生が非常に本名宣言に対しても熱意を持っておられて、私がウトロの問題をやつてる中で通名の「嚴本」でいくのはおかしいと。自分は生徒に対して本名を指導してゐるのに、なぜ、あなたみたいな年配の人が通名でがんばってるんだ、というあたりの話がありました。一時間ぐらい今の私の考

えとその先生の考え方で議論しました。で、負けました（笑）。やっぱり勝てないんですね、本名には。ただ、勝てないんですけど、私自身、別に今となつては「オム」でも「ゲン」でも、どちらかというと「オム」より「ゲン」の方が親近感があるんですねけど……。だから私が一番呼ばれて嬉しいのは、「ゲンさん」と呼ばれるのが一番嬉しいのです。付き合っている人はだいたい知つておりますので、「ゲン」であろうと「ゲン本」であろうと別に差し支えないのです。

先程も言いましたように初対面の方に対して、仕事の上で「ゲン」又は「オム」という本名で名乗る事、もう相手の構え方が全然変わつてきますから、初対面から非常に苦労が予想されます。だから今となつては別にどっちでもいいんですけど、とりあえず「嚴本」ということで固執してますし、そのいわれというのこういう形です。

ただ、在日の中にもいろいろありますて、どうしても私は本名で呼んでほしいという人がいます。そして私みたいに、通名でないとかなわんという方がいます。だからその辺は理解してあげた上で、例えば、金さんなら金さんに、金村さんなら金村さんに、「あなたをどちらで呼んだらいでですか？」というような形の中で、「じゃ、私は金村の方がいいです」とか、「私はキムで結構です」とか、いう形の中で相手を呼ぶというのが一番親切かなあと思います。

一時、日教組ですか、本名を名乗らすことを前提としている、そういう動きをしている教員組合の方がいらっしゃいますけれども、別に私はこだわらなくていいと思うんです。各個人の意思に任せて、強制するとかえつて変な具合になるかなという気もします。私自身、在日という立場に対して自信が持てたのは三十半ばぐらいで、そのとき初めて足元が地面に着いたような経過がありますから到底、中学生、高校生の生徒なんていうのは自分が本名で呼ばれたらどうだ、通称で呼ばれたらどうだ、ということをそこまでたぶん考え切れてないし、立脚できてると思うんです。だからその辺は、子どもたちの意思

なり家族の意思を尊重してあげて、「そう呼んであげてくださいよ」という話で、そういう先生方と会つたときにはそういうお願ひをしてますけれども。

私が今年で四十五ですから、ソンさんより十歳ぐらい年下ですが、ソンさんたちの、先輩たちの時代は、「チョーセン、チョーセン」と言つてみなバカにされたというか、学校に行つてもバカにされた時代がいっぱいあって、私の五、六年上の先輩はかなり激しくみんなやられて、ですから五十歳前後の方といふのは、非常に根性のある先輩が多くいます。反骨精神が旺盛で非常にバイタリティのある先輩が数多くいますし、反対に、潰れて道を外した人もいっぱいいますけど（笑）。それなりに反骨精神を非常に持つておられます。私たちの時代からだんだんダメになつていくといふか、馴らされていくといふか……表立つた差別はない代わりに、馴らされていつてる、という気がします。

因みに、私の高校生時分で在日人口が六十万人、そして今日現在は恐らく七十、八十万人の在日人口だと思います。二十五年間を隔てて、六十万人の人間が八十万人。たかだか十万人か二十万人しか増えない、ということはあり得ない話でして、その間、恐らく百二十、百三十万、もう倍ぐらいになつてゐると思いますが、その方々の大部分は帰化してます。私の周りでも、私は五人兄弟で、第三人と姉一人なんですが、全部帰化しました。私だけが、そこには朝鮮籍ということのこだわりがちょっと書いてありますけど、事情がありまして韓国籍に変えてまして、私だけ韓国籍です。

この帰化とこの問題に關して、この名前も影響するんですが、それがいいとか悪いとか、といふ形の話ではないかと思うんですけど、ただ、私がなぜ帰化しないかというと、もう民族を否定しているんですね、日本籍に帰化するということは。当然、日本の血統制の戸籍の流れの中ですから、日本民族にならないと日本国の国籍ではない、という考え方をいま日本国は取つてゐる。アメリカあたりは多民族、多人種のところですから、市民権をもつて国籍にしていることがありますから、いわゆる

日系アメリカ人もいれば日系カナダ人もいる。そういう形のものが全部あります。だから帰化という話に関しては、もし市民権だけで国籍が取得できるならば黙つて私は取得しますけど、今のは、韓民族という存在を否定して日本民族にならないと国籍が取れない、という制度ですから、まあ私の時代はこのまま韓国人で通して、子どもたちは子どもたちの判断に任せる。そういう、同化させていくといふか、そういうことがいい悪いは別にして、今、日本の中ではそういう流れがあります。これは、ますます増えていく傾向にあると思います。

その話で一つ。私のところの一一番末っ子が大阪薬大を出て薬剤師なんんですけど、日本人の妻をもらつてます。家元が宇治の在所のあるところで、昔、平家の落人がそこでたむろしてたところで、由緒ある家柄で、「帰化しないと結婚してもらつては困る」と、そういう話がありました。それで弟がわざわざ帰化して、それでカミさんをもらつてますけど。まあいい悪いは別にして、そういう在所の、昔からの考え方をしている日本人はいっぱいいらっしゃいます。そうかと思うと、私の従兄のところなんかは、カミさんは日本人ですけどもらつて韓国籍にしてしまつたとか、逆のケースですけど、そういう強烈な人間もいます。だから国際結婚というんですか、そういう形で非常に馴らされていつてます。この歴史が、十年先、二十年先、どういう方向で、まあいい方向にはなると思うんですけど、今の血統制の考え方というのは、ちょっと一服させてもらいたいという話です。ある人に言わすと、そういう原因、源は全部「天皇制」にあるんだ、というような話がありますけど、私は聞きかじりで、そういう話はあまりできませんし、しません。

私の名前に対する思いというのはだいたい以上です。ありがとうございました。

仲尾 ありがとうございました。今の二人のお話の中にはいろんな問題が含まれておりまして、皆さ

ん方もいろいろな思いがあると思いますが、私から一言ずつお二人にお尋ねしたいことがあります。一つはソン・キテさんにですかれども、もう社会に出られてから本名に戻られた。子どもさんと、子どもさんの指導に当たっていた先生の説得といいますか、そのことを考えてされたということですが、本名に戻られてから不都合なこと、本名を名乗つてみて非常にマズかったこと、うまくいかなかつたこと、そういうご体験がございましたらちょっとお話ください。

宋 私は今、お花屋さん、一般的にはそういう店をしてるんですけども、それの全国組織のメンバーになる時に、保証人だつたか戸籍謄本だつたかが必要だと言われ、なんでそんなところで戸籍謄本が……というような思いがありましたね。そうなると、私たちは日本でいういわゆる戸籍というのは日本にはないわけですから、私たちはそれに代行するものとして、外国人登録証明書を提出するわけです。そうすると、完全に外国人ということで、差別をする一つの選択というんですか、そういうものに使うためにそういう制度があるのかなと思って……。実際はそのようなものを出したんですよ。そういう差別は結果的にはなかつたんですが、いろんな、例えば今はローンの会社だとか、今は簡単に手続きができるし、現在はそういう不都合はありません。若干そういうことがありますけど。以上です。

仲尾 そうしますと、国籍を問題にして、つまり戸籍がないということで、国籍を問題にして差別的な取り扱いがあつたということで、名前の問題としてはそもそも問題はなかつた、本名で不都合なことはなかつた、というように理解してよろしいですか？

宋　だいたいそう思つていただいたらいいと思ひます。

仲尾　そうですか。ありがとうございました。それから厳本さんにお伺いしたいと思ひます。世の中に出られてからのことについていろいろお話いただきまして、よくわかつたんですが、厳本さんが子どもの頃、つまり高校まで、どういうお名前で過ごして来られて、その中でのイヤな思い、辛かつた思いなどおありだと思つんですけど、その辺りのところのご体験はいかがでしょうか。

厳本　えーっと学生時分、私の子どももそうなんですけど、小学校の卒業式のときに担任の先生が、「厳本、厳本。お前、これどう読むんや、ゲン・アキオ？ オム・ミンブ？」これでいいのか？」と、「いえ、先生、オム・ミヨンブです」「オム・ミヨンブな、わかつた、わかつた」と。で卒業式になると、厳本明夫ではなくオム・ミヨンブという呼ばれ方をします。生まれてこのかた、小学生の中で本名なんて一回も呼ばれたことのない人間が、卒業式のその時だけ、「オム・ミヨンブ」って呼ばれるわけです。「はいっ」って返事する。周りの同級生たちはキヨトンとするわけですよね。そういう時にはつきり呼ばれた。だから、昔からああいう時は正式に本名で呼ばないといかんのでしょうかね。中学生の時もうでした。高校生のときはどうだったかあまり覚えてません。だから、そういうところで本名で呼ばれたというのが非常に恥ずかしいような、気の重いというか、そういうことはありました。学校時分のところではそれです。

それとあと外登証の登録。満十五歳から外登証のきちんとしたものを作るんですよね。それまでは一枚の紙なんんですけど、十五歳になると一枚のきつちりした外国人登録証というのを作ります。うちの次男坊にこの間ハガキが来ていて、「お父さん、これ行かなあかんの？」「行かなあかんよ。十五歳になつ

たら外国人登録をちゃんとせなあかんねん。うちは韓国人やて何回も言うてるやろ。こういう外国人登録はちゃんとせなあかん」「行かんかつたらどうなるの?」「それ行かんかつたら、それ、たぶん今は宇治市役所でやつてくれるけど、大阪へ行かなあかんか東京へ行かなあかん。入管局へ行かなあかんことになるから、とりあえず、今言うてる時に行かんとエライ目に遭うよ」と。いうことで外登証を初めて作ってきました。その子にしてみたら、今まで在日韓国人だということを何回も私は言つてきたわけですが、実感として「ああ僕は外国人なんだ」ということがわかつたと思うんです。

この間も、「お父さん、お父さん」「何やねん」「僕、名前二つあるねん。オムと嚴本と、二つあるねん。なんぞ?」「なんでつて、だから、在日韓国人やから本名と通称がある。やつとわかつた?」「ああそとか。やつとわかつた」と。この頃の周りの同級生の反応は、「お前、外国人やつたんか。カツコええなあ」そういう反応をしますね(笑)。歴史教育がどこらへんにどうなつてゐるのか(笑)、本当にサッパリわからぬような現状ですけど。まあ私の学校時分の本名のいわれというのは、そういうことがあります。

仲尾　ありがとうございました。今のお話の中でお出できました卒業証書の問題ですね、これについてはこういうこともござります。京都市内のある小学校の子どもさんで、本名で通学してました。卒業式の時も本名で書くべきで、その通り卒業されました。保護者の思いもそうだったんですね。というのは、卒業証書は公文書ですから、通名というのは何らの法律的根拠に基づいておりませんから、当然それは本名で書くという原則になつております。問題は、西暦のことなんですね。保護者の方は、何年三月十五日というのも、本人の生年月日も、全部西暦にしてほしいと。こういうことを学校に言われてましたけども、学校は「それはできない」と。で、教育委員会と話し合つて、まだこれは解決してないんですけど、本人の生年月日については西暦でいくと。ところが、発行権者つまり学校長のところだけは元号を

変えることができない、平成何年とする、ということでもまだその問題は解決がつかずに、その子どもさんは中学二年生になつてゐるんですが、まだ小学校の卒業証書は宙に浮いたままと、こういう現実もござります。これも名前の問題から発生しました日本社会への同化という問題と、それはイヤだという、一つの異議申立をしていける方々の例でござります。

それから外国人登録証の件ですが、もうご存知の方も多いと思いますが、外国人登録証はもちろん本名記載なんですね。ところが氏名欄の下に、括弧書きがありまして、在日の方々についてはここに通名を入れる、ということが一般的になつています。私が直接聞いた例ですが、その人は通名はなかつたんですね。ところが、区役所の方で気を利かせ過ぎまして、この人は通名書くのを忘れてると。この人のお父さんを探したら通名がわかるだらうと、お父さんの通名を探し出して、この娘さんは通名を名乗つてないのに、わざわざ通名を書いてしまつたという例もあるんです。これは親切すぎるというか、あるいはまた行政ミスといえばそうですけれども、本人は、自分が名乗つてもいらない名前が登録証に書き加えられたということで、大変憤慨してるという例もございます。

いずれにしましても名前の問題というのは、結局は日本社会が外国籍の人、あるいは朝鮮民族、韓民族の方をどのように見てるか、ということの一つの鏡のような気がいたします。その辺につきましてはお二人の、いろいろお話をされました中にも様々な形で言及されておりました。これは日本人が直接体験することのできない重い課題であります。皆さんの中にもいろいろ今日の問題提起に対し「思い」があると思いますが、これから休憩時間の最中に皆さん方のお考え、あるいはお二人へのご質問を質問票に書いていただきて、それをこのセッションの後半に皆さんの方で公開しながらお一人に答えていただこうと、こういうことに持つていきたいと思います。今から十五分休憩して、三時二十分に再開したいと思います。ご質問・ご意見のある方はなるべく早く書いていただきて、前の箱までお持ちください。

それから今日のレジュメの下に、私が一つ参考図書を挙げておきました。現物はここにござりますので、もし読みたいとか、どんな本だらうという方は、ここに置いておきますのでどうぞご覧ください。それでは二時二十分まで休憩させていただきます。

第一部

質疑応答

司会 それでは只今より、先ほどの皆様方からのご質問・ご意見用紙を元にしまして、意見交換を行いたいと思います。それでは先生、よろしくお願ひします。

仲尾 それでは再開させていただきます。全部で九人の方から、ご質問並びにご感想・ご意見をいただきました。今回はどちらかというと、問題が、特に日本人の側からすると体験できない重い課題であるということもありまして、ご感想・ご意見が中心で、質問というのはいつもに比べると比較的少ないようでした。

まず、直接お一人に関わることは少し置きまして、外回りの問題から入らせていただきます。

一、「北朝鮮からの里帰りの日本人妻に、朝鮮名が例外なくあるのはなぜか。」

関連して、

「北朝鮮の日本人妻の場合、新聞などでは漢字で日本名と朝鮮名が併記されていますが、これはどういうことなのでしょうか。」

こういう質問です。

いわゆる日本人妻といわれる方々は、一九六〇年前後に北朝鮮へ集団で帰国された時に、自分は日本人だけれども夫あるいは恋人が帰国されるので、その時に一緒に北朝鮮へ渡られた方々なんですね。いろいろ新聞やテレビで見てますと、ほとんどの方が、「なんでわざわざ北朝鮮へ行くんだ。それまでして行くんだつたらもう勘当だ」と言われて、家族から縁切りされたような形で行かれた方が大部分のようですね。そういう点では私は、日本人として、その頃は今よりももっと差別意識がひどかつた時代ですから、の方々は本当に勇気のある方々だと思つております。

さて、報道でもありますように、日本名ではなくて朝鮮名で帰つて来られてるわけですが、これは向うへ行つて結婚を継続される、あるいは結婚された時点で、恐らく北朝鮮でも韓国と同じような先祖の本貫と姓を大切にしてる社会、ということを前提として考えますと、行つた方々はそこで夫の姓に入るということはできない。すると、新たに姓を創ると。その場合に、日本式の氏（うじ）であるとやはりあまり良くなない、あるいはいい目で見られない、あるいは自分自身がいわばこの朝鮮に完全に帰化するんだと、そういう意味で朝鮮式の姓をお付けになつてるんじゃないだろうかと、このように推察しております。ごく僅かですが、戦後、日本から結婚や何かで韓国へ行かれて、そして韓国人の男性と結婚された女性が、やはり日本式の氏、例えば山田なら山田さんとか、という形で新たな姓を創られていると、そういう話も少し聞いております。その場合は日本式の姓なんですけども、夫の姓とは違う姓を新たに創られた。それがあの方々のお名前ではないかと推察しております。その場合、もちろんその読み方は、例えば「キン」とか「ゴン」では具合が悪いので、朝鮮式に「キム」あるいは「クォン」というような形で表記される。それが日本のテレビや新聞で報道されているのではないかと、私なりの想像はそういうことがあります。それから次に、こういう質問がござります。

二、「韓国の国内で、日本人の名前はどのように表現されているのでしょうか。漢字は日本語読みされているのでしょうか。日本語を理解しない人の場合は？」

と、こういうことがございます。これは韓国へ旅行された方はご存知だと思いますが、例えば、私が韓国へ行きましたも、相手の人は日本式に「ナカオ・ヒロシ」と、このように呼んでくれますし、わざわざそれを韓国語読み、あるいは朝鮮語読みに変えていう人はございません。だから本名で行けるわけですね。これは長期留学してゐる人、あるいはビジネスでソウルに長く滞在してゐる場合の方でも、同じであります。だから民族名である、仲尾なら仲尾という日本式の民族名を、変えて呼ぶということはございません。

ただ、歴史上こういうことがございました。あの豊臣秀吉の侵略のことがござりますね。秀吉は向うでどう呼ばれているか。「トヨトミ・ヒデヨシ」ではないんです。「ブンシン・スギル」と言います。それは当時の人たちが、つまり十七世紀の初め頃の人たち、それからその秀吉の侵略のことを伝え聞いた後世の人たちも、その頃、日本語で「トヨトミ・ヒデヨシ」というふうには呼んでなかつた。やつぱり漢字を見て、「豊」は「ブン」である。「臣」は「シン」である。「秀吉」は「スギル」であると。そういう朝鮮読みをされたのがそのままずつと伝わつてゐるんじゃないだろうかと。加藤清正や伊藤博文についても同じようですね。

と、いうことが歴史上ございますが、現在、日本式の民族名をわざわざ言い換えるということはあります。ただ、中国の場合はちょっと違いますね。先ほどソンさんが言われたことですが、私たちは「江沢民（コウ・タクミン）」「毛沢東（モウ・タクトウ）」としか呼びません。そのことは中国人人は受け入れてる。逆にわれわれが向うへ行きますと、やっぱり中国式に名前を呼ばれるようですね。これは私はまだそういう経験はありませんけれども、私の知り合いの人で何人がそういう経験をしたということが

ありました。だから中国人人は中国の人なりに、また別の原則を通してるんですよ。自分たちの呼び方にそれぞれ変えればいいんだと。一方だけの名前を強制するのはいけないけれども、今のように日本人も中国人も同じように言い換えるんだつたら、相互通じないじやないかと。どうもそういうお考えのよう思います。それから次のご質問ですね。

三、「嚴本さんへの質問。あなたの両親や祖父母は、奪われた本名も母国語も、あなたに取り戻してほしいと思わないでしようか。世の中には何の悪意もなく偏見に染まっているようなことがよくあります、例えば私の両親はよく、部落出身者や、あるいは同じ民族の全羅道・済州島、チヨルラド・チエジュドですね、の出身者の悪口を言つたりしましたが、それはやはり良くないことであり間違ったことだと思います。間違つたことは正すべきだと思います。歴史的背景があつて、間違つているのがはつきりしないという面があるが、名前のこともやはりそうではないでしようか。ウトロ地区のリーダーであるあなたに是非、本名を。」

と、こういう半分励ましの言葉も含めて（笑）であります、が、嚴本さん、忌憚のないところをお願いします。

嚴本 本名を、という辺りの話ですが、先ほどもお話しましたけど、園田高校の先生と一時間議論した中で、私は負けております。従つて、本名を名乗るのがやはり正しいんです。だけど、こと私に関しても個人的に、勘弁してください。すいません。そうとしか言えません。以上です。

仲尾 という嚴本さんの大変率直なお気持ちでした。

次は、特に指名はないんですけども、先ほどからのお話の中で、ソンさんが比較的関心を持つてお話をされていたので、ソンさんにお答えしていただく質問かと思います。

四、「お二人の話を伺う中で、人の名前は、単に他人と区別・識別するための記号ではなく、とても大切な、思いのこもったものであるということを改めて感じました。ところで国名とか地名もそれなりに同様の問題を持つていてるものと思います。例えば、テハンミン「ク、キヨンジュなどを、『大韓民国（ダイカソミン）』『慶州（ケイシユウ）』と日本人が呼ぶかと思うと、日本、東京などを、『イルボン』『トンギヨン』と韓国人が呼んだりしています。こうした固有名詞についても考えていく必要があると思いますが、いかがでしょうか。」

「こういうお尋ねです。ちょっと名前の問題からはズレますけれども、地名の問題、そういう民族的な呼び方を一般の問題として、お考えをお聞かせいただければと思います。」

宋　　国の名前だとか、地名ですね、これは大変いま矛盾しているところがたくさんあると思います。

私は昨日ソウルから帰ってきたんですけど、韓国のガイドさんは私が在日だということをわかつてるんですよ、それでも在日は「ウリマル」、いわゆる韓国語、母国語をあまり喋れないものですから、一所懸命説明してくれるんですが、その韓国ガイドさんが私たちに韓国にある地名を呼ぶ時にも、例えばキヨンジュでも、キヨンジュと言わないんですね、ケイシユウ（慶州）だとか。インチヨンを「仁川（ジンセン）」だとか、テグを「大邱（タイキユウ）」だとか……そのように呼んでいる現実もあるんですね。だから韓国の人々が日本を「イルボン」と呼んだり、また東京を「トンギヨン」と呼んだり、そのようにまだ統一されてない部分も確かにあります。でも本來的には、先ほど私が言いましたように、国

際的な場所では本来的な、その国で使つてゐる呼び方が本当はふさわしいんじゃないかと思ひます。

それと一番目の質問の中にあるんですが、「いわゆる北朝鮮の日本人妻の場合、新聞などでは漢字で日本名とカタカナなどで朝鮮の名前が併記されてる」と。その中でちょっと気がついたことは、いわゆる朝鮮民主主義人民共和国、北韓の方では原則的には漢字は全く使つてないんですね。だから先ほどのスポーツの場と一緒になんですが、日本に登録する時は、たぶん漢字を使わないで報道人にも資料を配るはずなんですよ。漢字なんかありっこないです。ところが、日本の報道陣がそれに当たった漢字をつけるんですね。だから、たぶん日本の報道陣に配られるのは英文か、またはよくてカタカナでだいたいそういう資料は配られるんです。それは日本の報道機関が勝手に漢字を当ててあるようです。だから、同じ朝鮮語でも、北朝鮮の人は、使われる時はカタカナでよく書いてあります。スポーツ選手はほとんどそうですね。ところが韓国の選手は、全部漢字で書いてあります。ただ、韓国の場合は北の政府と同じように、本来的には公文書は全部ハングルです。原則的には漢字は使わないんですね。でも高級な書物なんかは漢字とハングルの併記で使ってますから、漢字は韓国内では、かなり高年齢の方ではまだ生きてる、ということがあります。ちょっと気づいたことを説明しました。

仲尾 ありがとうございました。ちょっと私がうっかりして漏れたところを補つていただきました。
おっしゃるように朝鮮民主主義人民共和国、北朝鮮では、あらゆる報道機関は一切漢字を使つておりますせんから、漢字をあののように日本の報道機関がつけてるというのは、日本側が推察した結果だと私も思います。

その次、これは大変重い質問で、先ほど控室で話してたんですが、私たちがこれに答えることができるとどうかわからないんですが、こういう現実があるということを、逆に今日お集まりの皆さんに知つ

ていただいた方がいいと聞いて、それに私たち、このお二人を含めて、私もどう答えていいかわからぬということを含めて、ご報告したいと思います。

五、「現在、外国人登録事務を担当していますが、十六歳の切替えハガキを出したところ、家庭的に恵まれない施設に入所している子どもについて、施設の先生から相談の電話が入りました。その子はゼロ歳から入所しており、自分は韓国籍であるという自覚は全くなく、どのようにして登録に出向かせようかと悩んでいる、との内容でした（これは施設の先生、日本人の先生だと思いますがその方の悩みです）。母親は未婚で出産し、自分の生活で精一杯で、子どもには小さい頃から接したことがなかったとのこと（だから子どもさんは施設でずっと十六歳まで育つている。それで自分は日本人だと思つてる。もちろん言葉も何も知らない、こういう子どもですね）。普通の家庭なら、知らず知らず教えられる民族的なことも全くなく、いきなり窓口に行かせる自信がないとのことで、こちらも妙案もなく、困つてしましました。何か良い考えがあれば教えてください。」

「そういう質問です。私も全くこれは答える言葉がありません。お二人それぞれに思いがあると思ってますので、これはお答えになるかどうか別にして、お一人の思いをこれは聞かせていただくことでお答えに代えさせていただこうかと思います。

ソンさん、まずお願ひできますか。

宋 大変重い質問だと思うんですね。やはり外国人の国籍条項というのは大変重いんですね。今、地方参政権獲得運動を組織を挙げてやつており、皆さんの協力を得てかなりいい成果を挙げております。でも就職における外国人障壁というのは大変なんです。私たちは住むことと食べることでは、今ようや

く自分の稼いだお金で服は着られるんですよ。「衣食住」の三大要素の中で、住むことは、まずアパートは韓国・朝鮮人の籍のままだとなかなか貸してくれません。今でもそんなに変わらないです。

それと就職は、もちろん一般地方公務員だとか教員だとか、弁護士とかそういう諸々の公的な職場が与えられないわけです。ですから、いきおい個人商店の営業か個人で自分で仕事を見つけて作るか、ということですから、つい日本人人がやりたがらない仕事をやらざるを得ないんですね。だから代表的なのは、焼肉屋だとか、スクラップ屋さんだとか、パチンコ屋さんだとか、金融だとか、ということになってしまって、日本の闇の世界で生きざるを得ない、ということですね。だから特に、力のない女性が結婚するというのは大変難しいんです。結婚しても十分に所帯を持てない。だから離婚する。離婚したら子どもは自分で育てられない。だから施設に預ける。ということで、日本の公的な人にも大変迷惑をかけてしまってという結果になつてしまふんですね。

そこら辺が大変深刻な問題だと思うんです。だからこの子の場合には、本当に窓口の人気が真剣に苦しんでみえると思うんですね。だからそんな職場にもわれわれの子弟がもしいたら、もう少しこの子どもの対処は何か方法があつたかも知れません。残念ながら、われわれ在日韓国・朝鮮人がそういう施設に採用されませんから、そういう子どもが出ても、なかなか対応が難しいというのが現状だと思います。答えになつたかどうかわかりませんが。

仲尾 ありがとうございました。じゃ厳本さん、お願いします。

厳本 これがなぜ重たいかと言いますと、例えばこれは韓国籍ですよね。この人が例えばアメリカ籍

だつたとしましようか。恐らくこの外登証の係の人は、気がラクになると思いますよ。「おたくはアメリカ人でしたよ」と。その一言で、「ああそりだつたのか、俺はアメリカ人だつたんだな」と。これが「韓国籍だ」と言うのがなぜ重たいかというと、この十六歳の子が、韓国籍だということで、偏見と差別を一举に十六歳で受けるわけです。アメリカ人はなぜかと言うと、日本人の中には変なコンプレックスがありますから、欧米系の、白人系の人種はいいなあという先入観みたいなものがありますから。逆の意味の偏見なんですね、アメリカ人がいいというのは。だから逆にこの子の場合は、十六歳にして韓国の歴史差別と偏見、いわゆる今おっしゃつたような就職差別もひつくるめてですけど、全部ここで、十六歳の時点で受けるわけです。

それで私の子どもの場合とか私たちの場合は、やっぱり親兄弟が周りにいますから、「あ、うちの家はよその日本人の家とちょっと違う」という認識の中で育ちますから、外登証の切替えとか本名だとか来ても、ある程度受け入れる心の準備というのがあるんですけど、この子の場合はそれがいつぺんに来ますから、非常に難しい、というか重たいなという気がします。

これはいざれにせよ言わなければ仕方のないことなんでしょうけど、どういう方法がいいのか、という答なんて私には用意できません。ただ、私が高校生時分に在日のことで救われたのは、なんで救われたかと言うと、たまたま伏高に行つてたんですけど、伏高の中で「朝文研」のサークルがありまして、伏高に通つている在日の子らが一堂に会した中で、朝鮮の歴史とか朝鮮の文字を教えていたサークルがあつたんです。そこへ行つた時に、自分と同じ境遇の仲間が三十分人いた。その場へ入つた時に、自分と同じ境遇の人間がこれだけいた、ということで私は非常に肩の荷を降ろしたというか、気持ちが非常にほぐれた気がします。だから、この子がそういうことでいろんな重みを持つ中で、「あなたはひどい差別を受けるか偏見を受けるかも知れないけれども、あなたと同じような境遇の人ってこれだけいつ

ぱいいるよ」と。「同じ在日の悩みを抱えた人で立派な人もいるし、だから別にそういうことは重みじゃないよ」と、言葉よりも仲間がいっぱいいるところへ連れて行く中で、同じ国、同じ境遇の人たちがいるんだというところで、ちょっと救われるようなケースがあるのかな、というところです。これを告知した中で、籍を登録したあとで、そういう機会があれば、東九条マダンも最近やつてたりいろいろしますし、なんかそういう集まり的なところへせいぜい連れて行つてあげた方がいいのかな、という気がします。まあ答にはなつてないでしょうけど、そういうことしか私には今のところ言いようがないです。

仲尾 ありがとうございました。今のお二人のお気持ちの中で、同胞のそいつた子どもたちの立場を思い遣られるお気持ちというのが、切々と非常によくわかりました。

それにつけても私が思いますのは、外国人登録法の存在 자체が問題である、ということをもう一つ考えるべきだと思いますね。つまり外国人登録法というのは、住民基本台帳法とは異なりまして、初めから外国籍の人は、もう出生の段階から別の法律の枠組に入つてる。そして十六歳になれば、登録する義務がある。先ほどの巣本さんの息子さんのお話じゃないですが、登録しなかつたらどうなる。大阪へ行く、東京へ行くという形で言っておられましたけども、登録しなかつたら、罰金二十万円以下、懲役一年以下、という重い刑罰が待つてていう法律です。

日本人の場合には、そいつた十六歳になつたら改めて登録するというような義務はございません。出生届だけでいいわけで、そこからあと、予防注射であるとか、就学通知であるとか、選挙権であるとか、いろんな権利が発生する。これが日本の住民基本台帳法、並びにそれによる住民登録の制度ですね。そういうものとは別に、外国人登録法というものをつて、常時、いつもそのカードを持っていなければいけない。そして今のように十六歳で登録して、それから五年ごとに切替えなきやいけない。それで

指紋または写真といったものが必要だと。こういう日本の住民基本台帳法にない厳しい制度、これを製作している外国人登録法の存在 자체が、この子を苦しめている元凶だと思います。

そういうものの存在を、日本人のわれわれは普段気がつきません。ここにいらつしやるお二人はもちろん外国人登録証をいつも持っている立場におられるわけで、そのことはよくおわかりだと思うんですけども。そういった日本の、外国人に対する差別法制が存在していることを日本人はまず認識し、それをどう変えていくか、ということを考える必要があると思うんです。

今年になりましたから、私が一度参加して話をさせていただいた、あるクリスチヤンの団体がありますして、外国人登録法を改正と言つてもなかなか政府は改正しないから、いつそのこと日本人の住民登録に見合ったような外国人住民登録制度というものを作つて、立法して、それでもつて、今、外国籍の方を苦しめている治安立法的なものを廃止すべきだと、そういう訴えを国会に向けて全国的に起こそうではないかと。そういう動きがあります。もちろん、まだ小さな動きですから、なかなかそうはいかないと思ひますけれども、この問題を基本的に解決するには、今の外登法をなくす、あるいは根本的に改正するしかない、と私は思います。これは現場の窓口を担当してられる方への回答にはなりませんけれども、そういう問題があるということを、一つお考へいただけたらと思います。

ここからあとは、主としてご感想ですので紹介させていただきます。ある方、在日五十歳の一世です。

六、「私も本名を名乗れば、とのことを多く聞きながら現在に至っております。その都度その方々に言つてきましたが、本名を名乗るということよりも、その人そのものを受け入れる社会の体制そのものが問題なのではないかと思つております。本名であろうと通名であろうと、その人の意識がそれを選ん

でいるということが大切であり、また、そのことでその人の人格が変わることはないと思ひます。私は通名であつたり、本名であつたりで暮らしております。しかしながら、子どもを教育する段に当たり、朝鮮人としての誇りを持たせながら生活しております。」

「これはある意味で、先ほどの嚴本さんへの質問の方とはまた違う立場からの意思表明であるかと思ひます。」

もう一人、別の方。これは在日の方ではなくて日本人の方ですね。

七、「私の友人は通名ですが、彼女の兄はある時期、たぶん成人してから以後、日本語読みの本名に改められました。嚴本氏がおっしゃるように、どう名乗るかは本人の意思が第一であると思ひます。ただ、どちらを名乗っていても、本人が抱えていることの重みは変わらない、と私は友人兄弟を見て思っています。どちらを選ぶにしても、それはとても大きな苦労であるように思います。」
こういうご感想が寄せられました。

次も日本人の方ですね。

八、「私の在日の友人は、高校時代は本名で通していましたが、現在はその時その時で使い分けています。民族学校の友人同士でも、時には通名で話して居る場合もある。どのように使い分けるのかと聞いても、友人たちは自分でもわからぬと言つて居る。彼らを見ていて私が思うことは、名前は個人を現わすものであるが、それが全てではない、ということです。」
こういう感想が寄せられております。

もう一人、これは外大生と書いておられます。

九、「私が小学校に行つてゐる頃は、在日の方は通名を名乗つておられ、民族学校へ進学することも恥ずかしいと思つてゐる人もいました。しかし今、本名を名乗る人が大変多くなり、小学校の時に体験した在日の方々が通名を通し、本名を使わなかつた昔の友人たちの辛い思いも、このように堂々と本名を名乗れる社会になつてきただことに驚きました。言語というものが人間にとつてどう影響していくか、この機会に認識できたのは意外でした。」

「ういうご感想であります。

」のようすに、皆さん方のお考えを率直に書かれたことを聞いておりますと、今の在日の方々の抱えておられる大きな課題の一つとして名前の問題があると。それは決してたやすく割り切れる問題ではないんだ、ということのご認識が多いかと思います。

ところで、先ほど嚴本さんがチラッと言われたことですが、先ほど日教組と言われましたけども、日教組はあまりこの在日の方の本名の問題に深く関わつては何も言つております。

むしろ、これは私も関わつておりますが、全国在日朝鮮人教育研究協議会、略称「全朝教」という小・中・高の先生方の組織がありまして、その全朝協では、本名を呼び、本名を名乗る、そういう学校と社会にしていこうと、こういう運動をしております。だから先ほど、嚴本さんが「言い負かされた」とおっしゃった園田高校の先生方も、恐らくそういう運動に関わりのある方だと思います。その先生方は、とにかくヤミクモに本名を名乗れと言つてるわけでもございません。つまり、中学校の段階までは学籍簿が上がつてきますから、通名で行つても、子どもたちが在日であることが学校としてわかつてゐるわけですね。ところがそういう在日の子どもたちに対して、日本人と同じように扱つただけで、特に在日の子がいるからちょっと今まで以上に日本と韓国・朝鮮のことをしつかり子どもたちに教えなきやいけないな、とか、子どもたちが日本の学校に行くことについてどう思つてゐるか、ということの「思

い」が少なすぎるのではないか。そのところの「悪い」をもうと深くしなきやいけないだろう。教科書の問題でも、「わが国」「わが国」と書いている。まさに日本のことを指しているのであって、その場合の「わが国」というのは、在日の子どもたちにとつて一体どのようを受け取られるだろうか。まして、「日の丸」や「君が代」だったらどうだろうか、と。そういうところの反省から、一九七〇年代からその全朝教の運動が広がりまして、今では毎年、千数百人を集める研究協議会の大会が夏に開かれております。

そういう中で、在日の子どもたちが通名できても、その子どもたちと接する場を作っていく。そして、その子どもたちが自然に学校の中で本名が名乗れるような、そういう学校にしていかなきやいけないと、そういう運動があるんですね。もちろんそれは、名乗つただけではダメで、厳本さんがおっしゃつたように、そういう在日の子どもたちが集まる場所を作っていく。そして言葉や文化にも親しんでいく。そういうものを、日本の学校に来ておりながら何か手助けできないだろうかと。そういう方々の先生方の運動があるということをご紹介しておきたいと思います。

それから、今日のお話の中でも出てきた問題は、日本社会でお生まれになつて、そして二世、三世、と世代を重ねてこられると、母国の言葉も一所懸命習わない、生まれながらに身についていない。そして習慣も、自然に日本の習慣の方が支配的になつてる。これはもう避け難い事実ですね。これはいわゆる文化人類学でいう「同化」ということでありまして、これは世代を重ねるにしたがつて、ある意味では避け難い事実であろうと思います。

しかしながら一方では、民族的なアイデンティティー、あるいは誇りといったものをやっぱり生き甲斐にしたい。あるいは、それを大切にしたいと思われる心、これもまた非常にはつきりしておりますし、強烈であり、尊いものだと思います。そのような民族的なアイデンティティーをはつきりさせるものと

して今の日本で考えますと、在日の方々の場合、一つは国籍がござります。韓国籍・朝鮮籍のままでいたいと思われる方、入管法では特別永住者、特別在住と申しておりますが、その方が戦後五十年経つても約六十万人おられるわけですね。それが一つの民族的なアイデンティティーになつてゐる。これは非常に世界的にも少ない例だと思います。そういう国籍の問題が一つ。

それからもう一つは、名前の問題。今日、本名であれ通名であれ、いろんな思いが出ましたけれども、やはり名前を民族的なアイデンティティーの一つとして大切にしたいという思い。これは仮に時には通名を名乗つても、名前そのものは祖国の民族的な伝統を受け継ぎたいという、そういう思いの方がおられる。そういう意味で、この名前の問題は、ある意味で「同化」という一つの雰囲気の中で、それに棹差す大きな武器になつてゐるのではないかと、このようにも思いました。

それからそれを支えるものとして、やはりこれも嚴本さんがおっしゃつたし、あるいはソンさんも言葉を変えて触れられました在日の方々の様々な文化運動、言葉を覚えていくこと、集まりに出ること、踊りや楽器に触れるなど、あるいは歴史を知ること……そういうことが民族的なアイデンティティーを確保していく、あるいは取り戻していく上で大変大切な役割を果たしているのではないか、というように思いました。

そういう意味で、この言葉の問題、名前の問題というのは、この日本社会の中で在日の方々がどれほど民族的な誇りとアイデンティティーを保ちながら、あるいはそれに自信を持ちながら生きていかれるかどうかのバロメーターのような気がいたします。そういうことが問題であるということを、私たち日本人は今はつきりと考えておかねばならないのではないだろうか。つまり、便宜的にどちらを使われてもいいじゃないかという、そういう軽い問題ではないということですね。そういうことを私は改めて痛感いたしました。

それで今日、皆様方にはお帰りの時に、今日のお二人のお話とお配りしました資料の他に、もう一つ資料2をお渡しいたします。それは何かと申しますと、昨年度、京都市が京都市在住の外国人の生活実態意識調査というアンケートをやりました。その中でオールドカマー、オールドカマーというのは一九五二年以前から日本に来ておられた方々とその子孫の方々。韓国・朝鮮籍の方々でいうと、いわゆる在日の方々で特別永住資格を持つておられる方ですね、その方々をオールドカマーと言つておりますが、その方々への質問として、「あなたの子様が、保育所、託児所、幼稚園や学校で本名を使うことを望みますか」という質問をしましたところ、いろんな答えが返ってきました。その中で、統計の問題はさて置きまして、自由記述欄で様々な意見を書いておられます。「望む」と書いておられる方も非常に多い。「望まない」と書いておられる方もかなり多い。「どちらともいえない」という方もかなり多いんです。

そういうわけで、今日のお二人のお考え以外に、京都に住んでおられる在日の方々が、子どもさんの名前についてどのように思つておられるかという思いが、簡潔な言葉でそれぞれつとありますので、今日のお話をお聞きになつた方は是非、この自由記述欄に書かれた在日の方々の、今日のお二人以外の方々の思いも、さらに受け止めていただきたいと思いましてプリントしていただきました。

この中で、一つだけ断わつておきますと、「私の子どもは日本人です」という答を書いた方がおられまです。これはなぜかと言いますと、今の日本の国籍法では、一九八一年の法改正以来、父または母が日本籍であれば子どもは二十歳まで日本籍、ということになつてしまふんです、自動的に。それに対して、韓国籍・朝鮮籍であるということを特に申告しない限り、そうなつてしまふんです。そして二十歳から二十二歳の間にどちらかを選べ、ということになつてるので、今のように、日本籍であれば有利、韓国・朝鮮籍であれば不利という、先ほどソンさんのおっしゃつたような社会状況の中では、とりあえず日本人にしておこうか、ということで日本籍のまま子どもさんをおいておられる方々が非常に増えています。

資料2

設問（3-5）あなたのお子さまが保育園（託児所）・幼稚園や学校で本名を使うことを望みますか。【~~韓国・朝鮮~~のみへの質問】

「望む」

- 私の子供は日本人です。／韓国・朝鮮 20歳代 女
- 韓国人としてプライドを持って育ってほしいと思うから。自由にのびのびと生活するため。／韓国・朝鮮 30歳代 男
- 本名をつかうほうが、楽に生きていくと思う。／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 理由があつて民族学校に通わせなかつたので日本の学校（まだ幼稚園ですが）に通つても、外国籍、外国人であるという事を本人はもちろん周りの人達にも理解して欲しい為。／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 自分の母の祖国と民族に誇りを持ってもらいたい。自分を隠さずに生きてほしい。／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 通名を使う事になるからいけない事だ。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 本名はあくまで本人の持っている名前です。その名前を使うのは当たり前であると思う。通名を使う事の方が難しいと思う。色んな意味で本名を使う方がいいと思う。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 当然の事だから。○通名を使用する事により相手（日本人）が途中で、在日という理由で引くのを見たく無い。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 誇りを持って生きてほしい。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 世界には、多種多様の人々が生活している。日本だけで单一民族で長い歴史があり、なかなか頭で分ついていても、心や政治的発達部で立ち後れている場面が多く、私達自身の歴史の重みを踏まえた上で、やはり本名で生きていく指針を指し続けることが必要だと思います。／韓国・朝鮮 40歳代 女
- 民族性を高める為、望みます。／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 幼い時から、自分がどこの國の人間かということを知っておく為。／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 本名は、本名である。日本だけ通名（日本式）／韓国・朝鮮 50歳代 男
- それが当然だからである。／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 私はずっと通名で来ましたが子供は本名で通している。子供に聞いても学校では先生、生徒とも差別がないということです。私はある意味で民族意識を持ち風化してほしくないと想い出来れば子供に将来本名で通して欲しいと希望している。／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 名前（本名）は一つしかありません。／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 外国人である事を意識し、朝鮮人として誇りをもって生きてほしいから。／韓国・朝鮮 50歳代 女
- 次女が現在京都の私立高校へ在学していますが本名で在学しています。大学、短大へ進学する場合も本名で進学すると思っています。／韓国・朝鮮 50歳代 女

- 差別（いじめ）がなければ望む。／韓国・朝鮮 60歳代 男
- 保育所から本名で通っている。／韓国・朝鮮 60歳代 男
- 外国人である為／韓国・朝鮮 60歳代 女
- 望むが本名でも差別がない社会であって欲しい。今時代に子供までが古い時代の差別意識を引きずつて生きる社会では日本は近代国家として立ち遅れてしまう。
／韓国・朝鮮 70歳以上 男
- 中国人である事が何が悪いねん！！事実は事実！！かくす必要はない。日本人は日本人であるように、中国人は中国人、ほこりを持って生きる為！！／中国 30歳代 男
- 中国籍であることを隠す必要がないから／中国 40歳代 女
- 現在、本名を使っています。／中国 40歳代 女
- 私の場合は、夫が日本人なので子供も日本名になっている。／中国 40歳代 女
- 自分の子供が外国よみのファーストネームと日本語読みのミドルネームを持っている。【原文は英語】／スイス 30歳代 女
- 自分の国籍を隠す必要はない（自分の本名に誇りを持つべきだと思います）。
／中国（台湾） 70歳以上 男

「望まない」

- かならず差別があるから。／韓国・朝鮮 20歳代 男
- 本名を使うことにより、差別等を受ける可能性が多分にあると思う。
／韓国・朝鮮 30歳代 男
- 日本を愛し、日本に住み、日本に骨を埋めるから。／韓国・朝鮮 30歳代 男
- 外国人とわかれば差別を受けなくともイジメにあうかもしれないから。
／韓国・朝鮮 30歳代 男
- 長男は小学一年生で日本の学校に通っていますが本人に問うたところ、日本名でいいと言ったので。
／韓国・朝鮮 30歳代 男
- 日本に住んで日本の家族なので家族全員同じ名字を使いたいです。
／韓国・朝鮮 30歳代 男
- 親の私達も通称名で育ち、社会でも今日まで生きてきているため、同様、子達も特別意識することなく本名を今さら名乗ることの方が不自然なことになってしまっている。
／韓国・朝鮮 30歳代 男
- 自分自身、生まれたのは日本だし、親が外国籍だったというだけで特に母国に対して思い入れもないし、今さら帰るつもりもないでの。／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 親達が世間で通称名を使っているのに子供だけが本名を使うとなるとややこしい。子供に対する説明や回りに対してもそれなりの説明が常に必要になってくる。
／韓国・朝鮮 30歳代 女
- いろいろ不利な事があると思うのでできれば通名で行かせたい
／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 日本国籍の子供たちと同じように生活、暮らしを送らせてあげたいからです。
／韓国・朝鮮 30歳代 女

- デメリットはあるが、メリットはなに1つなし！／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 日本国籍に帰化を希望している。／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 自分自身も子供自身も外国人であるという意識があまりないので
／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 差別がある。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 子供は、日本人に帰化しました。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 友人がはなれていく。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 日本の学校へ行っている以上通名でよいと思う。親、私たちの時代は少なからずいじめや差別があったと思うので。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- その事で最初から対応を考えさせる様な事が起り得ると考えるから
／韓国・朝鮮 40歳代 男
- あえて外国人だということを知らせる必要はない／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 日本に住んでいるのでまわりに合わせたい。差別が怖い。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 日本の国は在日韓国人に対して差別的な目で見ているのでメリットがない。
／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 子供は日本国籍である。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 私自身が日本で生まれ、その子供も日本で生まれ日本の名前で良いと思う。
／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 今まで通名でいっているので、このままでよいと思う。／韓国・朝鮮 40歳代 女
- 日本に住んでいるから。／韓国・朝鮮 40歳代 女
- 外国人であるということでつまらない差別を受けないとは言いきれないから。
／韓国・朝鮮 40歳代 女
- 自分が外国人であることを意識して、時にはそれを不満に思っている事も見受けられますので、好きなようにさせたいと思います。／韓国・朝鮮 40歳代 女
- 通称名も本名と思っていますので。毎日使っている名前をどちらか一つ自分達で選択できたら便利になると思います。／韓国・朝鮮 40歳代 女
- 本人にたまに理由を聞いても言いません。私自身も日本に生まれて育ってあえて本名・通称名そういった分け方にあまりこだわりません。／韓国・朝鮮 40歳代 女
- 日本で生まれ、日本の教育を学び、日本で生活をしており、子供も同じであり、本名を使う事を考えた事がありません。／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 差別を受けるから。／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 国籍の差別があり、私自身日本で生まれ育ち、日本人同様の生活をし、まったく日本人と一緒にです。韓国人であっても日本人としてもはじる事なく教育も受け、胸をはっています。それを国籍だけを見て差別する日本人がおかしいです。／韓国・朝鮮 50歳代 女
- 日本に永住するつもりでいる為／韓国・朝鮮 60歳代 男
- 日本国に永住したいから。／韓国・朝鮮 60歳代 男
- 私の戦前の国民学校で受けた差別を繰り返してと思ってやみません。私の現在の通名も帰化の状況でせめて名前での偏見がなくなって欲しい。通名が付けさせてやれたらと思います。
- ／韓国・朝鮮 60歳代 男
- いじめられるから。／韓国・朝鮮 60歳代 男

- 差別されるから。／韓国・朝鮮 60歳代 女
- 差別やいじめられたくないのが主たる理由。／韓国・朝鮮 70歳以上 男
- 私が子供のころ、いやな目にあったから。／中国 50歳代 男

「どちらともいえない」

- 子供は日本国籍なので、普段使っている名前が実は通称名で、戸籍上は別の名前だという事を知りません。でも、学習塾などのD.M.で、本名でたくさんくるので、何か感じているようで、まだ父が外国籍だと教えていないので困っています。
／韓国・朝鮮 30歳代 男
- 別になんとも思っていないから。／韓国・朝鮮 30歳代 男
- 本当は本名を名乗りたいし名乗らせたいと考えます。それは本名が本当の名前であり、通名なるものがある事自体、不自然でとても屈辱的なものだから。しかし、本名を名乗るには不便があり、差別や偏見を直接受ける心配があるから。／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 日本で生まれ育っています。母国、日本も故郷であると感じています。
／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 現在日本名で生活しているので、私自身は特にどちらとも言えない。本人が望めばそれでいいと思っている。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 子供が望めば本名でよい。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 今の差別意識が残る中で、本名を使うことには抵抗があるが、通名を使わなければならないとも思わない。やはり本名を使うべきなのか…。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 本名を使おうが日本名（通名）を使おうが同じことだと思う。昔は本名を名乗るのは勇気がいったし子供に本名を名乗らせた親は偉かったと思う。／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 本人が本名を使うといったら便えばいいし、通名を使いたいと言ったらそれでいい。
／韓国・朝鮮 40歳代 男
- 本人に任せている。／韓国・朝鮮 40歳代 女
- 本心では本名を使わせたいと思いつながらもそのことによって差別やいじめを受ける場合を考え、幼稚園の頃から通名で通しているので、子供自身が本名だとかえって違和感を持つてしまうところがある。／韓国・朝鮮 40歳代 女
- 日本が米国のように民族差別がなければ米国のようにそのルーツに敬意をひょうして苗字だけは出身国、名前は居住地風と折衷すれば精神衛生上もバランスがとれる。たかが名前どころではなく、かなり人生にとって影響がある。本名を使うことの意味を子孫に話しても受け入れ体制が整っていない現状ではなじみ傷ついたり反発心を育てることになり、難しい。／韓国・朝鮮 40歳代 女
- 子供達が自分で判断できる年令になって、本人の考えにまかせます。
／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 3人の成人の男の子がいるが、本人の意思にまかせる。／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 本名を使えば必ず差別される。／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 子供の判断にまかせています。／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 本人しだい／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 異種のものをあまり受け入れがたい日本社会では、子供の時は抵抗の少ない通名の方がよいと思う。

- ／韓国・朝鮮 50歳代 男
- 通称名の方が呼びやすい。場合によって本名を使えばよいと思う
／韓国・朝鮮 50歳代 男
- その事を意識する事じたいうとましい。／韓国・朝鮮 50歳代 女
- 本人次第です。自分の意志で本名又は通名を名のることを判断できる年齢であれば、その意見に賛成するが、もし小さくてその是非もわからぬうちに本名を使用させることは、現在の社会風潮の中では、学校等でいじめに遭わないともかぎらないので、親の判断として、通名を使用していた。
／韓国・朝鮮 50歳代 女

「無回答」（内容のみ記述）

- 子供は日本国籍です。／韓国・朝鮮 30歳代 男
- 日本籍なので関係のない質問です。／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 現在、本名を使っている。／韓国・朝鮮 30歳代 女
- 子供達は成年男子ですので本人の思いのままにして居ります／韓国・朝鮮 60歳代 男
- 子供は日本国籍ですから本名は同じです。／韓国・朝鮮 年齢不明 女
- 本名しかない。／中国 60歳代 女

1997年9月
京都市在住外国人意識・実態調査報告書 別冊
—自由記述にみる在住外国人の意見— より

きて います。これも先ほどちょっと憂慮されてたことでありますけれども、民族的には一分の一朝鮮民族や韓民族の血を受けながら国籍はもう日本籍で、祖国の国籍はなくなつてしまつてると いう子どもさんがありまして、それが今後も非常に増えるであろうと思われます。そういう方が「私の子どもは日本人です」というふうに表現されておりますので、そのことを予めご説明させていただきました。

ちょうど終了のよい時間になりましたので、今日のお二人の思い、それから質問などに寄せられました思いを受け止めていただきまして、またこれから在日の方々とのふれあいを大切にしていきたいと思います。それでは今日の後半のセッション、これで終わらせていただきます。どうも長時間ありがとうございました。

司会 ありがとうございます。今、コーディネーターの仲尾先生がおっしゃった資料と、あと去年と一昨年に開催しました『チヨゴリとるもの』をまとめた冊子を、先ほどの受付のところに置いてあります。ご自由にお取りください。

次回と次々回のご案内ですが、次回は今月の二十日に第三回目を開催します。また四回目は最終回としまして、パネルディスカッションをこの建物一階のイベントホールで開催します。その時は終わりに、韓国・朝鮮のチヨゴリのファッショントシヨーを予定しておりますので、まだ申し込んでない方は、申し込み用紙も受付のところに置いてありますので申し込んでください。それでは本日はご来場ありがとうございました。

第三回『生きる——老後』

パネリスト

皇甫

フアンボ

任氏

イム

(在日一世)

朴順德氏

スンドク

(在日一世)

コーディネーター

仲尾

スンゴ

宏氏

イム

(京都芸術短期大学教授)

一九九八年二月二十日実施

第三回『生きる——老後』

第一部

司会 大変お待たせいたしました。それでは早速、第三回目『生きる——老後』について、お話をいただきます。今日のコーディネーターの方は、皆さんご存知のように仲尾宏先生です。パネリストの方は、まずお一人目が皇甫任さんです。もう一人の方は朴順徳さんです。お二人とも在日一世でございます。それでは先生、よろしくお願ひします。

仲尾 皆さん、こんにちは。アンニヨンハシムニカ。

世代別にいろんな体験を語つていただく今年のシリーズも、もう三回目になりました。三世、二世とたどつてきまして、今日は一世の方です。今、京都市の在日朝鮮・韓国籍の方々は約三万六千人ですが、どんどん一世の方がお亡くなりになつています。三万六千人のうち一世の方は、恐らく三千人少々ではないかという推定です。今日はたまたまお一人の一世の方、どちらも女性の方で同じ年齢、間もなく十七のお祝いの喜寿の歳を迎えるお一人の方に来ていただきことになりました。

最初は、皆様方から見まして左側にいらっしゃるのが、先ほど紹介にありました皇甫任さんです。故郷は慶尚北道で、そこでお生まれになつて、十六歳の時に日本に渡つて来られました。ご主人は既に亡くなられて、もう五十年前にお別れになつている方であります。お一人でお孫さんまで何人も育てられたんですけども、皇甫任さんは非常にお話もお好きで、そのお話をまとめられた『十一月の鳳仙花』という本が、何年か前に小径書房というところから出でております。今日のお話を聞いていただいて、ご

関心を持たれた方は書店でお求めいただければと思います。

皆様から見て右側にいらっしゃる方が、朴順徳さんでいらっしゃいます。十九歳の時に朝鮮半島の全羅南道からお越しになりました。やはり一十年ほど前にご主人とは死別されております。

お二人のお話、それこそ一つ一つが物語、小説になるようなお話だと思いますが、お話を聞く前に今日皆様にお配りした資料3を少し紹介させていただきます。つまり今の在日のお年寄りがどういう状況でいらっしゃることかということを、まとめたデータがありますので持つてきました。

最初に「在日コリアンと高齢者福祉」と書いてある方から行きます。これのデータは右側から行きますが、京都のものがないので、たまたまこれは大阪の西成地区で行った調査の結果であります。これは九四年の実施ですが、現状はそれとあまり変わらないと思います。千九百八十一人、約二千人を対象にしました。ここで日本人と在日の方々の比較をしたもののがございます。これで見ると、在日の方々で独立して日本人と違う点があります。一つは一人暮らしが多い。それから通院中、病弱である方が多い。生活保護の受給が日本人と比べて多い。国民健康保険の未加入が多い。それから文字が全然読めないという方が非常に多いし、全然書けないという方も非常に多い。下の方へ行きました、市の行政サービスを全く知らない、市の行政サービスを読めないので全く知らない、こういう方の比率が日本人よりも独立して高いということがござります。そういうことが一つの大坂の特徴であります。京都でも同じようないふなものがございます。

それからその左側の方は、外国人の無年金者の問題であります。外国人の方の国民年金については、一九八一年に外国人の加入が認められた時点で三十五歳を越えていた方は無年金ということになります。その後、一部改められまして、満二十五年の掛け金を満たさないでも部分的に貢えることにはなつたんですが、非常に少ないわけとして、その無年金者の推定数はよく分かりませんが、少なくとも一世

在日コリアンと 高齢者福祉

西成地区の在日韓国・朝鮮人高齢者の実態
 (94年地区高齢者ニーズ調査報告より)

全国調査対象数 1,981人 有効調査数 1,752人
 在日韓国・朝鮮人 225人(12.8%)
 (男性——88人、女性——137人)

調査項目	日本人(全体に占める割合)	在日(在日全体に占める割合)	備考
一人暮らし	30.4%	33.8%	
居住歴20年以上	61.1%	57.3%	
通院中、病弱	77.6%	85.3%	
要介護	15.7%	17.8%	
生活保護受給	15.6%	24.4%	
国民健康保険加入	66.3%	83.6%	
国民健康保険未加入	12.1%	21.3%	
全然読めない	10.7%	41.8%	
かな(カナ)なら読める	7.2%	16.0%	
全然かけない	16.7%	52.4%	
かな(カナ)ならかける	8.7%	8.0%	
近所づきあいがない	41.7%	45.8%	
親しい友人かいなない	42.5%	54.2%	
町会、自治会活動参加	17.6%	15.1%	
市行政サービスを全く知らない	7.1%	21.3%	高齢者関係行政サービス
市行政サービスを全く知らない (読みない)	2.6%	12.9%	全然読めない人
市行政サービスを全く知らない (カナなら読める)	1.1%	3.6%	かな(カナ)なら読める人

西成地区協議会ホームヘルパー派遣対象者 150人 (内、在日8人 5.3%)
 鶴見橋地域デイサービスステーション登録者 69人 (内、在日10人 14.5%)

(外国人の無年金者推定数)

① 障害基礎年金

* 京都府全体の推定数は不明（把握していない）

* 京都市・宇治市・宮津市が無年金者に給付金を支給している。

区分	支給者数(平8.6現在)	給付金の月額
京都市	54人	36,000円
宇治市	3人	36,000円
宮津市	1人	14,000円
計	58人	――

② 老齢年金

* 京都府全体の推定数は不明（把握していない）

の方々は大部分が無年金者であるうと推定されます。地方自治体でそういうた欠陥を補う意味で年金を出していくという方向に進んでいますが、まず障害基礎年金については、京都府全体での推定数は分かれませんが、京都市についてみますと、その表にありますように、今から一年前に五十四人の人にに対して月額三万六千円が給付されるということになりました。また、老齢年金の方はこれも対象者はよく分かりません。まだ把握していないことがあります。が、ずっと無年金でした。現在も無年金です。ただ昨日の京都新聞の夕刊によれば、来年（一九九九年）の一月から京都市が国に代わって月額一万円を支給するということが、新年度予算で決まったということが報告されています。

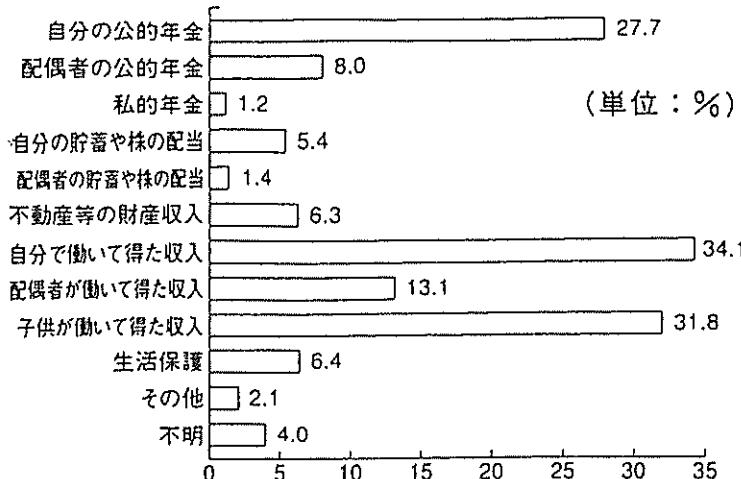
資料4の表を見ていただきましょう。これも前と同じく、『Sai』という在日の方々の情報誌と言いますか、雑誌に出たデータです。右側のデータ1から見ますと、世帯収入の種類の複数回答があります。どうやって暮らしておられるか、一番多いのは「自分で働いた収入」、それから「子どもが働いて得た収入」というのが非常に多いですね。ですから、非常なご高齢であってもまだ働いていらっしゃる。あるいは子どもさんの扶養という形である。その次には「自分の公的年金」ということですが、先ほど申しましたように全額支給の方はいらっしゃらないわけで、ごく部分的な支給ですが、それを得ていらっしゃる方が「七%はある」とことです。

その下のデータ2では住宅の不便さ、この中で際立っているのが「特はない」というのが一番多いんです。が、ある方では「住宅が老朽化している」「風呂がない」「環境が悪い」ということで、居住環境が非常に悪いとすることが言えます。

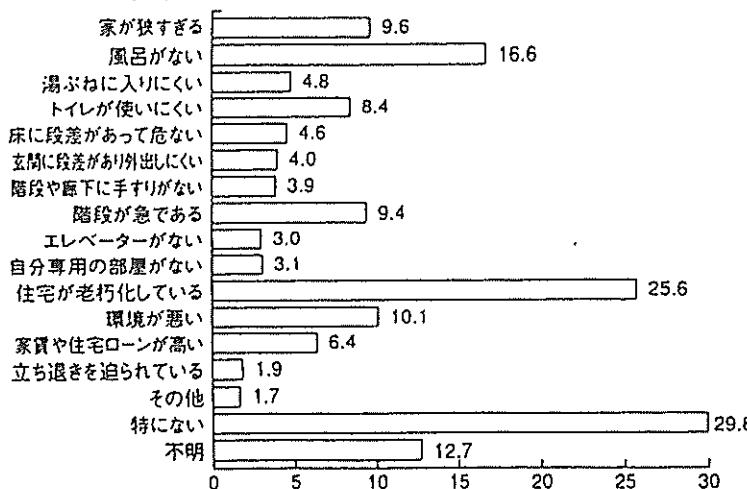
データ5は介護をする方々についてのデータですが、在宅サービスへの不満として、「サービスがあまり知られていない」、それから「在日外国人に気配りされていない」といったことが出てまいります。データ6は施設のサービス、いろんな老健とか特養とかいったところの施設だと思われますが、その

資料 4

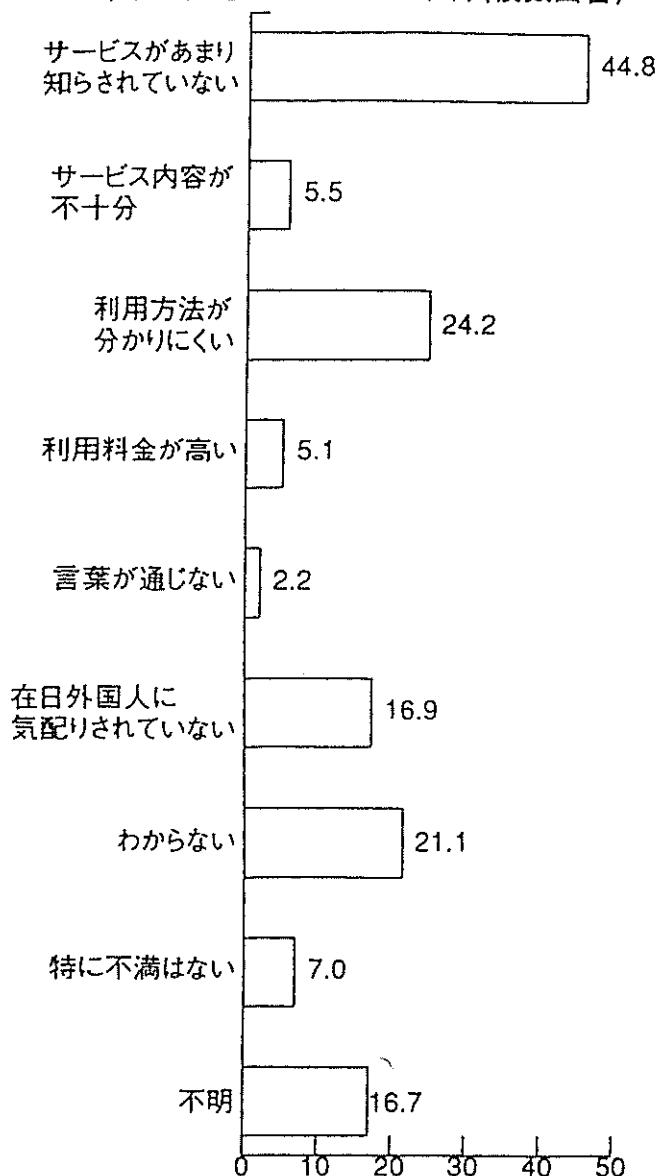
DATA (1) 世帯収入の種類(複数回答)



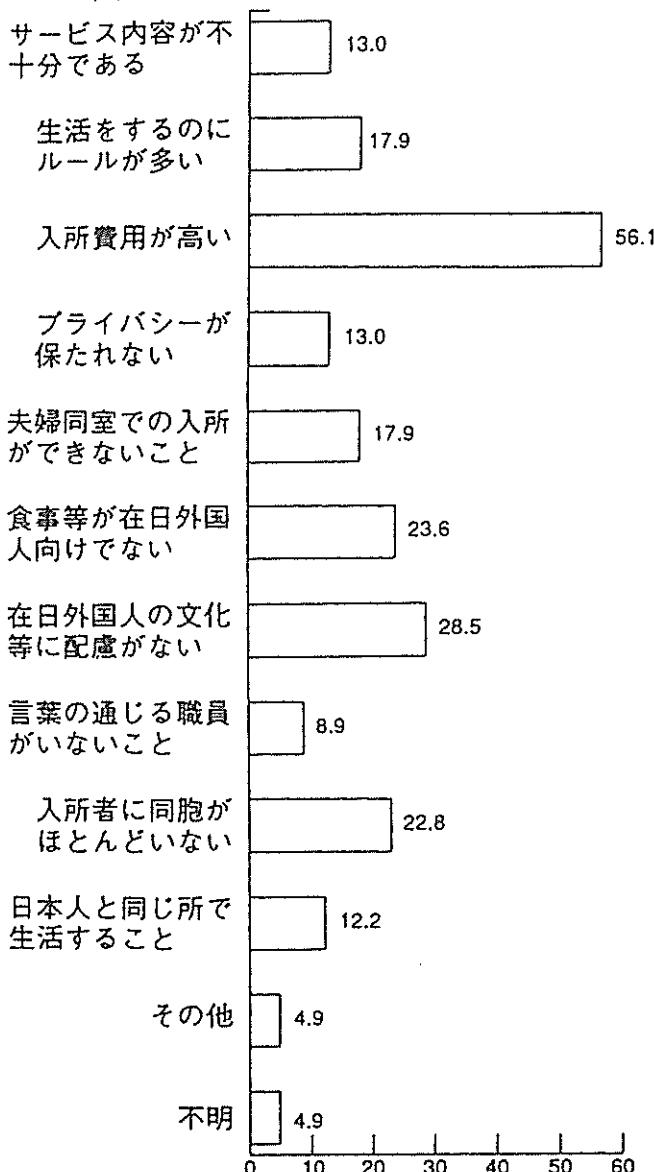
DATA (2) 住宅の不便さ



DATA(5) 在宅サービスへの不満(複数回答)



DATA(6) 施設サービスに対する不満(複数回答)



中での不満はまず「入所費用が高い」五六%、「在日外国人の文化等に配慮がない」二八%、「入所者に同胞がほとんどいない」一二%と、こういったところが際立っております。

なぜそうなのかということにつきましては、お一人のお話をお聞きしながら、また皆さん方のご質問なども含めて、後半のセッションでお答えしてまいりたいと思います。

それでは、今からそれぞれ二十分ばかり、お一人にご体験をお話していただこうと思います。日本に早く来られた順序で、最初に皇甫任さんからお願ひいたします。



皇甫 任氏

皇甫 フアンボ・イムです。どうぞよろしくお願ひします。日本と韓国の一一番最悪の時代に、私は生まれ育ちました。学校へ行つても、韓国の文字や言葉を一切禁じられており、日本語や日本の文字を教育するため、親たちは「女の子は絶対に学校なんか行かなくていい」「ハングルは家で教えるから」と言って、それで学校へ行けなかつたのです。私の年頃が一番無学が多いんです。そして、男たちだけでなく満十六歳の少年少女まで挺身隊に駆り出されるようになり、私の母はまだ十六にもならない私を、日本に來ていた知り合いのところに嫁に出しました。

日本に來てみたら、本当にその当時の朝鮮人の暮らしはみじめで、家らしい家は貸してもらえず、位置のようなバラックを借りて一間ずつ仕切つて、お互いの物を借りたり貸したりの生活をしていました。六畳一間に七人が生活しているところに、私が嫁として来たんです。本当に悲しい思いをしました。読み書きはできない、日本の言葉が分からぬ、自分の部屋さえない。それでも泣いて帰ることはできません。

昭和十三年二月八日に来て、三月二日から働きに出されました。まだ十一歳の主人の妹が通訳として、二人共、同じところに働きに行きました。朝七時から始まつて晩六時まで働き、午前と午後に十五分ずつ、昼休みに三十分の休憩があるだけで、それ以外はトイレも許されなかつたんです。今のように自転車もバスもありませんから、仕事場まで二、三十分かかつても歩いて通つたもので。今考へても、十一歳というと遊びたい盛りなのに、よくも一日辛抱してくれたと涙がこぼれます。その人が健康でいたらいんですが、寝つきになつて六年にもなります。

そうして会社へ行くと、仕事は見よう見まねすぐできますけれど、言葉はそう簡単にはいかなくて苦労しました。でも一生懸命頑張つたら少しでも生活が楽になるかと思って、八人の家族で五人までが弁当を持って仕事に行きました。どうして五人も働いて、一軒の家を借りられないのでしょうか。それは日本の国が、朝鮮人を日本から逃げださないようにお金を一切持たせなかつたのです。どんな重労働をしても、食べるだけしか貰えないから、十一歳の子どもまでが働いて、私も嫁に来てただ二十日しか食べさせてもらえなかつたんです。

もう五十年も六十年も働いても、私には年金もありません。自分が健康な間は頑張つて、子どもたちに世話にならないでおこうと思っています。子どもたちも自分の家のローンや子どもの学校のことでもんな忙しいのに、何一つ親らしいこともしてやれなかつたので、子どもには心配をかけないでおこうと、今でも楽しく働いています。野菜を作つたり、花を作つたりして好きなこともあります。

読み書きできなことがどんなに悲しかつたか。いつか勉強して、自分の名前や自分の住所だけでも書くうとしても、その余裕はありませんでした。早いもので子ども五人のうち三人を結婚させて、やつと自分の人生を振り返つてみると、今まで読み書きできなくて恥ずかしい思い、悔しい思いをした日々、本当に手探りで生きてきた日々を忘れるためにも、残り少ない人生を少しでも明るく生きようと学校へ

行く決心をしました。

郁文夜間中学校に行つて面接を終えて帰つても、小学校にも行つたことのない者がとても中学校は無理だと思つたりして、本当に眠れない夜が続きました。それでも三年間頑張つてみようと学校へ行くと、先生方は差別意識も全然なく、熱心に教えてくださいました。けれども六十歳近い者が基礎から学ぶことはなかなか難しく、また病弱な夫の世話や仕事に家事に、落ち着いて勉強する間がなくて、もう止めようかなと思つていたら、息子が「僕が教えてあげるから頑張つて」と励ましてくれて、本当によく教えてくれました。

それで今まで全然気が付かなかつた立看板や道路標識が読めた時は、本当に嬉しく思いました。あつという間に三年を終えて、名前だけの卒業証書をいただいた時は、先生方に心から感謝の気持ちで一杯でした。それから苦労して学んだ文字を忘れないように、九条オモニ学校へ行きました。九条オモニ学校は、一週間たつた二時間位の授業ですが、その時に優しい先生方にお会いしました。今まで自分は悲しい思い出や悔しい思い出ばかりが心に染み付いて、暗い人間になつていきました。それをその先生方との出会いで、自分の気持ちを反省することもできました。

世の中のことが少しづつ分かるようになり、友達を一人作つて立ち話する時間もでき、自分の日記といふようなものを、いろんなことで苦しくなつた時は、思いのまま、感じたままに書いてみると少し気が楽になるのを覚えて、ハングルで書きました。

オモニ学校も長くは続かず、主人の病氣がだんだん悪化し亡くなりました。人生長いようで短いものだなど、もう勉強する気も仕事をする気もなくなりました。しばらく家にいると、本当に平和というのは有り難いもので、若い者が贅沢を一杯言うのを見て、五十年前の日本も貧しい時もあったよ、あまり無駄遣いしない方がいいよと言つたら、年寄りの小言やと言われます。今までハングルで書きとめてい

たものを日本語で訳しておけば、きっと若い者も見てくれると思いまして訳したんです。それを先生方が家に来てくださった時に、直してもらうつもりで見せたものが、先生方で回し読みをされて、「十一月の鳳仙花」という本になりました。けれど、自分の恥をさらすようで、ありのまま書いたから、家族の悪口を書き並べたようで、どうしたらいいものかと悩んでおりました。この本を読まれた全然見知らない方から、温かい心が伝わるような手紙が沢山届きました。私は、本当にこの世の中には心の優しい方が沢山いらっしゃることも初めて知りました。

うちのおじいさんは、大正十三年に強制連行されたそうです。私はその家の嫁として来たのですが、その子孫はもう五代目の私の曾孫が生まれました。その孫たちは、たまたま本籍が韓国であることだけで、いろんな差別を受けております。勿論、選ぶ権利も選ばれる権利もありません。商売する者は税金を納め、市民税をきちんと納めても、京都市民ではなく外国人です。昨日や今日、好きで来た外国人と一緒にしてもらつては、あまりにも可哀相すぎます。皆さんにも少しご理解をいただきたいと思います。

いろんな体験の中でも、子どもの頃に見たことや聞いたことは、心にはつきり残っています。今の平成天皇陛下さんが生まれた時、韓国にも日の丸の旗を立てたのです。それで日の丸の旗を白地に染めながら、うちの父親は「この国旗は日本の国旗だ。朝鮮の国旗はこれだ」と、小さく置んで隠してあつたものを出して私たち兄弟に見せてくれました。その時初めて、それぞれの国々に国旗があることを知りました。通りにムクゲの並木道がありました。そのムクゲの花を根こそぎ切られて、日本の花である桜に植え替えたのです。その桜並木道は今でも残っているそうです。

日本に統治されてから、何が悲しいと言つて、家族が離れ離れになるのが一番悲しかつたと思います。子ども一、二人もあるお父さんから、昨日結婚したばかりの若い者、満十六の少年少女まで、どんどん駆り出されました。私の国では若い男たちはとても大切に育てられ、あまり辛い仕事をさせずに勉強を

させました。そんな者をいきなり炭鉱やトンネル工事に放り込みました。その人達には労働ができる人
もあればできない人も多かつたと思います。仕事ができないと食事まで制限され、叩き殺されたり生き
埋めにされたりもしました。仲間が口を出すことも、助けることができず、帰ってきた人も、間もなく
後遺症で亡くなつたりしました。

戦中は日本人として戦場へ行く人や、徴用されて軍需工場で命をかけて一緒に戦つてきたのに、戦争
が終わると紙屑のように使い捨てられました。一銭の補償もなく、無理やりに日本人にされたり、いら
なくなつたらあつさり外国人として外国人登録証明書を持たされ、犯罪人のように指紋を取られ、三年
に一度の切替えがありました。私の次男はまだ三歳の時、うつかり切替えが遅れてしまいました。その
時も市からは何の注意もなく、いきなり法務局から人が来たのです。それで、まだ赤ん坊をおぶつて三
歳の子どもを連れて、青森から仙台まで一晩かけて行きました。法務局で写真を撮られ、始末書を書け
と言われて、書けないと言つたら誰かが書いて、ハンコを押して罰金を収めて帰つてきました。まだ三
つ位の子どもが登録が遅れただけで何ができるのでしようか。どんな悪いことができると思つて、そん
なひどいことをするのでしょうか。

私はずっと故郷を思い続けてきました。しかし息子や娘の故郷は日本です。韓国へ行つても日本人に
見られるのです。うちの息子が韓国へ喜んで行つたのですが、向こうでは「日本人や」とか「キヨツボ」
と言われたと言つて、悔しがつて帰つてきました。私たちは日本に来てさんざん差別されてきて、また
韓国へ行つても言葉も風習にもついて行けないから逆に差別されたりする、本当に悲しい人生でござい
ました。

仲尾　どうもありがとうございました。それでは続いて朴順徳さん、お願ひします。



朴 順徳氏

朴 私は韓国の全羅南道アン島という島で生まれて育ちました。あまり親が貧乏生活をしていて、家族の男はみんな死んで女ばかりの四人になりました。どうやつたら人並みの生活がしていいかなど考えている時に、人から「日本へ行つたら金儲けできる」「行つた人はお金を送つてきている」ということを聞いて、それでは私も日本へ行ってお金儲けしようかなと思いました。

そんな十七歳のとき、韓国で結婚を勧められましたが、けれども、「ここでは結婚しません。死んでもいいから、私を日本へ行かせてください」と親に言つたら、そのまま娘で日本に行つたらどこかへ売り飛ばされてしまう、日本の戦争が始まって、兵隊に娘はみんな引っ張られて行つてしまふから駄目だと反対されました。どうしたらいかと思つていたんですが、二十年前に亡くなつた主人が貧乏生活が嫌になつて、十九歳で先に日本に来て大阪にいたんです。結婚せずにいたものですから、世話人が相手を探して、私をその人と韓国で結婚させたわけです。そして結婚して三日目に、主人は日本へ帰つてしまつたのですが、一年以上経つて日本へ主人を探しに来ました。そしたら働く場所もなかつたのか、仕事もせず一人ブラブラしていました。

私は、京都市右京区西京極の東側町というところへ、そこに知つてゐる人があつたから、どうしたらいいか相談に行きました。その知人は住むところをということで、よその夫婦が住んでゐる三畳間を紹介してくれました。そこに入つたら何一つありません。また、言葉を知らないので、あつちへ行つてもこつちへ行つても言葉が分からず、どうしたらいものか途方に暮れていたら、同じ朝鮮の人がいろいろと教えてくれました。

主人もどこか働く場所を教えるから一度仕事をしてみてはどうかと、晒工場の方へ連れて行つて

もうい、そこで働きだしたのですが、日本語を知らないから、その会社へ入つたら毎日頭を下げるだけで、何もしゃべりませんでした。しかし二年程が過ぎた時に病気にかかつてしまいまして、その会社を辞めました。

辞めると同時に、その三畳間に住んでいる奥の人が、子どもができるから出て行ってくれないかと言わされたのです。出るところもなくどうしようかと思つていたら、また三畳間のところを紹介してくれました。知つてゐる友達が、お茶碗やお箸、お膳、鍋といったものを、一通り買つてくれました。そこで二年程暮らしていくたら、そこも出てくれということになりました。またどうしようかと悩んでゐる時に、晒工場の職人が泊まつていていたところに住めることになりました。屋根はトタン葺きですので夏はもう暑くて暑くて辛抱できない位でした。それでも六畳と三畳の一間があり、「ああ、これでも結構」と言つてそこに住みました。

そこでまた困つたのは、仕事に行かなければいけないし、お金はないし、どうしたらいいのかということでした。この頃日本は戦争が始まり、晒工場は閉鎖になつたんです。その時には、ハギレとか木綿の生地を会社の人が隠して闇で売りました。それで、朝鮮の人があれを請け負つて、木綿の生地を私に売つてみろと言うのです。言葉を知らないのにどうしたらいいのかと思つたんですが、何とか行つてみると言われて、それを持ってお百姓の家へ行きました。

私を見ると、女の子が戸を開けて「お母さん朝鮮人が來たよ」と言つて、お母さんがそこから覗くとパチッと戸を閉めてしまつたんです。どうしようもなく、一人泣いて帰つてきました。その後あつちこつち教えてもらつて、安く売れたお金でうどんとかメリケン粉とかを買って、食べるのがやつとどいう時にもう子どもができる、どうしようもなくなり、近所の人の勧めで民生へ行つたのですが、「日本の金やで。何を言つてんのや」ときつと怒られ、何も言わずに泣いて帰りました。

それでもハギレを持つてあちこち知らないところへ行って、「あなたどこに住んでいるの」と聞かれた
ら、「河原町や」と答えたたら買つてくれるところもありました。子どもが一人できたのですが、子どもは
六年生位で学校を辞めて働かなければと、息子と娘は友禅工場へ働きに出ました。あの時分の賃金は二
百円位でしたが。それで何とかやつていこうと思つて頑張りました。

身内さえあつたら何とかやつて行けるけれども、身内が誰もいない。助けてくれる人が誰もおりませ
ん。それで主人は酒に酔つて、ヤケクソになつて殴る蹴るの暴力をふるうという始末です。一度喧嘩を
して子どもをみんな寝かせてから、夜の十一時半か一時頃に、桂の大橋の下で大きな砂利の運搬車があ
るところに深い池がありました。そこへ入つて死のうと、行つてみると、お月様がきれいで水もきれい
でした。堰堤のところから飛び込もうと思つた時、自分の顔が水に映つて「こっちへ来い」と呼ばれて
いるようで怖くて、後ろへ倒れてしましました。一時間程そこで泣きました。嫌になつて家に帰ると、
主人はいびきをかけて寝ていました。

それでいつの間にかこんな歳になつてしまつてどうしたらいいかと思い、京都市役所の方に、朝鮮の
年寄りに年金はないけれど何らかの援助をしてくれないかと思つて、相談に行つてみました。すると
「事情は分かるけれど今のところは……」ということで、帰つてきました。未だに国へ帰ることもできず、
兄弟にも会えません。こんな状態で毎日苦しんでおります。

日本へ来て数年後のことです、戦争の少し前のこと。朝鮮人がみんな呼ばれたことがありました。「ど
こへ行くのですか」と聞くと、「韓国から兵隊が来るから、西本願寺でみんなで迎えに行くのよ」という
ことでした。それで白いエプロンとたすきをして、初めて西本願寺について行きました。両脇に並んで
いたら、韓国から徵集された兵隊でしょう、皆んな隊列を組んで西本願寺に入つて来るのをお迎えした
ことがあります。

日本へ来てこんなことになるのかと思いました。本当に何も知らないまま日本へ来て、いろんな差別も受け、主人にも恵まれず、主人は肺病にかかつてしまつて十八年間病院生活をしてから亡くなりました。本当に何が幸せか何が嬉しいか、喜ぶことが何もあります。こういう人間に生まれたのかなと思つたりしています。お話することは、これ位しかありません。

仲尾 ありがとうございました。お二人の長い在日としての歴史の、ほんの一部をお話いただいただけかと思いますが、非常に重いお話でした。今のお暮らししぶりについて少しお伺いしたいんですが、皇甫さんは働いていらっしゃいますが、お住まいは子どもさんと一緒に住んでいらっしゃるんですか。

皇甫 はい。

仲尾 子どもさん何人で、お孫さんは何人でしょうか。

皇甫 息子三人と娘が一人です。嫁がとても気性のいい子で、家に来てもう十三年になりますけど、怒った顔を見たことがないんです。いつも三人で笑つて暮らしています。私は年金がないから働いていますが、仕事に行つても若い人がみんなよくしてくれますし、私は本当に有り難く思つています。好きな野菜や花も作つて一日一日を楽しんでおります。

仲尾 はい、ありがとうございます。今まで皇甫任さんご自身は、重い病気にかかつたりしてお困りになられたようなことはございませんでしたか。

皇甫　主人がまだ生きている時でしたが、結核にかかりまして五ヶ月ほど入院しました。

仲尾　そういう時の保険とか、医療費はどうなさいましたか。

皇甫　医療費はみんな実費です。嫁が主人の面倒もよく看てくれまして、私がいない時もちゃんと汚い洗濯までしてくれまして、本当にいい子なのですが子どもが出来ないのが残念です。

仲尾　ありがとうございます。朴順徳さんは、今ご家族はどういうお暮らし向きででしょうか。

朴　みんな別々に住んでいましたけれど、今は長男と一緒に住んでいます。

仲尾　お孫さんは何人いらっしゃいますか。

朴　長男の孫やら全部入れたら十三人になります。

仲尾　まだ故郷へ帰ったことがない、ご兄弟にも会えないとおっしゃつてましたけれども、ご兄弟、ご親族との手紙とか電話でのやり取りはありますか。

朴　今は電話が付いてますからね。手紙と電話は、たまにこちらからもできるようになりました。一度会いたいやかましく言つてるんですけど、私もそうだ同じだと言つて……。

皇甫 国内旅行するより安いよ、行つたらいいよと人は勧めてくれますが……。

仲尾 そうすると全く身内の方がいらっしゃなかつたから、ご主人が亡くなられてから後は、子どもさんだけが頼りということですね。

朴 私には身内は今でも誰もおりません。独りぼっちです。

仲尾 今、お仕事は続けてらつしやるんですか。

朴 こんな歳ですから、もう駄目です。

仲尾 どうもありがとうございました。お一人から、いろんな思いをお聞かせいただきました。まだまだ話し足らないといふところもあると思いますが、これから後は皆さんの方から、ちょっとこういうことをあの方にお尋ねしたいということをお聞きした上で、またお一人に少しづつお話ししていただこうかと思います。それでは、休憩の時間などをお知らせください。

司会 お話をありがとうございました。それでは、ただいまより休憩に入ります。お手元のご質問・ご意見用紙に、ご質問なりご意見をお書きになつてください。この前の方にご意見箱を置いておきますので、そちらに入れておいてください。一部の質疑応答は、三時十五分位から始めさせていただきます。

第一部

質疑応答

司会 それでは、皆様からのご意見・ご質問を基にしまして、質疑応答なり、意見交換を行いたいと 思います。それでは先生、よろしくお願ひします。

仲尾 それでは再開いたします。何通かのご質問とご意見、ご感想をいただいています。まず、お二人への具体的なお尋ねから始めます。時の順を追つて整理してみました。

一、「お」一人が来日された頃の朝鮮半島の経済状況や、一般的の平均的な生活レベルは、どんな感じだったんでしょうか。」

こういうお尋ねです。先ほどご紹介しましたように、皇甫任さんは慶尚北道、大邱の近くのお生まれと聞いています。それから朴順徳さんは全羅南道の島の方からということで、同じ朝鮮半島の南部ですけれども、少し出身地域が違います。それぞれ自分の故郷での暮らし向きはどうだったのか、そのことと日本に渡つて来られたこととは重なり合う原因があるかと思いますけれども、その辺を中心にお聞かせいただこうと思います。ではまず、皇甫任さんからお願ひします。

皇甫 私が日本に来たのは、挺身隊といつて満十六歳の少年少女がどんどん駆り出されている時期で、その宣伝では日本で男の子は学校へやる、女の子は勉強させて看護婦さんにさせると言つて連れて行つたんですけれども、男の子は売り飛ばされ、女の子は兵隊相手にさせたのです。それを聞いた母は恐れ

て、まだ満十六歳に何ヵ月も足りない私を日本にお嫁に出したのです。日本でも自分の知り合いのところなら安心だということでおされました。

韓国にいられなくなつたのは、お米を作つても六割以上は供出と言つてみんな日本に送ることになりました。白いご飯なんて食べることはできませんでした。それがだんだんひどくなつて、今度は穀物から織物の綿や麻まで、軍で使うために取り上げたり、私のところは昔は焼き物も沢山作つていたらしいのですが、それも先生方がみんな日本に連れて行かれて焼けなくなつたから、台所に使う物は真鎌でできていました。食器から皿、お箸まで全部、真鎌でできていたんです。それを磨いて使つていたのですが、それまでも軍需物資として集めるのを見ました。始めは何個か出すように命令があつたんですが、本家ではチエサとかの時に、お客様が一杯集まるので食器も沢山あつて蔵にしまつておいたものを、戦争がだんだんひどくなつて物資が不足してくると、妹から聞いた話では蔵を開けさせて箱ごと持つていかれただそうです。昔は金でできた盃とか、いろいろありました。お嫁に行く人は、金の匙とお箸を二つ揃いで持つていくんです。そんなのを一つ形見として欲しいと言つたら、「もう何も残つていらない。箱ごとみんな持つて行かれたから」と言つてました。

仲尾 ありがとうございました。皇甫さんのお宅は農家で、お米を作つてらつしやつたんですか。

皇甫 はい。お米を作つてました。息子たちは勉強ばかりで何もさせずに大事に育てて、本家では農業する人を三人が四人使つていました。それがだんだん百姓をしても食べることができないし、農業する人を食べさせることもできなくなつて、だんだん……。

仲尾 それで、田や畠は皇甫さんのお家の物でしたか。それとも地主の物だったんですか。

皇甫 初めは、全部本家の物でした。私の父親は四人兄弟の末っ子だったんですが、田んぼや畠はかなり貰つて出たそうです。その家もあったんだそうですがどうしたのか、私が小さい時のことですから分かりません。

仲尾 ありがとうございました。皇甫さんの幼い頃の年代と申しますと、一九三〇年代の後半位かと思われますが、その以前一九二〇年代から産米移出政策というのがありますと、獲れたお米は日本に持つて行くという割当制度が、朝鮮半島の農家にあつたんですね。それで元々は八割位のお米の自給率だったんですが、時代が経つにつれて朝鮮半島でのお米の自給率が減りまして、四割から五割が雑穀を食べているというような農家になつてしまつたということが、統計上出でております。これが、産米移出政策の結果なんですね。それで農家であつても食べなくなつたというのが、今の皇甫さんのお話の中に出てきたことの背景かと思います。

それから真鎗まで全部持つて行つた。これは戦時体制になつてとにかく沢山の軍需物資が要る。木綿や麻というのは軍服になりますね。真鎗を始めとした金属は、軍艦や鉄砲の材料になるということで、供出が行われていた。日本でもそれはありましたけれども、朝鮮半島でも同じように大日本帝国の一部だからということで、そういうことになつたのだと思われます。皇甫さんはそういうご経験をお持ちです。

朴さんの方は海の近くでお育ちになつたと思うんですが、朝鮮での暮らし、ご家族のお仕事をお聞かせください。

朴 前は海だし、後ろを見たら山しかないところでした。貧乏な生活だったから、お米は作れませんでした。ですから、畑でお芋だけを作つてました。そして綿を作りました。私の国は周りが海で、上等の（巻寿司の）海苔がすぐよくできるところです。みんな船でとつてました。お金のある人は沢山とつて貿易し、みんな日本へ行くという話でした。子どもにも食べさせられない。子どもが沢山いても整理した後のクズを食べさせて、私は海苔も満足にはあたりませんでした。食べたらあかんと言われていました。麦とさつま芋しか食べられなくて、それが嫌で私はここでは結婚しない、日本へ行くと言つて突つ張つたんです。今でも海苔は韓国の特産でしよう。一番いいのがよくできています。そういうことです。

仲尾 本当に韓国の海苔はおいしいですね。今のお話もありましたように、植民地としての朝鮮半島は、そこで経済が自立するというシステムには、もうなつてなかつたんですね。全てが日本本土の国策のためにやるということですから、そこで農民や漁民、あるいは商売をしている人が生活して行けるかどうかという政策というものは、総督府としてはほとんど考えていないかったです。その結果が、どこにいてもほとんどが食べられなくなつてしまふ。それで日本に渡つて何とか仕事を見つけようと、何とか食べられるようになつたのが、お二人のお越しになつた、二十年代後半から三十年代前半の実情だつたといつたことが、今のお二人のお話がらも裏付けられたような気がいたします。

その後に、いわゆる募集、官斡旋、それから徴用という強制連行が始まつてくるわけですね。お二人の来られたのは、その始まる以前の状況ですが、それでも今おつしやつたようなことが背景にあつたということだと思います。

それからその次ですが、これは戦後の話になるかと思います。

二、「皇甫さん」に質問します。お話の中で結核にかかられたということでしたが、法定伝染病として療養中も完治後も、保険証その他の医療サービスはきちんと適用されたのでしょうか。全くの実費だと、薬などかなり高いし、投薬後の経過にも検査等で費用がかかると思いますが。」

「ということです。皇甫さんが病気になられたのはかなり前のことですから、今のような医療サービスや、検査とか投薬というようなシステムはできていなかつた時代だと思いますが、とにかくお金はどうされたのか。それから病院の方はきちんとしてくれたかということですが、皇甫さん、いかがだつたでしょうか。」

皇甫 病気になつたのはちょうど一九八七年のことでした。今よく考えてみると、私はその時、職業安定所へ行つてました。その保険で行けたのかと思うんですが、自分では支払つてなくてよく分かりません。

仲尾 先ほど控室でお聞きしていました、朴順徳さんのご主人も病気になられたんですが、この場合は会社の保険でということでしたね。

朴 そうです。保険がありまして、それでずっと。相当かかつたんじゃないかなと思って申し訳なく思っています。

仲尾 息子さんの家族としての保険ですから、本人でありませんから、給付率は低いですね。お金を出す割合は高いということだったと思ひます。

それからもう一つの質問ですが、お二人にです。二つ質問があります。

三、「日本国籍を取ることを考えたことはありますか。それとも取ること次第が難しいですか。」

四、「日本名、通名を使つたことはありますか。」

この二つの質問です。日本国籍を取るということに当てはめて取るということですが、後の難しい難しくないということは、私の方から申し上げますと、はつきり言つて非常に難しいです。沢山の条件があります。素行善良、つまり一回も警察に引っ掛けたことがないということがまずあります。それから安定した収入、資産が必要という条件があります。それから過激な政治活動をしていないかとか、様々な条項がありまして、それは法務局が近所や職場まで調べて回つて、そして最後は法務大臣の裁量によつて決めるということですから、申請すれば取れるというものではありません。そういうことも含めて、日本国籍を取ることを考えたことはおありでしようかということですが、まず皇甫さんから。

皇甫 私は絶対反対です。息子もそろまではしたくないと言つています。国籍を切り換えて日本人に化けても骨までは変えられないし、差別がなくなるわけじゃないから嫌だと言つています。

仲尾 朴さんはいかがでしようか。

朴 私も、そういうことは一度も思つたことがありません。皇甫さんと同じです。

仲尾 一世の方で日本国籍に替えられた方は、非常に少ないんじゃないでしょうか。

朴 そうです。少ないんですよ。

仲尾 一世、二世の方はちょくちょく聞きますけれども、一世の方はほとんどないと言つてもいいくらいですね。

それでは二つ目の質問です。通名、日本名は使つたことがありますか。これは、家庭とか表札とか職場とか、いろんな場合があると思うんですが、それぞれ少しお聞かせください。まず、皇甫さんからお願いします。

皇甫 どういうものか、日本名はそのままずっと使っています。それは戦後、日本名の方が差別も少なくなるか、就職でもいいところへ入れるかという気持ちで使つたのが、途中で直すことも難しかったので……。表札には、本名と日本名と私の名前と三つあげています。うちどこ（韓国・朝鮮）は結婚しても名字は変わりません。一生、自分の名字を使います。

仲尾 子どもさんはどうされていますか。

皇甫 子どもはお父さんの名を継ぎます。

仲尾 それで朝鮮名でいつておられますか。

皇甫　はい。

仲尾　朴さんは方は、いかがでしようか。

朴　今は全部、日本名です。子どもも全部。

仲尾　日本名でいこうと思われたことの主な原因は何でしょう。

朴　原因よりも、私たちは一世でしょう。若い頃から日本人にあまりにも差別されて、それを忘れることができません。またそういうことで、帰化は絶対にする気持ちはありません。

仲尾　わかりました。それでお名前の方ですね、日本名でいかれたのは……。

朴　名前だけ、名字だけです。

仲尾　それはやはり、その方が便利だからですか。

朴　便利ですね。いろんな付き合いがありますから。

仲尾　他に名前についての思いがございましたら。

皇甫 私らでも本名を使って欲しいなと思うけど、途中で切替えがなかなか難しいです。子どもらは、学校でも本名で言つてくれますし、通信簿でも本名で書いてあります。

仲尾 では、一応お孫さんが行つておられる学校では、在日韓国・朝鮮人であるということを学校の先生が分かつて、そのようにしておられるわけですね。

皇甫 それでも昔と違つて本当に今は、うちの孫たちに「誰かに朝鮮人と言われたことがあるか」と聞いたら、「全然あらへん。友達なんかみんな朝鮮人だと分かつてゐる」と言つて威張つてました。時代が変わつて本当に有り難いなと思つています。

仲尾 ありがとうございました。それでは次の質問に入らせていただきます。この方とその次の方の質問は制度的なことですので、まず私の方から補足的な説明を加えまして、お二人にご経験があればお聞きするということにしたいと思います。

五、「一世の方たちは年金や保険がないとのことです、今の三世（二十代から三十代）の方たちはどうなのでしょうか。ちゃんと職についているとして。」

こういうご質問です。年金はいろいろありますが、国民年金について言うと、一九八二年以降は外国人でも入ることができるようになりました。ですから今の一世、二世、三世の方は、ほとんど何らかの年金に入つておられると思います。入る資格ができたということですね。ただ、先ほども言いましたように、二十五年間の掛け金期間が六十五歳までにない場合は、その人たちの年金の金額は、満額を満たし

た人よりはうんと低くなっているというのも一つの事実であります。

それから健康保険については、今は外国籍の人でも原則として入ることができます。ただ、満一年以下の在住期間の人は駄目だというのが、確かに三年位前に決まりました。ですから、新しく外国から来て満一年になつていらない人は国民健保に入れないと、その間に病気や大きなけがをした場合には、非常に大きな問題が出てきているんです。特に今は、新しく南米やアジアから来ておられる、あるいは韓国からも新しく来られる、こういう方で一年未満の方は入ることができない。これが一つの新たな障害になつています。

その次、二つ目の質問です。

六、「住宅ローンを組む場合は、日本人の方よりは銀行から借りにくいのでしょうか。」
という質問です。これはお一人、ご家族での経験がありましたか。

皇甫 私のところは息子三人共、新築してローンを組みましたが、朝鮮の信用組合から借りました。その代わり短期間で払わないといけないから、長男の時は息子三人が力を合わせて、五年位で返済を終わりました。三男はまだ払っています。

仲尾 やはりその場合、朝銀とか興銀とか民族系の銀行からお金を借りる方が、日本の銀行からよりも借りやすいというお気持ちもあつたんでしょうか。

皇甫 それもあるし、日本の銀行ではやはり財産抵当がないと借りることができません。信用組合だつ

たら人だけを信用してくれて貸してくれるの、それを利用しました。

仲尾　はい。朴さんの方の「家族で、そういう」経験はありますか。

朴　私は老人保険だけで、他に何もありません。息子らは朝銀で借りて、何とか家もやつているようです。

仲尾　お二人のお話で共通しているのは、やはり日本の金融機関からはお借りになつていないとのことですね。そのことの理由は、先ほど皇甫さんが言われました。今、一般に住宅ローンで、個人の保証を別に取り付けるということはまずありません。たいていは信用保証協会での保証どまりとして、買った家そのものが担保に入つていると、こういう状況だと思うんですが、私が一つ聞きました例は、マンションを在日の方が買われた。その方は、実はお医者さんなんです。だから在日の方としても、かなり生活が安定している方なんですが、それでも日本人の保証人が要ると言わたったということを聞いたことがあります。日本の金融機関は、そういうことを言うことがあるようですね。これは一般的かどうかは分かりませんが、私の聞いた例にはそういうこともございました。

今、お話に出てきましたように、信用組合、朝銀とか興銀とかいう民族系の金融機関がありまして、住宅資金、事業資金、そういうものの貸付を全部なさつていています。今、お話を聞きますと、かなり短い返済期間であるということで、当然金利も高いでしょう。いろんなハンディがあるんじやないでしょうか。

皇甫 金利はちょっと高いです。けれど日本人の保証人もなければ、担保に入れるものもない。仕方なく、借りやすいところでということです。

仲尾 そういうことでござります。それから、その次のご質問。これは私からお答えした方がいいかと思います。

七、「今の在日三世の男性が日本人女性と結婚したとして、その場合、日本人女性の国籍はどうなるのでしょうか。そしてその子どもはどうなるのでしょうか。」

どちらか選ぶことができるのかと、こういうお尋ねです。今の日本の国籍法では、父または母が日本人であれば、その子は日本国籍を取得するということになっています。ですからお尋ねの形ですと、男性であれば女性であれ、子どもの国籍について言うと、生まれてそのまま日本籍になつてしまふんですね。二十歳までは、そういうことです。二十歳から二十二歳の間に、どちらかの国籍を選択するという選択権があります。それでどちらかにすればいいと、こういうことになつてているんです。たいていの場合は、二十歳まで日本籍できている。するといろんな行政上や法律上は日本籍であれば便利ですから、わざわざ二十歳の時点で、日本国籍を放棄して韓国籍・朝鮮籍を選ぶという人は、非常に少なくなつていて、いうのが現状です。ですから在日の方々、韓国・朝鮮籍の方々の人口統計がどんどん減つていて、このには、一つにはそういうこともあるんですね。日本の国籍法上、いわゆるダブルの子どもでも、言わば自動的に日本国籍になつてしまつというのが現状です。

ご夫婦の場合どうかと言ふと、例えば韓国・朝鮮籍の男性が日本人女性と結婚された場合、その日本人女性が日本国籍を放棄して、韓国・朝鮮籍を取得すると宣言して、それぞれ手続きを済まされない場

合はそのままになります。たとえば韓国で日本国籍を放棄する手続きを日本領事館でされれば、その時点ですで外国籍になるということになります。ご夫婦ならびに国際結婚の結果、生まれた子どもについての国籍についてはそういうことですが、ほぼそれでお分かりいただけましたでしょうか。

それから、もう一つのご質問です。

八、「九条オモニハツキヨは今でもありますか。ハングルを在日の方々に教える教室は、どのくらいあるのでしょうか。」

こういうお尋ねです。これも先ほど皇甫さんのお話に出てきました郁文夜間中学校についていって、これは日本の法律上では夜間中学はないんですけども、事実として必要性があるということで、大阪でも京都でも夜間中学校が作られております。郁文の夜間中学校は、日本人の人で字を覚えられなかつた人、それから韓国・朝鮮の人で字を覚えられなかつた人、その他のフィリピンなどから来ている人、その三つに分けるとどのぐらいの比率でしょうか。

皇甫 やっぱり韓国人が一番多いですね。中国から来た人もいればいろんな外国人もいるし、日本の方も病気や何かで学校に行けなかつた人もいますが、韓国人が多いです。

仲尾 じゃあ、十人のうち八人くらいがそうですか。

皇甫 そうですね。

仲尾 お越しになつてゐる方の男性・女性では、圧倒的に女性、オモニが多いということを聞きますが……。

皇甫 ほとんど女性です。

仲尾 それから、お歳は平均だいたいお幾つくらいの方がが多いですか。

皇甫 たいてい七十過ぎで八十までの人、ほとんどが私のように学校に行つていない人ですから。今、行つてゐる若い人というのは、韓国からこちらへ嫁に來た人が言葉や文字を習うために行く人もあります。

仲尾 では、アボジたちが行かないのはどうしてでしよう。

皇甫 アボジたちは、ほとんど勉強しているんじゃないですか。

仲尾 ある程度は小学校、国民学校で勉強されていたわけですね。

皇甫 それと自分の家で漢文をちゃんと教えるから、ハングル文字なんかも結構……。うちの主人は京都で小学校六年生まで行きました。

仲尾 やはり一番字を習う機会がなかつたのは、オモニたちということですね。

皇甫 女の子は学校へ行つたら何をされるか分からぬし、どうせ農家に嫁に行くものだから、日本語、日本の言葉は必要ないと親が決めてしまつて、学校へやらなかつたんです。

仲尾 では、朝鮮でもやらなかつた?

皇甫 はい。でも、行くなと言わると余計に行きたくて、家で教えると言われても耳を貸さなかつたんです。その罰をこちらへ来て受けまして、苦労しました。

仲尾 朴さんはどうですか。やはり朝鮮では学校へ行かれませんでしたか。

朴 行つてないです。

仲尾 それはやはり行かなくていいということだったんですか。

朴 無理やりでしたね。行つたら足を折つてしまふと言われて、絶対に行くことができませんでした。

仲尾 ハングルを覚えるといふことも、学校へ行つてらつしやらなかつたら、できなかつたといふことでしょうか。

朴 そうです。家庭によつても違うけれど、うちには母が教えてくれたり、見様見真似でいつの間にか

覚えてしまつてたんですけど。

仲尾 それから、「九条オモニハッキヨは今でもありますか」ということですが、ありますね。

皇甫 はい。あります。

仲尾 どれくらい生徒さんはいらっしゃいますか。

皇甫 教会が新しく建てて、たくさんいます。五十人以上いるんじゃないでしょうか。それで朝鮮語を教えるのは日本の方なんですよ。本当に達者で、あんまり朝鮮語がうまくて、字もうまいので感心して言つたら、「僕は日本人だよ」と言つてられましたが、その方が教えられています。

仲尾 今お話をしております郁文中学校夜間部と九条オモニハッキヨの他に、宇治の方に山城夜間中学というのがあります。そこはもう少し規模が小さいようですけれど、それでもちゃんと活動を続けておられるようです。京都府内ではその三カ所です。また、いわゆる民間のいろいろな語学学校や何かで、韓国語・朝鮮語を教えているところも少しはあります。けれどもそういうところは授業料も高いし、週に一回か二回というので、なかなか身に付かないということもあります。在日のご年配の方には非常に縁が遠いような場所のようですね。

大学でも、最近は朝鮮語を教えるところが少しずつ増えてきました。京都大学にもありますし、大きな私立大学も少しずつ増えています。私のような小さな大学でも、今から六、七年前に作りまして、先

生は必ず在日の方々に来ていただくということにしています。けれども日本人の学生で、朝鮮語を取るという人は非常に少ないです。まず英語に行つてしまふ。それからフランス語、ドイツ語、中国語へと行つてしまつて、一番最後なんです。一番日本人にとつて学びやすい朝鮮語をなぜ取らないんだ、こんなにやさしいんだと宣伝すると、少し増えます。そういうふうな現状です。

あと二つは感想と、感想に重ねた質問です。まずお一人の方、紹介させていただきます。

九、「こ」の研修では、必ず意見なり質問なりを書こうと決めていたのですが、今回はあまりに感情が昂つてしまつて、うまくまとまりません。私たちが義務教育の中で習つたことの中に、今日パネリストの方々がお話をなつたことなど、一端でも教えてもらつたでしようか。自分で本を読んだりして、ある程度勉強しているつもりですが、今日の在日一世の苦労の歴史は聞く方も受け止めるのが辛いですが、現実を確認するため聞いておかねばと思いました。うまくまとまりませんが、お二人のお幸せをお祈りします。」

こういうご感想です。このフォーラムは今年でもう六年目ですが、こうして在日の方々、とりわけ一世の方々のお話を聞く機会がこうしてできてきました。これは京都市の教育文化行政の中でキラリと光るものだと思いますが、作ろうと思えばもっとできるんですね。例えば民間のいろんなサークル、あるいは職場、そういうところへ来ていただきて、お話を聞かせていただくということは不可能ではないと思います。

私の経験で申しますと、私の持つてゐる授業の中で、特別講師を招いてもいいことがあります。毎年一回ぐらいですが、在日のオモニの方々に来ていただきて、直接お話を聞いていただくということにしています。するとやっぱり生のお話が聞けるんです。これは聞いている人、若い人であれ年配の人で

あれ、大変感動させられます。いろんなご体験が、世代を越えて伝わっていくと思いますので、是非皆さん方の小さな職場でも地域でも、そういう機会を持つように努められればいいかと思います。どこでどう相談すればいいかということになりますが、知り合いで在日の方がおられればそれが一番いいですし、例えば今日司会をされている鄭さんを通じてご相談になれば、派遣してもらえるというか、行つていただくこともできるんじゃないかと思います。

それでは最後になりますが、もう一人の方のご感想兼ご質問を読み上げます。

十、「在日の二世、三世の方たちが母國語を知らないために、母國の人たちからよく思われていない」ということは、聞いたことがあります。日本にいても日本人ではなく、また母國で一人前のコリアンとして扱われないという状況を思う時、彼らが自分のアイデンティティについて悩むというのは、もしそ自分がその立場であつたらと思うと、その辛さは十分とは言えないまでも理解できるような気がします。在日の人たちの存在を生み出したのは、過去の日本の施策によるものですし、何とか彼らが日本で少しでも幸せに生きてほしいと心から願うものです。私たち日本人には何ができるのでしょうか。お二人に、今の日本人に一番望んでおられることをお聞きしたいです。」

こういう質問ですので、お二人にそれぞれ思う存分語つていただこうかと思います。

皇甫 私はよくラジオを聞いていますが、中国へ行つている朝鮮族というのは、本当に自由なんだなと思うのは、みんな言葉が達者なんです。そして韓国と手紙のやり取りをしたり、学生がカラオケを習つてそのカセットを送つたりしているのを見ると、うらやましいなと思います。昭和二十年に独立はしたけれども、その独立は韓国にいる人だけです。その人たちは失つたものを全部取り戻して頑張つていま

すけれど、日本にいる私たちはまだ独立になつてないんです。商売しても仕事をしても、日本の人に合わせていかなければいけない。自由に休むこともできませんし、いつも生活に余裕がない。夕方に帰つてくると、風呂に入つてテレビを見て寝るだけで、家庭教育なんかする間がないんです。だからうちの息子も韓国の言葉が分からぬから、韓国へ行く時は喜んで行つたのに、「あれは日本人だ、キヨッポだ」と言われたそうで、「キヨッポ」とは働きに出た者という意味らしいですが、帰つてきて悔しがつていました。それを見て本当に可哀相だと思いました。私は二十歳から子どもを持ち、子どものために一生懸命、無我夢中で生きてきたつもりだつたけれども、今考えたら何一つ子どものためになつていなかつたです。人様みたいに、いい学校もやれなかつたし、財産も一銭も残してやれなかつたし、第一、自分の言葉や文字も教えることができなかつたんです。それが本当に情けなく、今一人で悔やんでもどうすることもできません。

仲尾 それで、日本人にどんなことを望むかという質問ですが……。

皇甫 これからとにかくお互いに触れ合つて、話し合つて、仲良く暮らしていくてほしいと思います。いつも心から願つていてのことです。私たちの子孫は韓国にも行けないし、北朝鮮にも行けません。この日本ですつと暮らしていかなければならぬので、とにかく皆さん仲良く、お互いに助け合つていてほしいと思います。

仲尾 ありがとうございました。それでは朴順徳さん、お願ひします。

朴 ここで一生いて、子どもと韓国へ行くことはできないでしょうね。日本の国で亡くなるまで、ずっと住んでいるんじやないかと自分では思つております。だから、お互い仲良く暮らしていければと思っています。それだけです。

仲尾 ありがとうございました。お二人が何気なく語られた言葉の中に、いろんな思いがあると思います。例えば、皇甫さんがおっしゃった触れ合つて仲良くということ。ところが朴さんのお話の中でも、綿を売りに行つた時に「朝鮮人が来た」と言つて、ボーンとドアを閉めてしまうという、そういう日本人がおりました。つまりそれは触れ合うということを、日本人の方から避けていたというか、拒否していたわけです。そういう社会が、過去の日本社会でした。今の日本社会はそうであつてはならないのですが、そいつたことの過去の教訓を、私たち一人一人がどれほど強く学んでいるかということによつて、これから日本社会が、在日の方々との触れ合いができる社会になつていけるかどうかということの分かれ目のような気がいたします。最後に朴さんがおっしゃいましたように、とにかく日本で暮らしていくしか道がない。そういうわけですから、お互いの助け合い、つまりこれは言葉をえて言うと、人間としての人間性を尊重し合つていくというか、そういう意味での触れ合いであり、仲良くであり、助け合つてという意味だと、私は私なりに解釈しました。

是非、お二人のこれからがお元気でお幸せであることをお祈りすると共に、私たちが日本をもつとよい社会を作り替えて行くことが、お二人の今までのご苦労にお応えするただ一つの道ではないかと思ひます。それでは、お二人とも今日は雨の中ありがとうございました。皆様も雨の中ありがとうございました。

司会 お話を、ありがとうございました。

第四回 『在日の現状と未来』

パネリスト

張 チャン

金 キン

巴 バ

今珠 クムジュ

珠氏 マスジ

(在日一世・団体顧問)

金 キン

東 ドン

巴望 ハマツク

氏 シ

(在日二世・財高麗美術館事務局長・研究室長)

コーディネーター

金 キン

鶴 ドンハク

氏 シ

(在日三世・団体職員)

仲尾 キム

宏氏 マコ

(京都芸術短期大学教授)

一九九八年三月二十日実施

第四回 『在日の現状と未来』

第一部の（第一部は「チョゴリ・ファッショントニー」）

仲尾 皆さん、こんにちは。今日は大変素晴らしい日になりそうです。第一部で、あれほど素晴らしいファッショントニーが行われるとは思いませんでした。

これから第二部になりますが、パネルディスカッションです。第一部に負けないようやつていきました。

この「チョゴリときもの」というフォーラムは、今年で六年目になります。毎年八人ぐらいの、パネルディスカッションに参加される在日の方々に登場していただいて、在日の方々の生の声を聞いていたところ、そして日本人の市民とのふれあいの場を作つていこうと、こういうことで始まりました。幸い皆様方のご協力を得て、また主催者の京都市国際交流協会、京都市国際化推進室の方々のご尽力を得て、順調に回を重ねて参りました。そして今年は今まで以上に多くの方々が参加されております。今年の最後が実は今日なので、もっと沢山の方々に来ていただこうということで、いろいろアイデアを練つておりまして、その結果が今日のよう、「三部構成で」ということになつたわけです。

第一部で、あのうに実物で、在日の方々の文化というものを紹介していただきました。もちろんこの文化はそれぞれの祖国への思いに通じるものであります。

今年のフォーラムは、「在日韓国・朝鮮人～その世代と意識～」ということをテーマにしてやつて参りました。それで現在まで三回やりました。

第一回目は三世の方々お一人に登場していただきました。そしてご自身の受けてこられた教育、ある

いは子どもさんの教育についてどういう思いがあるのか、そういうことを語っていただきました。

二回目は一世の方お二人に登場していただきました。一世の方は今日日本で第一線で活動しておられる方々ですが、その方々のお仕事の中で、一番大きな問題の一つは、やはり名前をどうするかということですね。それはご自身のこと、子どもさん方のこと、両方重なります。その『名前への思い』を中心にお話をいただきました。

そして三回目は一世の方お二人に登場していただきました。一世の方々にテーマとしてお話をいただいだのは『老い』という問題です。誰にも必ずやつてくる『老い』という問題。それを在日の方々はどのように今生きておられるか、というのが三回目のテーマでした。

それで今日はその総まとめの四回目ですが、ディスカッショーンのテーマは『在日の現状と未来』と名付けてあります。申すまでもなく、今一番若い方は恐らくもう五世の方がお生まれになつてゐるかと思います。今、京都市には戦前から日本に渡航して暮らしてこられてその中で子どもさんを作つてこられた、いわゆる在日の方々が約三万五千人おられます。その方々のうち一世の方はもう一割を切つております。

お手元に「一般事項」それから「パネリストの事項」という年表風の資料5がございますので、ちょっとそれを参考にしていただきましょう。

左側は「一般事項」でありまして、一九一〇年の日本による「韓国併合」、總督府設置から始まりまして、今年一九九八年まで約八十八年間に日本と朝鮮半島、あるいは日本と韓国・朝鮮の間にどんなことがあつたのか。それから在日の方々にどんなことがあつたのか。主な事項を列挙いたしました。

右側は、今日ここにいらっしゃる三人のパネリストの方々のお生まれ、結婚あるいは一番上の子どもさんの誕生など、主な項目だけ挙げておきました。

資料 5

年 代	一 般 事 項	パネリストの事項
1910	日本による「韓國併合」、総督府武断統治開始・土地調査事業開始	
1919	3・1独立運動。総督府「文治統治」開始、産米移出強制。	
1922		張今珠さん、慶尚南道でうまれる。
1923	関東大震災で朝鮮人多数虐殺さる	金巴望さんの母、うまれる。
1935		金東鶴さんの父生まれる。母は1943年渡日。
1938	国家総動員令朝鮮で公布。	
1940	創氏改名を強行。	張今珠さん1939年渡日（結婚直後）
1941	太平洋戦争開始。	
1942	朝鮮人労働者募集「官斡旋」開始	張今珠さんの長女誕生。
1943		金東鶴さんの母渡日。
1945	日本敗戦・朝鮮解放。	
1947	外国人登録令・新憲法施行。	
1948	大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国成立。	
1950	朝鮮戦争勃発。	
1952	サ条約締結、在日の日本国籍剥奪	
1953	朝鮮休戦協定発効、現在に至る。	
1954		金巴望さんうまれる。
1959	日朝赤十字による北朝鮮帰還開始	
1965	日韓基本条約調印。協定永住開始	
1968		金東鶴さんうまれる。
1972	南北統一に関する共同声明発表	張今珠さんに孫うまれる。
1979	国際人権規約批准	
1981	難民条約批准	
1984		金巴望さん結婚。張今珠さん夫の死去
1985	指紋押捺拒否運動高揚。国籍法改正、子の国籍は原則日本人化	

		金巴望さんに長子うまれる。（3世）
1987		
1991	南北統一に関する共同声明発表 日韓外相「覚書」調印、在日に特別永住を一律にみとめる。 国連南北同時加盟承認。	
1992	京都市、外国人教育方針を制定。	
1993	外国人登録法改定、永住者には指紋押捺廃止、署名と家族登録制に	
1994		金東鶴さん結婚。
1996	自治相、公務員国籍条項は地方自治体の判断に任せると発言。	金東鶴さんに長子うまれる。（4世）
1997	京都市、国際化推進大綱を発表。	

この「一般事項」と「パネリストの事項」を横につないでいただと、三人の方々がどのような時代に生まれ、どのような時代に生き、どのような時代に子どもを育て、仕事をしてこられたか、ということがおよそ見当を付けていただけるようになります。

三人のお生まれになつた時、あるいは結婚年齢なども、私がお聞きしてここに書きあげたんですが、満年齢あるいは韓国・朝鮮式の計算の仕方で一年くらい前後しているかも知れませんが、それは三人の方々のお話の中で、間違いがもしあれば訂正をしていただきたいと思つております。

こういうわけで今日は世代別に一世の方、私のすぐそばにいらっしゃる張今珠（チャン・クムジュ）さんです、ご紹介いたします。チャンさんは一番最初、第一回目のパネリストに登場していただきました。

真ん中の方が金巴望（キム・パマン）さんです。一世の方であります。キム・パマンさんも一度パネリストとして登場していただいて、朝鮮半島の文化について、在日本としてどう思うかということをお話していただきました。

一番向うにいらっしゃるのが、三世の方で金東鶴（キム・ドンハク）さんです。キム・ドンハクさんはパネリストとしては初めてでありますけれども、先ほど、意外なことにファッショントリビュートの中にいらっしゃいました。

意外な才能を隠れて持つていらっしゃるということがわかりました。

この三人の方々にまず、それぞれ生きてこられた歩みと申しますか、その中での日本への思い、あるいは祖国への思い、これから世代への思い、そういうことを一世、二世、三世、こういう順番でお話をいただこうと思います。

それで三人の方々のお話が終わりましたら、いつものように休憩を少し取ります。それでお手元にアンケート用紙が配つてあると思いますが、それにご質問やご意見を書いていただきます。それを整理して、三人の方々にそれぞれ質問に対してもお答えいただく、という形で後半に進めたいと思っておりますので、何卒よろしくお願ひします。質問・ご意見はどんなことでも結構ですので、率直に、感じられたこと、尋ねたいことをお書きくださいかと思います。

それでは早速始めます。まず一世の方ということで、チャン・クムジュさんから約十五分ぐらいお話をいただきます。よろしくお願ひします。

張 アンニヨンハシムニカ。先ほどの可愛い子たちのショーのあとで、こんなおばあちゃんが出たら……。今ねえ自分もあがつてるし、決して見よいものではないと思います。あまりにあの子らが可愛かつたら。でも私は一世として、今日お話をということですから、下手な日本語で、私は韓国語はできますけど、今日は日本の方が多いですので日本語でいたします。

私は韓国で生まれ、学校も行って、十八歳で結婚してこちらに来ました。前回、韓国で育った時のいろんなお話をしたので、今日はいたしません。日本に来てからのことを簡単にお話いたします。



張今珠氏

私がこれから言つことはみんな数え年です。私は十八歳で日本へ来て、結婚当時、主人は留学生の関係で日本に来ておつたんですけど、それで結婚して、十八で日本に來ました。

それで同じ町内、今の右京区西院学区に六十年住んでいます。子どもと、今は孫の代になりました。いろいろ近所の方、地域の方にお世話になつて現在があるようなもんです。戦争中は、今みたいに「韓国人」ということはなくて「朝鮮人」でした。日本の当局から朝鮮人は協和会という組織を作らされ、まあ押しつけられたようなもんです。もちろん会合をする時は、日本のきものを着なけれど、私は朝鮮の服を着て行つて叱られたことも、また反発したこともありました。主人が協和会の指導員をやつてた関係で、私も「大日本帝国婦人会」のタスキをかけたことがあります。

その当時、故郷の朝鮮に行く時も、日本の警察が旅券ではなくて「旅行券」というのを発行しました。その時、先ほどの協和会の指導員たちにハンコを押してもらわないと出られなかつたんです。

一世の方は無学の人も多いし、いろいろなハンディがありまして、苦労が沢山ありました。でも、自分のことを言つて恐縮ですけど、主人が西院学区の補導班長、また空襲の時は防空班長、そんな役をいっぱいさせられました、自分が望まなくとも。そんな関係で、地域の日本人ととても仲良くし、現在まで続いています。

終戦後、一番初めにできたのが「朝鮮人連盟」で、主人がまた右京区の委員長になつたから、私はまたそこの婦人会に引っ張られて入つたんです。それでいろいろ摩擦もありましたけど、個人としては皆さんと仲良くやつてきました。昔はみんなが「総連」でした。でもいろんな思想の問題で「民団」が結

成されたんです。それで今私たちがやつてゐる「居留民団」と「大韓婦人会」がそこで結成されました。戦前の苦労は私がいちいち言つても仕方ありませんので、今このタイトルは『在日の現状と未来』ですか
ら、私たちの今置かれている立場を少し話したいと思います。

今、仲尾先生がおっしゃいましたように、一世は一〇%もおりません。京都も昔、永住権で住んでいたのは約五万でした。朝鮮人、韓国人、両方で。今、三万五千人というのは、一世がそれだけ亡くなり、また帰化をしているからです。

今、私たちの社会で一番頭痛のタネは、結婚問題です。帰化も沢山しています。これは、自分らの生活のために帰化するのを止めるることはできません。私たちもやつぱりここで全うして死ぬために、墓地も買って墓も作つてあります。だから今、在日の数が減つていくのは帰化が多いのです。でも日本の当局は帰化をすぐに（認めて）くれないんです。アメリカは三年経つたら（市民権を）くれるけど、日本（日本）は納税から全ての条件が揃わないとダメです。だから簡単に帰化といふけど、帰化もなかなか難しいです。私たちの社会も優秀な人が沢山おつて、今は弁護士とか……この間もある新井将敬さんことでどこかの本にも書いてありましたけど、昔は韓国人と朝鮮人はいい職場に就職できなかつたから、優秀な人は沢山お医者さんになりました。そんなことで、ものすごく優秀な若い人が多いです。でもさつきも申しましたように、結婚になつたら、今は国際結婚が六〇%以上です。これは学校から職場、社会もみんな日本人の人と生活をするから、自然にそうなるんですよ。だから私も、一世の親でも、それを拒否することもできないし、また私たちがここで永住していくのには仕方がないこと思います。

それで、先ほど踊りをした総連からのカワイイコちゃんは、小学校から習つていて、とても可愛いと思いました。私はいま婦人会関係で韓国へもよく行つて、この間も大統領の就任式に行つてきましたけど、（民団には）そんな施設、というより学校はないんですよ。中学校、高校はあつても。終戦後、うちらの

国も豊かじゃない時は、在日同胞も民族教育の熱意はあっても、経済的にできませんでした。その時やっぱり北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）のほうはどんどんお金がきて、学校もうちらりうんと多いし、それこそ小学校や幼稚園まできたから、あんな可愛い舞踊もできるんだなと思って、さつき私も感心して見てました。

そんな状態で、皆さんタクシーに乗っても、「いやあ韓国人・朝鮮人は金儲けがうまい。パチンコ屋はみな韓国人の人や」と言うけれど、「みな」じゃありません。半分弱は日本の方が経営します。そして今彼らは、参政権の問題を、組織がものすごく全国的にやつてるんですけど、税金は決して皆さんより少なく払つていません。もっと沢山払っています。だからこれから私たちの活動は参政権です。参政権は地方によつて知事がやるから、例えば高知の橋本大二郎さんとか、川崎とか、みんなもうOKが出てるんですよ。まだ出てないところもあるけど、彼らの組織で、一応納税の義務も果たしてるから、私らにも少しの権利は欲しい、というのが彼らの組織でも今一番目玉の活動です。

それで昔私は、いま皆さんも参加なさつてある方もおられると思いますけど、全国的に「日韓親善協会」というのがあつて参加していました。そこの京都の初代会長さんは、産業大学の初代の荒木先生でした。二番目は小川半次代議士で、今は中央信用金庫の西村さんですけど、一緒に韓国へ行つたりいろいろして、お互いが幸せに暮らすことを彼らの組織も一生懸命やってます。

それで、まあ未来は若い「一人に任せて、私はちょっと現状を言いますが、ほんとに日本人がもうちょっと、特に京都、いまこれをやつてるのは京都市の管轄ですけどちょっと厳しいことを言います。なぜなら、何年か前に京都市主催の「ワン・コリアパレード」に彼らの組織も一生懸命協力してだいぶ成功したんですけど、全国的に見て、彼らの参政権は京都が一番厳しいです。それに榎本市長さんが、全國ではどこも言つてないのに、「国籍条項は撤廃する必要はない」と、こうなつたんですよ。そんなこと

で、京都は昔から、都で文化都市で、いろんな生活のレベルは厳しいところはあるけど、「ここ」まで厳しい」ということを私たちの組織でも痛切に感じました。

韓国人も日本の方に迷惑をかけずに、うちも三代で医者もおりますし会社員もおりますが、みんな面白いです。自慢することはありませんが国會議員もおりませんから。でも眞面目で、法に触れることをしないで一生懸命きばつてます。だから、みんなが仲良くして、日本人の人にも尊敬され、尊敬される前に迷惑をかけないで生きるために頑張つてます。だから、今日いらっしゃった日本の皆さんには、もし、韓国人の参政権のことを、新聞でもよく載つていてますが、応援してください。お願いします。

それともう一つは、ここで五、六年前、私たちが韓国の伝統文化をやりました。だからあの時も私、お誘いしたんですよ。私は文化研修旅行として毎年韓国に行きますから、皆さんも一緒に行つたら韓国が大好きになりますよ、と訴えたことがあります。今後とも、まあいろいろ旅行社からのツアーもありますけど。大韓婦人会は四条御前を下がつたところに大きな看板があります。また、京都の葵橋のところには民団の建物も大きいのがあります。私たち一世はみんなで助けあって領事館、大使館を自分たちの力で建てました。あの時は本国からもお金はきいていません。みんな一世たちが頑張つて、そしてみんなが出し合つて建物を作り、現在があります。

だから皆さん、韓国人も皆さんと、もちろん國同士も、仲良くしなくてはなりませんけど、地域に住む私たちはもつともつと仲良くしなければ。私は町内でもものすごく仲良くしてますよ。皆さんも韓国人のいろんな面を、悪い面よりいい面を、探してください。

それから、もう一つ皆さんに理解を得たいことは、私が住んでるところは昔、韓国人が多かつたんです。それで韓国人は、昔の儒教からくることでは、家に法事があるとか子どもが生まれたら、他の人の葬式には行かないんですよ。これは風習です。日本的人は「村八分」というのは、火事と葬式は行くの

で二分を残してあとを「八分」と言うけど、韓国的人は、悪気じやなくとも葬式はあんまり行かないんですよ。結婚式は行つてパートと騒ぐけど。うちの町内も、私が見ているとみな、一世の親が死んだ時は近所の人が来てくれるのに子どもたちが行かない。私とこは絶対行きます。うちもここに書いてる創氏改名のために、主人が「金」でしたから「カネミツ（金光）」になつてますけど、「ああ、カネミツさんとこは特別」って言われますけど。韓国人が葬式に行かないのはそれは悪気じやないんです。近く所に韓国の人があつたり一緒に住んでいる方は、そんなことでこれは昔からの伝統なんです。結婚式には「來い」と言われなくても行つて飲んで食べて騒ぐけど、葬式なんかにはよほどでないと行かないんです。だからこういうのも、日本に長く住んでいたら変えていつて、やっぱり日本人に悪い印象を与えないようにやらないと、と私はそう思つています。

先ほど仲尾先生から聞いたら、京都の在日は三万五千人ということで、いつのまに一万五千も減つたかなあと、今日はじめてわかりました。そんなことで、一世は亡くなり、また二世、三世は国際結婚をしたら帰化し、また自分の商売や会社の都合で帰化する人も沢山おります。でもみんな、心は祖国を忘れてない。

一つここで言うと、韓国はいま経済破綻になつて一軒に十万円ずつで百二十億円貯金してるんですが、八八年のソウル・オリンピックの時には、日本にいる在日同胞が五百億円も出したんです。だから祖国も日本も、自分が住んでいるところが榮え、仲良くし、外国に迷惑をかけないために、在日同胞は自分が使わなくても出す。あの時、私ら大韓婦人会は一日十円の貯金をしました。そして韓国の選手村からそこらの施設に貢献した。日に十円ですよ。それで三億円のお金が集まつたんです。

そんなことで、在米同胞などいま世界には五百万人のうちらの民族が行つてるんですけど、在日同胞は本国からでも特別いい目で見てくれるんです。金泳三大統領の就任式の時は、夜どおし大雨が降つて、

椅子の上に水が溜まつてナイロンの風呂敷を敷いて座りましたが、今度はあまりにも天気が良かつたので、「ああ、経済は悪くとも、この空みたいに私の国もこうして晴れ晴れとなるのか」と思つて、心からうれしく思いました。

それで今は一世、二世の時代で、一世はもう一〇%もおりませんから、次に遠いところに行くのは私の番と思いますけど（笑）、ほんとに、いろいろ苦労もあつたけれど、でもみんなこうして眞面目に生き、二世、三世の子どもや孫も、みんな眞面目に生きているのが私ら韓国人の誇りだと思うんですよ。その中にはお医者もあり、弁護士おり、立派な優秀な若者も多いです。

だから彼らは今、組織を総動員して参政権を得る運動をしています。ほんとに皆さん、そのことを理解してください。日本の中の韓国人にとって、特に京都は住みにくいところで、金儲けもないんですけど、みんな眞面目でええ人らばかりです。だから理解して、参政権のことが新聞かテレビに出たら、「あああの時、こつついおばあちゃんが喋つてたあれかなあ」と思つて、皆さん理解して応援してください。大いに理解してくださいようお願いします。以上です。

仲尾 ちょっと私から質問させていただいていいでしようか。

今、戦後のいろんな事柄に関して、婦人会の運動を通じてやられたこと、あるいはその中から出でくる今の課題をおつしやつていただきましたけども、チャン・クムジュさんのご家庭のことちよつとお伺いしたいんです。子どもさんは学校はどちらへ、つまり日本の学校か民族学校か、あるいは子どもさんのお名前ですね、それをどのように使っておられたか、その辺りのことを少しお聞かせください。

張 私は、昔は皆さんそうだったと思いますけど、子だくさんで男の子が四人、女の子が二人でした。

昔、京都では、先ほども申したように、私たちの組織では経済的に力がなかつたから学校が一つしかなかつたんです。それも北白川に金元守という人が、自分は贅沢しないで、寄付して学校を作つたんです。
そこで初めは中学しかありませんでした。だからうちらの子どもはそこを出てるんです。

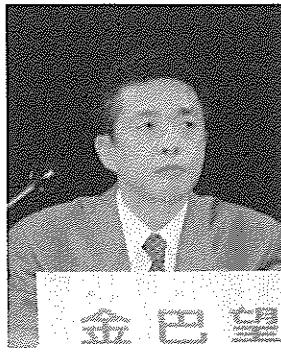
でも一つ悲しいことは、常日頃、自分たちの言葉を使う必要がないから、手紙も、字は読めるけど理解できないんですよ、日常で使わないから。それで娘など本名を使う子もいますが、日常生活はみんな「カネミツ」になつてます。これは仕事上、仕方ない。だから私も、ちょっととカッコ悪い話ですけど、私ら子どもを連れて本国へ行つたら、税関のカウンターからボロンチョンに怒られるんです。「韓国人が自分の国の言葉もできんか！」と。日常に使わないから理解ができないんですよ。学校へ三年行つただけでは、字は読めても、どうしても不十分です。でも心は、例えばスポーツでもテレビに出たら拍手するし、忘れてませんよ。何があつたら寄付したり、一生懸命やつてます。以上です。

仲尾 ありがとうございます。それでは次いで、今度は一世の立場でのお考えをお話いただきたいと思います。金田望（キム・パマン）さんです。よろしく。

金田望 さき程のクムジュ・オモニのお話は迫力がありまして、その後に話をすることは非常にむつかしい（笑）。

私は一世の立場からお話を致します。しかし最初にお断わりしないといけないのは、私は一世の代表じゃありません。あくまでも一世の中の一人として、日々考へてることの話をさせていただきます。

それともう一つ。私の話の中で「在日」という言葉が出ます。この「在日」の中には、日本国籍を得した方々も含まれる、ということを確認したいと思います。



私の話はまず三つに分けて進めます。一つは在日一世の現状というものは、先ほどクムジュ・オモニの話がありましたように、一世の苦労の上に成り立った、その基盤の上に成り立っているということです。これはまぎれもない事実です。二つ目は、在日のほとんどの人が日本に生活の基盤を持っているということです。三つ目は、未来についてのことになるのですが、じゃあそういう現状の中で、あるいは日本の社会の中で、これから私たちはどう生きていくべきかということです。

この三つについて簡単にお話したいと思います。

最初の、一世の現状は一世の苦労の上に成り立っている、ということなんですが、では一世か二世かどっちがラクかということを考えれば、あながち一世の方がラクとは言えないと思います。誤解していただきたくないんです、それは、一世が一世かどっちがラクかという比較の問題ではないからです。もちろん一世もしんどかつた。しかし一世もしんどいんです。同じくドンハクさんのような二世もいらっしゃいますが、三世も四世も、またしんどいだろう。

なぜそうなるか。一世がこれほど苦労してきたのに、どうして一世、二世、三世の代になつても問題が解決されないのであるのか。それは偏に今の日本の社会が、あるいは日本人の人々の社会意識が、成熟していないからであると言わざるを得ないと私は思います。今日、「在日韓国・朝鮮人の問題」と言われますが、私はこれは日本人の問題だと思います。そういう意味では、きついことかも知れませんが、日本の今の社会がまだ大人になりきれてない証拠、ということが言えると思います。仲尾先生をはじめ、いろんな立場の人々が、今のそういう社会に対して不満を持っていらっしゃることも知つております。ですから私はそこに共感を覚えますし、さらに日本も捨てたもんじゃないな、ということも実感

しております。

もう一つ。未来ということを考えますと、在日側にこれまで問題は一切なかつたのか。あくまでも在日本の問題は日本の問題と言いましたが、在日側の方も問題はなかつたか、という視点でものを考えないといけないというのも事実だと思います。

次に二点目に入りますが、在日のほとんどの人が生活の基盤をこの日本に持つてゐる。それは一番大きな意味での今の在日の現状だと思います。私のオモニも言います。「もう私は日本でしか生きていけへん」と。慶尚南道にオモニの兄弟がおります。アボジが他界しておりますので、韓国の兄弟のところで暮らしてみると、『いやだ。向こうへ行くとストレスがたまる』と言います。一世のオモニもうでしうけど、一世である私自身もこの日本でしか生きられない自分を感じております。

私自身の話になりますが実は、初めて故郷、韓国の方へ行つたのは今から八年前のことでした。その時にソウルの街を回つてみて、まず第一に何を感じたかと言ひますと、「うーむ、ここは外国だ」という感じでした。まず色彩感が違う。漢字がない。ハングルばかり。ネオンも看板も非常にカラフルです。そして街の中で生きる人々のリズムが違います。まずびっくりしたのは、バスの停留所から遙か離れたところにバスが止まっちゃうんです。ハルモニ（おばあさん）とか、若い人がダーツとバスの方へ走つていくんですね。日本だと行儀よく並んでバス停の前で待つてたらちゃんとバスは止まります。そういうことの一つを取りあげても、「うーむ、違うなあ」ということを感じた次第です。おまけにバスの走る速度が異常に速い。横断歩道を歩いていても、風圧で跳ね飛ばされそうなくらいです。明らかにクルマ優先の社会でした。

私は美術の仕事をしてますから、国立中央博物館へよく行くんですが、その中央博物館の通りは非常に広いんです。大阪の御堂筋よりも広いかも知れません。それはどうしてかと言ひますと、いつ、なん

どきでも、戦闘があつた場合、飛行機の滑走路にできるようにしてあるんです。高速道路もそうです。すべて、飛行機がそこからすぐ飛び立てるようになります。そういう意味では、当時はやはり「戦時中だ」ということを意識しました。それと同時に、戦時中であるという緊張感のない在日の自分、というものを感じたんですね。ですから今でもそうですが、ソウルの友人が私に対して、「キムさん、あなたのものの考え方、それとあなたの人の接し方、これはもう日本人のそれです」と言うのです。「よくお辞儀をする」とも。私にはもう日本の生活習慣が身についてるんですね。

ですからソウルで生まれ育った同じ年代の友達と、日本の京都で生まれ育った私と、同じ世代、同じ民族の血をひく人間でも、違う。最近はそれに加えて、大阪の在日と京都の在日も違う。地域性が出るようになつてきました。大阪の友人に言わせますと、京都の在日は非常にエエカッコシイで気取り屋が多いと。大阪の方はいらっしゃいますか？ で、京都の在日はエエカッコシイで気取り屋だと思う方は？……ああ、いらっしゃいますね（笑）。そうなんです、やっぱり私も気取り屋かも知れません。そういう意味でも、在日の中でも世代の差はもちろん、それに加えて地域の差ができる。これが現状です。

もう一つ。三點目なんですが、ではそういう在日の現状からして、これからこの社会の中でどう生きるのかということですが、在日と日本人の場合はお互いの生活習慣も違います。先ほど茶礼（元旦や盆に執り行う祭祀）の話が出ました。私も、もちろんしています。在日の者と日本人とは生活習慣とか風習が違いますが、ではお互いに敵対しなければならないのかというと、そういうことはないと私は断言します。もちろん私もこの日本の社会の中の、この京都の一市民でもあります。日本の社会を構成する一員でもあるわけですね。当然その中で必要となるのが日々の生活の中での常識でしょう。これは日本の側の常識かも知れません。日本で生活していく中での常識、つまりこの社会の中での常識です。日本

の中で生きていくには、やはりその常識を持たないといけないし、また要求されるだらうと考えます。在日だから日本の常識は必要ないということは絶対ありません。

そしてもう一つ。先ほどの在日の地域性で、価値観が多様化しているという現実について話をします。かつては多様化を許さなかつた時代というのがあるんですね。例えば京都で在日の一世が「日本の中の朝鮮文化」という雑誌を発行していた頃、つまり一九七〇年代のことですが、ある組織から「文化活動だからやめる」と言わされたことも事実です。確かにそういう事実もあるんですが、現在はそういうことはありません。ただ、主義、主張、ものの考え方が違えば、在日の場合、かつては徹底的に相手に対し批判しておりました。口論でカタがつかなければ罵り合いになる。酒が入っているときには、殴り合いでにまでなつたという。そういうふうな一世の歴史もあつたということを聞いております。でも今はそのようなことはないと思います。そういう習慣とか考え方、あるいは国籍のことにも見られるように、生き方の違いが人によつて出できます。違うからといって相手を見下すということは私は絶対したくない。お互いの違いを認識して知る、ということではないと相手を理解できないと思います。これは何も在日と日本人の問題だけではなくて、在日同士もそういうことが言えるんですね。

結論から言いますと、私たち在日の人間がこの日本で、あるいはこの京都で、暮らせなくなる時代がきたら、恐らく日本の方々もすぐに暮らしにくい時代がくる。これはもう歴史が語つております。ですから、そういう意味では、今日は「在日の現状と未来」というテーマでのディスカッションですが、これはそのまま『日本人の現状と未来』と置き換えても話は通用します。時間もきましたので、結論を申しますが、これからは在日も日本人も、この日本の中でも共に生きていく「共生」、そういう意識をもつて問題にあたらなかつたらこの日本はおかしくなりますし、私たち在日も日本人も含めて、未来への道はない、というふうに思います。一応これで終わります。

仲尾 ありがとうございました。キム・パマンさんはいろんなお仕事や体験の中で、今の在日の問題というのは実は日本人の問題じゃないか、ということを非常に鋭く指摘されました。それはこのフォーラムを続けていて私共も常々感じることであります。それと共に、多様化の問題と合わさせて、在日の側に問題があつたかなかったか、ということも少し考えなきゃいけないと、そういう意味のことをおつしやつたと思うんですが、それは最後のほうにおつしやつた、いろんな多様性を認めないと、そういうところにあつたと、そのように理解していいですか？

金巴望 はい、それで結構です。

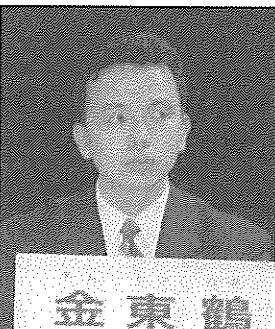
仲尾 そういうところも、戦後あるいは解放後五十年を経て、在日の歴史を振り返つてくるといろんな問題があつたということを語つていただきました。その場合、日本人がえてして誤解しがちなのは、それは民族性の差であるということになつてしまふんですね。私はそのように短絡するとまた問題が生じるのではないかと。つまり、在日の社会や歴史中で、いろんな出来事があり、運動があり、その中で対立もあれば和解もあつた。そういう中で、対立したままになつて別れ別れになつてる。そういうことは、特に在日だから発生したことじやなくて、日本人の場合でも、そういうことはいくらでもあり得るわけですね。そういう点で、在日の特殊な問題として日本人としては受け止めるべきではないだらうと私は思つております。その点はいかがでしようか。

金巴望 全くそうです。それは民族性の問題だとすりかえること自体、非常に視野が狭い考え方思います。むしろ現実を見ていただければ、絶対にそういうことは言えない。仲尾先生のおつしやる通り

だと思いますね。

仲尾 ありがとうございます。

それでは三番目にいよいよ三世、一番若い世代の金東鶴（キム・ドンハク）さんからお願ひいたします。



金 東 鶴

金 東鶴氏

金東鶴 アンニヨンハシムニカ。はじめまして。キム・ドンハクです。

先ほどキム・パマン先生の方からあつたお話の中に、在日朝鮮人の中でも大阪の朝鮮人と京都の朝鮮人でだいぶ違いがあると、そんなふうなお話があつたんですけども、京都の中でも西陣の朝鮮人と東九条の朝鮮人では差があるという、そんなふうに感じる今日この頃です。私も生まれたのは西陣で、今は山科に住んでるんですけど、父が西陣でどっぷり生まれ育つたもので、西陣の気質というか、理屈っぽくてケチだという、そういう影響を多分に受けて成長したような、そんな気がします。

今日のテーマが在日朝鮮人の世代論、といったことだと思うんですけど、一人の三世として、今の三世の状況はどんなものなのかと、そんなことを私なりに思うところを述べたいと思います。

まず、私も言葉の定義のことで前もつて申し上げなければいけないと思うんですけど、私は一応、私なりの考えがありまして「在日朝鮮人」という表現方法をとります。「在日朝鮮人」の意味としては、先

ほどキム・パマン先生がおっしゃったように、韓国籍、朝鮮籍を問わず、またその人が日本籍でも朝鮮人としての帰属意識を持つのであれば、含めてそう表現させていただきます。

それで三世の特徴を取えて申し上げるならば、僕たち三世というのは、アイデンティティの危機に瀕した世代ではないかと思います。それはどうしてそうなのか、ということを私のつたない説明で申し上げなければいけないんですけど、とりあえず、私の体験、育ってきた経験を紹介する形で、その説明に代えさせていただきたいと思います。

私は山科で日本の小学校に通い、中・高・大学、全て日本の学校に通つて参りました。私の家は建材店を営んでおりまして、その関係で地域の小学校に行く時に、家の看板が「西田建材店」という看板だったので、私も「西田」という苗字を使って行くことになりました。下の名は私は朝鮮の名前しかなくて「トンハク」、まあ「トンハギ」と言つてましたけれども、それで「西田トンハギ」という、ちょっと変わつた形で学校に通つていたわけです。小学校の時は、家も民族意識がない家ではなかつたもので、自分が朝鮮人だということを別に臆することもなく、負い目に感じることもなく、学校に通つております。ことあるごとに日本の友達などにも朝鮮人だと言つてきましたし、そういう意味では変なコンプレックスとかはありませんでした。

しかし中学に入る頃からやはり、自分が朝鮮人であるということは何かちょっと良くないことなんじやないか、何か恥ずかしいことなんじやないかと、そういう意識を持つに至りました。そしてどんどん自分の国籍、自分は朝鮮人であるということを隠す習慣が完全に体質化しまして、それで四、五年間、高校生活までそういう状態になりました。

結局、なぜそのようになつたのかを考えますと、やはり日本の学校での社会科の授業の中でも、やはり朝鮮というものが非常にマイナス・イメージでしか出てこない。断片的に、日本に侵略された時ぐ

らいしか出でこないと。そういうことと、やつぱり社会との接点をどんどん広げる中で、朝鮮人であることは何かしんどいことなんじやないかなということを、だんだん肌で感じていった過程があつたんじゃないかと思います。

私自身もそうなんですけど在日三世は、ほとんど直接的な意味での差別体験はないんじやないかと。まあ中にはおりますけれど、非常に少なくなつてます。更に在日朝鮮人同胞の地域コミュニティがどんどん解体していつてますので、住んでいる地域で朝鮮人と特定されるわけでもないですし、また一世の親を見ても、見るからに朝鮮人という人は少なくなつてますので、そういう意味で日本人もそう簡単に気が付かない、といった状況があります。気が付かれないものですから、できたら気付かれずにいよう、できたら日本人のふりをしていつた方がラクじやないかなと、どんどん「逃げの発想」になつてしまふんだと思います。

そんな私でしたが、高校の二年か三年の時にこの「チョゴリときもの」に一度パネリストとして出られたかと思うんですけど、パク・シル（朴実）さんのことを扱ったドキュメンタリー番組がありました。それを見たことが私にとって名前の問題とか、朝鮮人として堂々と生きていくべきだとか、そういうことを非常に考えさせられる、大きな契機となりました。そこらへんから真剣に、自分がどう朝鮮人として表現していくのか、というか、それを日本人にも知らせるのかとか、そこらへんのところを真剣に悩むようになりました。しかし高校時代は自分が悩みながらも、朝鮮人だということを一部の人間を除いてついに最後まで人におおっぴらに言うことはできませんでした。

私の中でいろいろ葛藤があつたんですけども、その中の一つに、今から考えると「逃げの論理」なんですけど、これからは民族とかにこだわる時代ではない。もう世界が一体化している時代なんだから、あまり民族にこだわらずに、一人間としてしつかり生きていつたらいじやないかと。だから敢えて民

族的に肩肘張ることはないんだと、日本人のままでいようとする私の心の中のある部分が、そういうふうにずっと主張し続けました。そんなこともあって高校時代は結局、日本名で過ごしました。

そんな私も大学に入つて、在日朝鮮人の学生団体（今も私は専従として残つてますが）に触れることがよつて一大転機を迎えました。ずっと、このままいいのかという気持ちは高二ぐらいからくすぶつてたんですけど、やはり大学での、そういうサークル活動での先輩とのふれあいの中で、やはりこのままでダメだ、という思いを決定的にしました。また多くの、同じような悩みを持つて、同じような立場にいる在日朝鮮人の学生、先輩や同輩たちと交流を持つ中で、そういった人たちが、私がそうあらねばならないという生き方を実践されている姿を見て、非常に勇気づけられることがありました。そういうことを通して、大学一年の秋頃に自分の名前を「西田」から「キム（金）」に変えることになり現在に至っています。

その名前を変えた時のエピソードとして、ちょっと聞いていただきたいことがあるんです。私が中学時代から仲良くしていた日本の友達がいまして、私が大学の一回生の秋に名前を変えようと決心した時、その友達に「自分は在日朝鮮人で、本名はキムというので、これからはキムで大学に通おうと思う」とその友達に打ち明けたことがあるんです。その時にその友達、中岡君といふんですけど、中岡君は僕に対し、「お前は日本で生まれたんだろ。これからも日本に住んでいくんだろ。」「そうだ。たぶんそうだ。」そういう問答のあとに、「そしたら、そのままの西田でええやないか」と、非常に同情的なニュアンスで言いました。その時に、ある程度その時点では僕なりにいろいろ考えが固まつてたので、ショックがありました。その友達は本当に善意で、友情からそういう言葉を発してくれてるんですけど、僕が例えばアメリカ人であつたら、フランス人であつたら、彼はそういうふうに言うだろうかと、そういうことをその時に考えざるを得ませんでした。ですから日本人の目からも、朝鮮人であるということはしんど

いことだから、日本人のふりをして生きた方がいいんですよ、そう言わせているこの現実、また僕自身のありよう、そういうものに対して非常に大きな、怒りとまではいきませんけど、愕然とするものを感じざるを得ませんでした。それ以後、おおげさに言つてみれば私はそういった現実というか状況を打破していくために、変えていくために、活動していきたいと思つて今日に至つていると言えるかもしません。

今、ざつと私の例を申し上げましたが、多くの三世、私より何年か上の世代からいま大学に通つているほとんどは在日三世ですけども、民族学校に通つた経験のある一割五分ぐらいを除いて、八割以上の、ずっと日本の学校に通つてきた在日三世は、同じようなアイデンティティーの危機をそれなりに体験しているんではないかと。また単に過去の体験ではなくて、現在も危機的状況、むしろ放棄した人間も沢山いるんじゃないかと思います。

一世、二世までは、やはり直接的な被差別体験があつたものですから、やはりそれに対しても闘うしかないとか、自分ら同胞たちで団結するしかない、そういう発想になりやすかつたと思います。しかし日本社会、戦後五十年を超えますが、それなりに発展ってきて、それなりに人権意識も一定の発展をみた中で、非常に差別がオブラーントに包まれていると言いますか、直接的には受けにくい。その中でともすれば、何とか日本社会、日本人にすり寄つてうまくやつていけるんじゃないか、そういう発想が在日朝鮮人三世の中で生まれているんだと思います。

昔よく歴史小説を読んでたんですけども、日本の城を攻め落とす時に、四方八方、東西南北、全ての門から攻め上ると、その城を守る兵隊たちは死もの狂いで戦う。だから、そういう攻め方をするのではなしに、東西南から攻めても北門は開けておけと。これはよく『三国志』でも出でますし、日本の歴史書でも出てくると思うんですけど。そうなつた時に人間というのは弱いもので、逃げ道があると、

逃げる方向でものを考えてしまいますね。今の在日三世のアイデンティティーの危機というのは、そういう状況から生まれてるんじゃないかと思います。

私はだから直接的な差別体験をさせてほしいとか（笑）では当然ないんですけども、人権意識が高まる中で、いろんな選択肢、もしかしたらすり寄つて生きていけるかもしけんというのも、結局は当人たち自身の生き方が問われると思うんですね。それでは私は私なりにそれから逃げようというのではなく、それと闘う、闘うというと大げさですけど、それと向かい合つ生き方をしようと思ったんです。

けれども今、非常に悲しいことに、そういうことを考えるだけの余裕というか、そういう条件を与えられている在日朝鮮人三世は少ないと思います。経済的には全体として豊かになつてきてると思いまが、やはりそういう民族的な地域コミュニティが崩壊し、親である一世の世代も、極端な差別体験の中から、やはりなんとかうまく生きていく方向で子を導きがちになるといった状況もあります。また、日本社会の人権レベルも上がつてるとは思うんですけど、民族教育に対しては、日本政府が徹底して押さえ付けている現状において、しつかり自分たちの問題を考えしていく機会を奪われているのが在日三世じやないかと思います。

去年ですか、ある文章を読んだんです。ソヌ・ハゴンという在米の朝鮮人学者がこういうことをおっしゃつてました。在米の、ある研究家の研究を取り上げてられたんですけども、アメリカにいるマイノリティ、少数民族のエスニック集団ですね、たちの中での社会調査によると、自己の出自、自民族、自己の種族、そういうものに対して自信・自負、そういう自意識をしつかり持てない人たちというのは、その自負・自意識をしつかり持つた集団と比べて、経済的な意味が中心かと思いますが、社会的成功率が非常に低いらしいんです。民族に対して、自分なりにプライドというか自意識を持つていてる人の方が社会的に成功していると。そういう統計が出ているそうです。

私はその結果に対し「なるほど」と思うところがあるんです。私たち在日朝鮮人が、自分たちの出自や自分たちの民族のありように対する、全て避けていこう、こういう現実からは逃避しよう、という発想でいきますと、つい物事の考え方が後ろ向きになる。自己の主体性をほとんど失っていく。そういうことがあらゆる面で悪影響を及ぼしうるんじやないか。そういうことはある程度言えるんじやないかと思います。

確かに、今まで一世、一世の置かれてきた状況と、今の状況は、自己のアイデンティティを表にしていきにくい社会であるという意味において未だに変わりませんが、やはりそういった「心の芯」というのを持つて生きることが、私たち自身のためにもなるんじやないかと思います。

私は今いろいろ民族的な活動を続いているわけですが、このアイデンティティの危機を克服するために、まずやらなければいけないこととして、民族教育の問題があると思つております。先ほど申し上げましたように、今、民族学校に通つている学齢児童の数はだいたい一割五分だと言わわれています。それには様々な理由があるでしようけれども、やはり大きな理由の一つとして、民族学校を出ても、国立大学を受験することができない。また民族学校に行くと、非常に財政的負担が親御さんにかかるてしまふ。その他、資格取得においてもいろんな問題がまだ残つております。ですからそういうことを取り除いて、民族学校がもつと発展できるような状況を日本政府はじめとしてこの日本は作るべきでしょう。また八割五分が通つている日本の学校教育現場においても、仲尾先生をはじめとして、いろいろ取り組まれている先生は増えてきていくとは思うんですけど、まだまだそういう取り組みが決定的に少ないので、それをなんとか増やしていくつてもらえるように働きかけていきたい。また私たちなりに日本の学校にも出かけて行つて、民族文化とか芸能を披露したり、いろいろな話をして、そこにいる在日朝鮮人を勇気づけてあげたいし、また多くの日本人に対して朝鮮の文化や歴史、私たちの存在についての理解を

求めていきたいと思っております。

また、「アイデンティティー、アイデンティティー」と何遍も申し上げましたが、今、在日朝鮮人の若い世代を中心にアイデンティティーの持ち方として、朝鮮人であるということは認めながらも、もう祖国との関係というのをあまり考えずに、とりあえず朝鮮人として差別されんように生きていこうという発想も多くなっていると思います。それをヒシヒシンと感じますけど、私は本当のアイデンティティー、民族意識の持ち方として、祖国の問題というものを抜きには考えられないと思います。確かに、在日している期間が長いものですから、祖国の人たちと同じような感性とか感覚を持つてているとは言えないと思います。しかし、朝鮮の近代以降の歴史を考えますと、やはり祖国とわれわれ在日のありようというのは、分けて考えられる関係ではないと思うんですね。非常に密接につながっている。祖国はいま分断された状況ですけど、それを分断している力というか論理、それと在日朝鮮人を制度的にも差別し続けている論理というのは、根底でつながっているんじゃないかと思うからです。

また最近、戦後補償の問題で、戦争責任の謝罪とか補償の問題で、よく日本の中いろいろな議論が飛び交つてますけれども、やはり日本は戦後補償といったことをこの何十年間ずっとほつたらかしてきた問題があります。それは日本の戦後において、平和とか民主主義とか、そういう普遍的な非常に大事な概念が声高に呼ばれてきたわけですが、日本人として、過去にどういうことをやつてきて、それが現在にどうつながって未来につながるのか、そういう発想が、平和と民主主義という美名の下に忘れ去られてきた歴史があるからこそ、戦後五十年経つた今になつてそういう問題が噴出してるんだと思います。ですから日本人にも、日本人としてのありよう、その責任も含めて、そういうものを真剣に考えてほしい。でもそう考えた時に、私たち朝鮮人としても、自分たちの民族のありよう、そういうものの責任を持つしていく必要があるんじゃないかと。当然在日してるので、祖国にいるほど直接祖国の情勢には

関われないかも知れなけれども、やはり朝鮮人としての誇りなり意識を云々するのであれば、そこら辺の問題というのはしっかりと見て、また考え、何らかの形で関わっていこうという志向性が必要なんぢやないかと。それなしに、日本人の人に対してだけ「日本人として責任を取れ」とか云々は言い切れないんじゃないかと思つてます。

私自身、大学に入つて多くの朝鮮人の先輩にも育てていただきました。また教えていただきましたけど、日本の学生運動をしているような人たちに非常に多くのことを教えられました。私は大学一回の時に「朝鮮文学研究会」というところに入ったんですけど、そこによく出入りしていた日本の学生運動とかをしている人がいたんですけど、私以上に朝鮮のことを詳しく知っていました。朝鮮の今のありよう、南北のありよう、在日のありように対し、深い関心と問題意識を持つておられました。私はその人に對していくも、なぜここまで朝鮮問題に関われるんだろう、考えられるんだろう、という疑問をずっと持つていました。それについては付き合つていく中でいろいろわかつてくることがあるんですけども、結局その人たちとは、本当に日本人としての誇りを持ちたいから、本当の意味で日本を愛してるからこそ、日本が深く関わってきた朝鮮の問題に、目をつぶつていられないんだと、そういう感覚をその人たちには持つておりました。そういう人たちの姿を見る中で、私は朝鮮人であるのに朝鮮の問題から目を背けていた。大学へ入る前とか入った当初の頃は。そういう自分を顧みざるを得なくなりました。そういうことの連續の中で、私はやはり朝鮮人としてどうあるべきかというのを考えできましたし、これからも考えていきたいと思つています。まとまりのない話を長々とすみませんでした。以上です。

仲尾 ありがとうございます。具体的なキム・ドンハクさんの体験の中から、非常に明晰に今の課題を提示されたように思ひます。

特に私はお聞きしていくいつも思うことです、確かに私たちは戦後、平和とか民主主義とか、そういうことが大事だということを知つて、そのために運動もしてきたり、それなりの成果があつたと思いますが、その時はやはり、日本人だけの平和、日本人だけの民主主義を追求してきましたんじゃないか、という反省を私自身しております。そういう意味で、日本社会の中に異なった民族的なアイデンティティーを持つた人がいて、その人たちの人権がどうなつてゐるのか、ということが少しずつ人々の間に知れ渡ってきたというのは、ほんのここ十年ぐらいのことではないでしょうか。戦後五十年の中で、最初の四年ぐらいはほとんどそういう問題として考えていなかつた。これが私自身の大きな反省でありますけれども、そういうところも含めてお話をいただきました。

それともう一つ。今日キム・パマンさんもおっしゃいましたけども、在日ということを自分が親から知らされたり、自分が気付いた時に、それがまずマイナスのイメージとして自分自身が捉えてしまつたと。これは恐らくキム・パマンさんだけではなくて、多くの在日の方のご経験でもあると思うんです。私もある若い人に聞いたんですが、親から外国人登録の問題もあるので、「俺たちは韓国籍だから登録に行け」と言われた時に、その若い青年がなんと思つたかというと、「これはヤバイことになつたなあ」(笑) というふうにまず思つたそうです。そういう感覚で受け止めざるを得ないのは、彼が、自分が行つていた学校の中や、韓国・朝鮮というイメージ、あるいは在日についてのイメージが、どのように日本人の間で広がつてゐるのかが反映してると思つんですね。

そういうことで今、キム・ドンハクさんがご自分の体験として、大学へ行くまでそうだった、在日との出会いではじめてそれが変わつてくることがあつた、ということをおっしゃいました。キム・パマンさんの場合は、そのマイナス・イメージを自分の心の中で転化していくという原動力になつたのは何だつたとお思いになりますか。

金巴望 現実が見られるようになつた時に初めて転機がおとずれるように思えます。私の場合の現実とは逃げようのない事実。それとやはり文化なんですね。特に美術の素晴らしさ。どうして日本人が白磁とか高麗青磁を絶賛するのかということを知るまでは、何の材料もないんです。自分が朝鮮人である、韓国人であるということをプラスにする何の材料もなかつたと言えます。美術を通して、昔はこういうものを作り得たという文化が現実に残つているという事実。その素晴らしさは、理屈を越えてドーンと入つてきましたね。そういう意味では私の場合、人ではなくて文化財、美術でした。

仲尾 ありがとうございました。因みにキム・パマンさんは高麗美術館の主任研究員兼事務局長をされております。そういうことでキム・パマンさんの場合は、モノとの出会い、文化との出会い。キム・ドンハクさんの場合は人との出会い。これが大きな転機になつたということで、非常に対照的なお二人の体験だつたと思います。

一世のチャン・オモニの場合は、もちろん一世でいらっしゃいますから、そういうことはそもそもあり得ないんですが、先ほどからお話を聞きしますと、西院という地域でご主人、という言い方はよくないかと思いますが、お連れ合いさん共々、解放前、日本の敗戦前から地域で防犯あるいは補導の役員をしておられたというわけで、そういう点で地域の方と非常に早くから溶け込んでやつておられて、お話を聞いてみると、自分が朝鮮人として日本に渡つて来られた当時は、今と比べものにならないいろんな差別があつたと思うんですけども、その辺のところをマイナスと考えないで、どのように頑張つていこうというふうにお思いになつたか。あるいはその中でどんなご体験があつたか。一つ、二つお聞かせいただければ有り難いと思うのですが。

張　さつきも申したように、協和会の会合に行つたら、みんな朝鮮人の役をしている奥さんも、きもの着てくるんですよ。（着付けが）ヘタだしジジクサイのに、私がチマ・チョゴリをちゃんと着て行つたら、一人の奥さんから「朝鮮の服を着てきた」と言つて批判されました。その時私も、気性がはつきりして、「朝鮮人が朝鮮の服を着て何が悪い！」言つて反発したんです。そしたら奥さんは「カネミツさんの奥さんとはうつかりしたこと言つたら大変なことになる」と言つて、あとから文句言う人はおりませんでした。でも個人たちはみんな仲良かつたんです。だから主人がそんな役をイヤでもやらされ、また私も無理にでも引っ張られてやつたから結構、個人としてはそうイヤな思いもありませんでした。でも在日の人権に関わる日本のいろんな政策で、終戦になつてから国連へも行きました。このタイトルにも書いてある「指紋押捺拒否」で行つて、そのテレビにも出て歌いました。だからいろいろな差別が法的にあるんですよ。

子どもは学校でいじめられたかどうかあんまり親に言わないからわかりませんけど、子どもも孫も、みんな友達が多いです、今でも。私がこんな性格なので孫の友達は、「カネミツさんとこに行つたらおばあちゃんにちゃんと挨拶せなあかん」と言われたらしくて、「おばあちゃん、お世話になります」と小さい子に言われたら、まあなんと可愛い、というよりびっくりするんです。

一応、私たちも日本に永住して、さつき一世の方がおつしやつたように、今でも韓国へ行つたら友達はあるし、同窓会もあるし、言葉も文字も一つも不自由しません。でも、やっぱし日本で、京都で死ぬということを覚悟してますから、うちらの子どもや孫が韓国へ行つて暮らす筈がないんですよ。これは私ら日本の同じ町内に六十年も住んだら、全く京都人になり切つてるんです。だから孫らも家の家風でそうなつてるので、いろいろな職業、まだいろいろ個人差もありますけど、ちょっとでも皆さん町内と仲良くし、また國同士が仲良くして、そして私らももっと誇りを持つて生きたいと思います。以上です。

仲尾 ありがとうございました。やっぱり一世の方は「肝つ玉かあさん」。すごいですね、最初から（笑）。「朝鮮人が朝鮮の服を着てどこが悪い！」と、そういう開き直りというか（笑）、その肝つ玉で偏見を吹き飛ばしてしまったと、そんなことがおありになつたということがありありとわかるお話でした。

私なりに今、気付いたことをお尋ねいたしましたけど、これから皆さん方もいろいろお尋ねになりたいこと、ご感想があると思います。それでいつものようにお手元に配つてあります質問用紙に、質問やご意見をこれから書いていただきます。それを整理して休憩の後にまた三人の方にお答えいただくことになりますので、もし、誰々にということがあれば、お名前を最初に書いていただきたい、特になければなくてもいいんですが、ご質問を書いていただきたい、これが一つの今日のパネリストへのアプローチの方法です。

もう一つ考えております。それは第三部です。第三部は交流会ですがこの交流会の時に、質問用紙に書き漏らしたとか、あるいはもつと小さなことだけどちょっと聞いてみたいという方がいらっしゃるかと思います。第三部の交流会は、在日の方々と日本人の方々が自由に交流する中で意見を交わしていくだく、そういう機会としておりますので、第三部では在日の方は赤いリボンを付けていただきます。日本人の方は白いリボンを付けていただきます。そうしませんとなかなかわかりませんので、どちらか付けていただいて、それで自由に食べたり飲んだりしながらお話を交わしていくいただきたいと思います。

もちろん在日の方で日本籍の方については、先ほどからも出ておりますように、国籍の問題ではないので、私は国籍は日本だけれども在日であるという方、あるいは若い世代の方の場合、ダブルの場合でしたら自動的に日本籍になっている方が圧倒的ですから、そういう方もご自身のご判断にお任せします。その上で第三部でも自由に交流をしていただきたいと思つております。

特にこれは、この京都市国際交流協会の特別の計らいで、無料でパーティーに参加していただけます

(笑)。日本人も在日の方も市民税をたっぷり払つてゐるわけですから (笑)、今日はその一部を取り戻すつもりで (笑)、今いらっしゃる方が一人残らずご参加いただけたら有り難いと思います。ご案内傍々、そういう二通りのアプローチの方法があるということで、休憩に入らせていただきます。

張 先生、うちの嫁の西院学区のPTAの友達と婦人会から、先生とパネリストに花束を持ってきておりますからもう一つください。どうぞ拍手してください。(拍手)

仲尾 (花束贈呈) どうも、ほんとに思わずプレゼント、感激の至りです。どうもありがとうございました。

それでは只今から四時十五分まで休憩させていただきます。十五分に締切りまして、整理して、もう一度このセッションを開いたします。

第一部の一

質疑応答

仲尾 それではセッションを開いていただきます。大庭沢山のご質問、ご意見をいただきました。全部答えられるかどうか、あまり個別の問題については、むしろ交流会でお尋ねいただいた方がいいようなこともあるかと思いますので、そのあたりは私が適当に整理させていただきながら、皆さんのご質問、ご意見を紹介していきましょう。

パネリストの方々にはコピーをお渡ししておりますが、十分に読んでいただいている時間もないのに、

私がゆっくり読み上げますので、それを聞いて即答していただくという大変厳しい状況ですけれども、お答えいただけたらと思います。

まず、簡単なお答えが出そなところから参ります。

一、「張さんにお尋ねします。民団支部があちこちにありますか、日本人にはどうも入りにくいです。質問がある時は、行つて聞きたいと思うのですが、構わないのでしょうか。」

張 構わないですよ。京都に支部が十六ヵ所あります。皆さん、いつでもいらっしゃってください。そして本部が家庭裁判所の西側にありますから、みんな日本語も達者ですし、少しでも皆さんのお役に立つということを前提に活動していますから、どうぞまた訪問してあげてください。

仲尾 それともう一つ。

一、「日本人との交流会はあるのでしょうか。」

張 あります。日韓親善協会というのは、もう歴史も古いです。昔、私も一緒に韓国へ行つて、普通行けない所などへも、私が引率していろいろ行つてきました。今もあちらの奥さんと話して名刺を渡していくんですが、婦人会と一緒に行きたい場合はもちろん私も一緒に行って案内します。その場合は、四条の御前通りを一五〇メートルほど下がったところに大きな看板が出ていて、そこを訪問してみてください。秋に日韓文化交流の研修旅行がありますので、普通では行けない所へも行けるし、とて

も料金も安く、素晴らしい民族のいろいろな文化に触ることができます。先に申しましたように、歴代の日韓親善協会の会長さんたちの時は、訪韓団組織をしようと思つても、教科書の問題や指紋の問題でいろいろ苦労がありました。でも今は、いくらでも行けますから。婦人会で主催しても男性も一杯行きますし、大学の先生たちも文化探訪として皆さんいらっしゃるから、是非ともいらっしゃってください。

仲尾 ありがとうございました。それではついでに、朝鮮総連の方でこういった窓口のことについて、もし金東鶴さん何がご存知でしたら、先ほどの質問に関連してご紹介ください。

金東鶴 そんなに深くは知らないんですけども、朝鮮総連の方でも支部が十数カ所にあります。また本部は西大路五条にあるんですけども、そのどちらを訪ねていただいても、対応させていただけると思います。歓迎しますので、是非ともお越しください。

それと朝鮮人と日本人の交流の会というのも、いろいろあります。共和国の方へ一緒に見に行こうといふので、そういう旅行パックのようなものも出でていますし、一つ一つ挙げるときりがありませんので、もしそういう希望をお持ちでしたら、お気軽に電話されるなり、またお尋ねになるなりしていただけたらと思います。以上です。

仲尾 ありがとうございました。次の質問は、どなたにどうことは特に書いてないんですが、私なりに振り分けてお答えいただこうと思います。

三、「ファッショニショーやパネルディスカッションも、どちらも大変素晴らしいものでした。こんなに素晴らしいものは思っていませんでした。在日の人の中でも、韓国系の人と北朝鮮系の人との関係はどうなのですか。」

こういうことを書かれています。それに似たような質問が他にもあります。つまり、在日の方々で国籍が南と北であることによって差別意識はないのかと、こういう関連質問もあります。韓国系、北朝鮮系という表現をとられていますが、これは国籍が韓国籍である、朝鮮籍であるというふうに理解した上で、お答えいただけたらと思います。

まず、張さんは韓国籍で通されてきたわけですが、朝鮮籍の方については、どういうふうに思われていらっしゃいますか。

張 私の家には、私の「張今珠」という表札がかかっています。私は一度も朝鮮人だからといって差別されたり、例えば生活に困ったことはありません。でもやつぱり、子どもたちが就職するとか、対外的にはいろいろあると思います。学校の時でも、私の子どもたちは韓国の中学校に行きましたし、高校はみんな本名で行きました。でも友達はだいたいが日本人です。だから、言葉は字を知っていても理解ができないんです。学校も社会も、みんな日本の社会に住んでいるから仕方ないと思います。でも個人としては、そんなに辛い思いをした経験はありません。

仲尾 いえ、ここでは、韓国籍ではなくて、朝鮮籍の在日の方についての張さんのお考えを……。

張 思想的にいろいろやつぱり……。朝鮮籍は北朝鮮を支持する団体です。私も昔、終戦後はそれ

しかなかつたから入りましたが、思想が違うからいろいろな問題が出てきて分離していって、民団と大韓婦人会になりました。けれど、あちらも同じ民族なので、また近い将来、今度の韓国大統領の政策で、もつと四者会談などいろんな面でスムーズに行くのじゃないかなと期待は持っています。でも一つ、北朝鮮におられる同胞は、やっぱりニュースを聞くことが日本よりは少ないと思います。これは政策的に。日本は世界でも情報が発達している国なのに、団体で組織の民団と総連といつたら、一つも変わりません。これだけは不思議なことだと思っています。でも同じ民族ですから、お互いが繁栄して行かなければならぬし、日本の方には迷惑を掛けないように、一応みんなが眞面目に生きていきたいという、これが私の母心です。

仲尾 ありがとうございました。祖国の分断が在日の組織の分裂も生んでいるという、大変悲しい現実ですね。

張 だから不思議でならないのは、北朝鮮の国内では仕方ないですよ、ニュースが分からぬから。でも、日本だつたらテレビでも新聞でもニュースをやつていて、一つも変わりません。そこはそこと考えてやるから、私が何か言つても仕方ないんですが、今は仲良くしたいから、二、三言いたいことがあるつても言えません。

仲尾 ありがとうございました。では金東鶴さん、朝鮮籍ですつとこられて、韓国籍の方への思いがあればおつしやつてください。

金東鶴 まず、「朝鮮」籍、「韓國」籍で北だ南だと、そういう分類をされがちなんですけれども、もともと外国人登録証明書の「国籍」欄には在日朝鮮人の場合、「朝鮮」という記載の仕方しかなかったわけですね。それが祖国の分断が確定するとともに、「韓国籍」というものが出てきて、「朝鮮」と記載されているのは朝鮮半島出身という記号にすぎないと、日本政府は公式的な立場ではそう言いだしたのです。元々は「朝鮮籍」のみあつたのに、日本が南と友好関係を結んで、北とは敵対と言いますか無視するような関係をとつてきましたので、「韓国籍」だけ認めると。そうしててきた経緯があるわけです。ですから、元々「朝鮮籍」しかなかつたものを、イコール北朝鮮とする考え方というのは、本来的には間違っていると思うんです。

また、一九六五年に日本は韓国だけと条約を結びましたね。その時に、「韓国籍」を取れば日本で永住権を保障するとか、国民健康保険を持つことができるようになると、一方で、「朝鮮籍」を持ち続けている人に対しては、一切そういう恩恵は与えないというような政策をとつてきたわけです。ですから、韓国の政権にシンパシーを持つが故に「韓国籍」に変えた方だけでなくシンパシー云々関係なしに、日本により安定した地位というか、生活権を得るために、「韓国籍」にされた方も沢山いるんです。そこら辺のことを抜きに、ただ単に国籍をもつて北だ南だという見方は無理があるかと思います。

まず、それを前置きとしまして、私の親戚の中にも「韓国籍」の者がいます。私は「朝鮮籍」ですけれど。親戚の中にも両方いますし、結婚も「朝鮮籍」「韓国籍」の間でされることも多いですし、そういう意味では、在日朝鮮人の社会にとつて、あまり決定的な溝になつていないのでないかと感じます。六十万も七十万もいるですから、いろんな思想、信条、考え方を持つた人がいますので、中には「朝鮮籍」とは相いれないとか言う人はいるかもしませんが、それは本当に「く僅かなんじやないでしょうか。基本的には同じ民族なんだという同族意識を持つており、仲良くしていこうというような思考を

持つてゐると思ひます。

それと後一つだけ付け加えますと、ここ数年前に教えていただいたんですが、実は日本は世界の分断国家に対し、基本的にはその国籍を統一的に扱うということを、他の国に対してもはしてきてるらしいです。かつて分断国家であったベトナム、そしてドイツに対しても、南ベトナムだろうが北ベトナムであろうが、日本国内にいる人に対しては「ベトナム」籍を通しましたし、ドイツにしても東、西関係なしに「ドイツ」としてきました。現在も中国、台湾は分裂していますけれども、統一的に「中国」国籍しか日本では作っていないらしいんです。日本は、国が分断されているという特殊状況を配慮して、そのいずれにも与しないという形で、分断を助長するような形には関わらないという立場を堅持して、統一的取扱いをしてきましたし、今も中国に対しではそうだということです。しかし、朝鮮半島に関するのみ、「韓国籍」・「朝鮮籍」と二つの国籍、表記を用いてきたということなんですね。私たちは、当然分断よりも統一、団結を望みますので、やはり日本政府も本来そういう取扱いをすべきだと思いますし、今からでも、再考の余地が現実にあるかどうかは別として、そうあってほしいと考えております。

仲尾 ありがとうございました。制度の問題を含めて、明快に答えていただいたんですが、一つだけ付け加えますと、韓国・朝鮮籍の方々が在留資格として一本化されたのは、九一年から後なんです。入管特例法を改正してそうしたんですが、それまでは在留資格も違つたということがありました。それから国籍という表示ですが、日本政府は韓国とは国交があるということと、韓国の国民であるということは認める立場ですが、北朝鮮とは国交がないから朝鮮というのは国籍でなく記号であると、そういうことを法務省は未だに言つております。そういうことがありますので、東鶴さんが最後に言われたように、日本政府がちょっと悪い言葉で言うと、分断というのを利用してゐるんじやないかと、そういうような

」とも感じております。これは私の個人的見解です。

それから、金田望さんにお答えいただきたいようなことが、いくつがあります。読んでみます。

四、「韓国では、日本文化、本、映画などの紹介が限られているようですが、キム・デジュンさんはそれを解禁すると言われています。日韓の理解を深めていくためにも、これは不可欠なことだと私は思いますが、どう思われますか。」

それと関連して。

五、「私は韓国に今までに三回行つたことがあります。現地の人との触れ合いも、ある程度経験したことあります。そしてテレビや新聞の報道なども通して思うのですが、韓国的人は日本に占領された記憶が全ての基礎になつていて、ワールドカップのサッカーを見ても、物凄いコンプレックスの存在を感じるということ。日本は戦争に負けて軍備をアメリカに頼つて从此完全に家父長制が崩れ、お金だけがプライドになつていて、今の少年たちの犯罪多発の原因になつていて、そういう面から言つて、日本へのコンプレックス、北朝鮮との緊張感、あるいは儒教の影響、これらのどれが大きく作用しているのかわかりませんが、韓国社会を羨ましく思います。韓国でも少年犯罪は多いのでしょうか。もし何かご意見があればお聞かせください。」

これは、在日として韓国社会のことをそんなによく存知でないと思いますので、ちょっと無理な注文かと思いますが、もし後の方のことについてもご意見があればおっしゃってください。

金田望 このアンケートをいろいろ読みまして、さつきから頭痛がしております。どれだけ答えられ

るか分からぬんですが……。キム・デジュンさんが文化の解禁をされる。それは日韓の理解を深めていくためにも不可欠だということは、私も本当に大賛成です。と言いますのは、文化というものはその国、その地域の歴史そのものなんですね。例えば、韓国、朝鮮、そして日本と、気候風土の全く違うところで生まれ育つた人間が、永い年月をかけて生活の中で作りあげてきたものが文化なんです。ですから、日本と韓国、朝鮮の違いを知ろうと思えば、まず文化の違いを知らないと理解できない。お互いの違いを理解しないと、相互の理解や信頼を築きあげることは絶対にできないと思います。ですから、私もどうして禁止しているのか理解できない。この解禁については大賛成です。

それからもう一つのご質問ですが、「日本に占領された記憶が全ての基礎」にはなっておりません。「ワールドカップのサッカーを見ても、物凄いコンプレックスの存在を感じる」とおっしゃるんですが、このコンプレックスというのは私には理解できません。確かに日本に占領されたことに対する複雑な思いがあります。それはあるんですが、よりよい交流をするにはどうしたらいいかということを考える人の方が多いんですね。この方の場合、たまたま会われた現地の人が、そういう意識の強い人であったのではないかという気がいたします。そういうことで、全く基礎にはなっていないと私は思います。

韓国の少年犯罪については、私はその辺の情報は得ておりませんので、お答えしかねます。

仲尾　ありがとうございます。それでは、儒教の社会のこととも書いてありましたので、この辺はやはり張今珠さんにお願いいたします。

張　韓国は長い儒教の習慣があつて、私は日本に来て六十年になりますが、まだ儒教が残っています。家の法事などは、全く六十年前の韓国式そのままやっていて、子どもらも抵抗しないで一緒に協力して

くれます。韓国は昔、今でもそうですが、男性が子々孫々、大事にされました。だから養子をもらうのも、従兄弟、はとこから男の子はもらつても、娘はもらわれなかつたんです。日本みたいに娘を養子にもらう制度はありませんでした。だから、例えば家でもおじいちゃん、お父さん、長男はお膳で、韓国では食事の時、男性には一人一人にお膳をするんです。お母さんよりも孫の男が大事でした。今でも韓国では、親の前とか長老の前では、タバコはもちろんのこと、お酒も飲めません。都会は大分アメリカナイズされて、ソウルなどは京都よりもっと派手になりました。でも田舎では、例えば慶尚北道、忠清南道と言つたら、昔の習慣が残つています。ですから、お父さんの前では、今でもソウルの人でもタバコはすいません。お酒も横を向いて飲むことはあつても、前で飲むことはありません。だから、日本の方が親の前でタバコをすうのなんか見たらびっくりします。

それと今、旅行の話が出ましたけれど、私から皆さんに一つ是非とも言いたいことは、韓国へ行つたら言葉は一つも不自由しません。どんな田舎へ行つても、例えば、サービス業、ホテル、食堂、みんな日本語が上手です。この間も、プサンの総領事館の段取りでこちらの文部省の招待で、プサンから二十人やつて来たのですが、みんな日本語の弁論大会とか検定試験で優秀だった人で、私は自分の発音の下手なのが恥ずかしいぐらいでした。だから、韓国へ行かれても言葉には不自由しません。特にホテルなんかは、どんな辺鄙なところでも、みんな日本語で通りります。そして物を買うところでも、全て日本語で通ります。

それから日本に昔ひどい目にあつたとかいうことは、もう先ほど話しましたので申しません。けれど終戦になつて、李承晩時代の学問は小学校から大学まで、なにしろ植民地。例えば香港が九十年で返還されるのとは政策が全然違いました。私もその時は韓国におりましたけれど。同化政策だったから、言葉は使つてはいけない。学校に行つてゐる時、朝鮮人なのに朝鮮語は週に一時間だけでした。私は、

今はこんなに変な日本語ですけれど、来た時はみんながびっくりするぐらい標準語が上手でした。あの頃は学校行つて門に入つたら、みんな日本語だつたんです。例えば役所の長とか、学校の校長も警察もみんな日本の方だし、学校も半分以上が日本の先生でした。日本の政策が、完全に日本の同化政策で、韓国をなくすためのものだつたから、李承晩時代に過去の教育で日本が悪い悪いと言いましたので、その時の教育を受けた人は今もちよつとそんなのがあります。でも今度の大統領は、私と同じで日本の教育を受けているから日本語も上手だし、今度は、日韓、韓国と北朝鮮の関係も良くなると私は期待しています。以上です。

仲尾 ありがとうございました。それでは次に進ませていただきます。

六、「チョゴリの着付け方を知りたかった。このフォーラムが必要な限り、在日と日本の関係がスムーズに行かない世の中なのだろう。朝鮮の歴史、日本との関係に関心を持つています。フォーラムを続けてください。」

これは、京都市並びに協会へのご希望ですね。紹介させていただきます。チョゴリの着付けについては、交流会の中で、ファッショントリニティに出られた方に直接お聞きいただければと思います。それから「金田望さんに」とあります。

七、「いつも李朝茶碗についてのコラムを読ませていただきいています。言いくらいことかもしけませんが、在日から見た茶道の家元制について、その排他性についてどのように思われているか。二十一世紀に向けて茶道がどのようにあるべきか。お教え願えませんか。」

「これは真剣なご質問なのはわかりますが、主題からはちょっと外れますので、これも交流会の中で直接、金巴望さんにお尋ねいただきたいと思います。」

八、「日本では伝統的な行事、文化的なものが受け継がれず、形骸化が進んでいます。韓国では今まで見せていただいたように、きらびやかに、古式豊かに催されているのでしょうか。面白いことから逃げ出す世代に移り変わって、衰退してはいないのでしょうか。」

つまり、伝統文化がどのように保存されているか、どんなふうに受け継がれているかということですが、まず韓国での伝統文化について一言どうですか。」

張 昔は日本みたいに、村とか町とかのものがあつたんですが、終戦後はいろいろな経済的な面でなくなつたんです。けれど、何年かは、地域、地域の伝統文化が復活していると聞いています。

仲尾 そうですか。ありがとうございます。北朝鮮の方はどうでしょうか。金東鶴さん、行かれたかどうかわかりませんが、もしある気付いたことがありますたら、一言お答え願います。

金東鶴 非常に文化面は弱いので、ほとんど分からんんですねけれど。共和国の方は、外来文化、特に西洋文化に対して、その影響はあまり受けず、自民族の文化を発展させていこうと、そういう政策が貫かれていましたので、割合しつかり受け継がれている部分はあるかと思います。ただ、社会主義リアリズムというか、文化論として、社会主義的な考え方の中で一つの指向性が出されたもとで、いろいろ影響はあつたと思うんですが、最近また伝統文化をより掘り起こしていくというような動きもあるよ

うです。ちょっと専門的には研究していませんので、この程度にさせていただきます。

金巴望 確かに形骸化しているといふこともありますけれども、先ほど張さんがおっしゃったように、保存しようという動きは確実に起こっております。それプラス、古式のある様式、行事というのを、むしろ在日の方がまだより守っているんじゃないかという気がいたします。

仲尾 はい、ありがとうございました。これから後はほとんどご意見であります。質問の形をとつて、いるものも一、二あります。具体的なお答えをすぐに期待できるかどうかはわかりませんので、取り敢えず紹介させていただきます。

九、「本国の南北問題について、在日の方々はどのような意識をお持ちでしようか。」

これは統一問題といふことなんですが、もし三人の方でご感想、「」意見があれば、一言ずつおっしゃってください。

金巴望 分かれていて幸せなことはありません。まず文化から言つても、焼き物の窯跡を訪ねる場合、私は韓国へは行けるんですが、北朝鮮へは行けません。韓国籍に切り換えたからです。そういう意味では、研究という意味においても非常に不幸な状況にあると言えます。在日だからこそ、つまり日本と朝鮮半島との関わりを勉強する立場だからこそ、統一してほしい、そう思つております。

仲尾 他の方はいかがですか。

張　ドイツという国は、行つたことがあります。あの国は一歩入つたら、ピシッと背筋が伸びるほど、国民も生活も整理整頓されていて素晴らしいです。でも、統一になつてから、やはり経済的にもあれだけ苦労しているから、それが教訓になりました。昔は私たちの組織でも、演説の時には「統一、統一」と言つたんですけれど、この頃は、ちょっと時間をかけて思つています。お互いが幸せになるために、あまり国民は急がさないと思います。

金東鶴　統一は心の底から願つております。圧倒的多数の在日朝鮮人がそうだと思います。そして統一は一九七二年の七・四共同声明で出されましたように、民族自主の原則、また平和共存の原則、そして民族大団結の原則でなされるべきだと、そう考えております。統一に関しては、私自身も何らかの形で関わつていきたいと思うんですが、やはり日本におります関係上、直接的にはなかなか意味のある働きができないことに忸怩たる思いもあるんです。ただ本日ここで多くの日本の方々に訴えたいのは、日本政府が過去、朝鮮の分断に対し、統一のために寄与はして来なかつたということです。日本政府は分断の状況にのつかつて、ともすればそれを助長するような働きをしてきた部分があると思うんです。ですから、それを克服するためにも、まず国交正常化をまだ結ばれていない共和国との間に実現するべきじゃないかと。それによつて冷戦論理に基づいた日本の対南一辺倒政策を、バランスある政策へ転換していくいただきたいと思っております。私たち民族内部で解決しなければならない問題も当然多いんですが、あえて日本の人々にそういうことを申し上げたいと思います。

仲尾　ありがとうございました。それでは次、少し問題があります。これは日本籍の在日の方々に対する意見です。経過の説明と意見を求めるということですが。

十、「一九八五年の国籍法改正までは、日本人との間に生まれた子どもは、父親が韓国・朝鮮籍ならば韓国・朝鮮人として意識して育てられました。逆の場合は、ほとんど日本人として育てられました。民族団体もそうです。八五年以降は、母親が日本人ならばほとんどは日本人として育てられ、意識化させられています。また今年六月から、韓国の国籍法も父母両系主義として施行されます。」

父母両系主義というのは、父または母が韓国籍であれば、その子は韓国籍であるという、こういうことになります。二重国籍排除の両国国籍法の流れからして、このように日本人との国際結婚で生まれた子どもたちのほとんどは日本国籍となります。現在、日本人との結婚は、百組中八十一ないし八十二組です。そこで質問は、

「国際結婚によつて今後増え続ける日本籍者について、民族としてどう位置付けるのか伺いたいのです。八五年までのわが民族の位置付けは間違つていますが、現在もその傾向が強い。帰化者総数約二十一万、年間約一万人、その子どもも三十万以上いると思われます。」

つまり現在、韓国・朝鮮籍の方は全体で六十万を切つておりますが、それにプラスして今のような国際結婚の結果、生まれた子どもが三十万人別にいるというわけです。

「そこで、国際結婚、帰化等々で増加する日本籍者問題についてのお考えをお聞かせください。」

ということですが、これについては金東鶴さん、金田望さんは、一応先ほどからのいろいろなお話の中でもおつしやつっていますので、張さん、もしお考えがありましたら……。」

張　　いえ、私はもう仕方がないと思つています。

仲尾　お一人はいかがですか。

金田望 帰化した人、日本国籍を取得した人でももちろん人間ですし、金東鶴さんもおっしゃったように、その人が民族としての帰属意識をお持ちであれば、在日朝鮮人であるというふうに思つております。

仲尾 それでは、そういうお答えとしておきましよう。ここから後は全てご意見です。中には質問の形のものもありますので、それから入っていきます。

十一、「金田望さんにお伺いします。日本の社会は成熟していないと言われていますが、具体的にどういうことですか。「在日の現状と未来」というが、それは「日本の現状と未来」ということと相通ずるという金田望さんの論旨は非常に理解できます。ただ、日本の社会は成熟していないというよりは、むしろ日本の少子化という傾向からして、成熟期を迎える前に、ある意味において衰退の兆しが現れていると言わざるをえないと思います。欧米諸国が、アジア経済の再活力化のために日本はもつともっと内需拡大を、と決まり文句のように言っていますが、人口のピークを過ぎた日本にこれ以上の需要の拡大を求めるのは無理です。この辺のところ、金さんのご意見をお聞かせください。個人的見解で結構です。少し質問の論旨が大きすぎましたか。」

まさに大きくなりすぎてしまして、これはどうでしょう。もし何かありましたら。

金田望 そうですね、「成熟していない」ということについてですが、私の言う「成熟」ということ、このアンケートをお書きになられた方とは、ちょっとニュアンスが違います。私が「日本の今の社会が成熟していない」と言ったのは、一つには人間というのは上昇指向を持つていてると思うからです。つま

り理想に向かつて変えていこう、よりよく生きたいという気持ちが本能的にあると思うんですね。そういう意味からしますと、例えば民族が違ったとしても、人間として、あるいは京都市民として、この社会で平穏に普通の人間として暮らしていける社会であれば、その社会は成熟していると言えましょ。そういう意味での理想の社会から転じて、現実を見ますと、明らかに現在も私自身差別を感じる時があります。私が京都の人間として、一体何をしたというのでしょうか。一人の市民として町中に溶け込んで、町内の一員としてちゃんと暮らしております。どうして私が差別を受けなければいけないのか。ましてや私の子どもまで。これは、はかない望みかもしませんが、私の子どもが大きくなる頃ぐらいには、せめてこの京都で、あるいは関西でも日本でもいいんですが、普通の人間として暮らせるような社会が出来れば、これは日本の社会が大きく成熟へ一歩踏み出したと言えると思います。私の親も多分、私の子どもたちの頃にそう思つたでしょう。私も一世として、三世、四世に対してもう思ひます。そう思つといふこと自体が、日本の現実社会が「成熟していない」ということです。後は大きすぎて、とても私の能力では答えられません。失礼致します。

仲尾 ありがとうございました。それでは、次の意見に行きましょう。

十二、「往年アメリカで日本移民が讃えられたことく、礼儀正しい生活態度を示して模範となつてください。」

こういふ意見です。これはもう、張さんが先ほど答えられましたね。

張 一つ申し上げたいんですが、參政権のことを微力ながら応援すると書いてくれた方がありました。

ありがとうございます。

仲尾 次の方のご意見に行きます。

十三、「日本人が朝鮮人差別をしてきたのは、また差別意識が温存されているのは、支配者の思惑があつたと同時に、差別意識を作りだす客観的条件があつた。その一つが、生活習慣、生活意識、代々親から引き継がれている素朴な感情が日本人と異なつてることである。故にそれらを日本人に同化することが、日本社会で安定して暮らすことになる。しかし、それは民族の違いを無視し、今後さらに日本人が民族の違いを認めないと状態を維持させることになる点から言つても、間違いであると思う。世界的に各国が多民族化し、日本も多民族化が避けられない状況を考える時、朝鮮人や他の外国人が民族性の違いを主張することは大切だと思う。しかし、まだまだ差別感情解消への道は遠いと思うが。」

これは、こういうご意見であるということで、ご紹介にとどめさせていただきます。それから、先ほど張さんの言われた参政権の問題について、二つの意見がござります。

十四、「一、二、三世の方が、それぞれの立場で話されるのを聞き、世代と共に日本社会の状況が変わり、それぞれの問題意識も移っていることを実感すると同時に、それでもなお法的に差別が正当化されている現状には、ほとんど何の変わりもないことをつくづく恥ずかしいことだと思いました。選挙の度に平気で棄権する日本人を見て、複雑な思いだと思うという友人に、いつも申し訳なく思いながらも、何もできない自分がはがゆくなります。張さんの言葉、参政権問題を進めているので日本人も応援してほしいとおっしゃったのを聞いて、微々たる力でも、これから私なりに意識を持つていこうと思いまし

た。この会を主催している京都市の現実は情けないと思いません。」

「ういうござ意見です。ただ参政権問題については、別のござ意見も出ております。」

十五、「在日朝鮮・韓国人は、もちろん日本人ではないし外国人です。自治体の政治は日本に任せて、干渉すべきではないと思います。在日同胞は、民族権利は外国人として日本政府および自治体に当たるべきだと思います。」

「ういうござ意見も出ております。それから、その方の他のお二人に対するござ意見も紹介しておきます。

十六、「金田望先生へ。もちろん在日同胞は、日本にいる期間は日本国民と共生しなければなりません。仲良く共生するためには、日本政府が過去、朝鮮民族になした罪悪を反省し清算しなければ、両民族は仲良くなれません。強制連行も認めていないし、従軍慰安婦連行も認めていないし、日朝国交も熱心ではありません。」

それから、金東鶴さんへのござ意見として。

十七、「一国が滅んだ時、同胞は国内に住もうが外国に住もうが、権利になつた。國が統一し繁栄してこそ、海外在住同胞にも未来がある。」

「ういうござ意見であります。それから最後のござ意見です。」

十八、「一世、二世、三世と、それぞれの悩みと問題があることを初めて知った。民族衣装や踊りを見ると、日本の文化のルーツは元は朝鮮半島から来たということが感じられた。」

それから先ほどの参政権のことです。

「これからもお互いを認め合い、尊重し合つて生きていけるよう、少しでも努力したいと思います。
ありがとうございます。」

こういふ意見でした。

以上で寄せられましたご質問、ご意見一応全部紹介させていただき、パネリストの二人の方々からお答えをいただきました。非常に沢山の事柄にわたつて、答えにくい問題もあつたかと思いますが、的確に答えていただけたと思います。また非常に率直なご意見を何通もいただきまして、それもまたこのフォーラムを実り豊かにしてくれたと思います。

ちょうど五時になりました。このセッションは一応これで終わりまして、この後、休憩をはさんで特別会議室へ移つて、交流会の中で意見交換をしていただき、交流をしていただきたいと思います。それではパネリストの方々、会場ご参加の方々、どうも長時間ありがとうございました。

司会　ありがとうございます。

あとがき

日本社会における在日韓国・朝鮮人の生涯を通しての生き方をテーマとした前回に続き、今回は、世代間の思いを語ることに主眼をおきました。

時代の流れとともに変わりつつある社会環境や意識の変化による在日の思いを知るのがその狙いでし
た。

教育、名前、老後生活、そして現状と未来を今回のテーマとして取り上げていますが、これは在日の暮らしの問題であり、日本社会の問題でもあります。

今、第6回目のフォーラムを迎えようとしています。

1992年から始めているこの連続フォーラムの中で取り上げてきたそれぞれのテーマの内容が、回を重ねてもあまり変わらないものにならざるを得ないのは、より住みやすい街づくりを目指す皆の課題でもあります。

今回、文化を感じるためにはじめて開催したチヨゴリのファッショントヨーでは、市主催の事業を通じて民族衣装に誇りを持つて披露することができてうれしかったという話を在日の方に聞きました。少しずつの変化を目指すとともに、在日の問題に皆が関心を持ちながら一緒に考える」ことが、連続フォーラム「チヨゴリときもの」である以上、これからも続けて開催して行きます。

企画の段階で貴重な意見をいただいたコーディネーターの仲尾宏先生と市の関係者をはじめ、当協会からの依頼に心よくパネリストとして語つていただいた在日の方々、そしてチヨゴリのファッショントヨーにご協力いただいたスタッフとモデルの皆様に心から感謝を申し上げます。

(財)京都市国際交流協会 事業課

チヨン チャンブン
鄭 昌根

アジアの風文庫 14

「チョゴリときもの」

在日韓国・朝鮮人～その世代と意識

1998年9月1日 第1刷発行

編集・発行 財団法人 京都市国際交流協会

〒606-8436 京都市左京区粟田口鳥居町2の1

TEL. 075-752-3010

印刷 (株)石田大成社



＊財団法人 京都市国際交流協会
KYOTO CITY INTERNATIONAL FOUNDATION